



Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 6.0.1 コマンドラインインタフェース ユーザーズガイド

- はじめに
 - [omconfig システムまたは servermodule.assetinfo: 所有コスト\(Cost of Ownership\)の編集](#)
- [omhelp コマンドの使用](#)
 - [Storage Management Service\(ストレージ管理サービス\)の使用](#)
- [omreport: Instrumentation Service\(計装サービス\)を使用したシステム状態の表示](#)
 - [CLI コマンド結果の使用方法](#)
- [Instrumentation Service\(計装サービス\)を使用したomconfig: コンポーネントの管理](#)
 - [用語集](#)

メモ、注意、警告

 **メモ:** コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** 注意は、手順に従わない場合は、ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性があることを示しています。

 **警告:** 物的損害、けがまたは死亡の原因となる可能性があることを示しています。

本書の内容は予告なく変更されることがあります。
©2009 すべての著作権は Dell Inc. にあります。

Dell Inc. の書面による許可のない複製は、いかなる形態においても厳重に禁じられています。

本書で使用されている商標: Dell、DELL ロゴ、PowerEdge、PowerVault、OpenManage は、Dell Inc. の商標です。Microsoft、Windows、Active Directory、Hyper-V、Windows Server は、米国およびその他の国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。SUSE は、米国およびその他の国における Novell Inc. の登録商標です。Red Hat および Red Hat Enterprise Linux は米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の登録商標です。Intel、Pentium、Itanium は Intel Corporation の登録商標で、Intel386 は同社の商標です。AMD、AMD Opteron、AMD-V、AMD PowerNow! は Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。UNIX は米国およびその他の国における The Open Group の登録商標です。OS/2 は International Business Machines Corporation の登録商標です。Rambus は Rambus, Inc. の登録商標です。

商標または製品の権利を主張する事業体を表すためにその他の商標および社名が使用されていることがあります。Dell Inc. はデル以外の商標や社名に対する所有権を一切否認します。

2008 年 11 月

[目次ページに戻る](#)

omconfig システムまたは servermodule assetinfo: 所有コスト(Cost of Ownership)の編集

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 6.0.1 コマンドラインインタフェース ユーザーズガイド

- [概要](#)
- [取得情報の追加](#)
- [減価償却情報の追加](#)
- [保証延長情報の追加](#)
- [リース情報の追加](#)
- [メンテナンス情報の追加](#)
- [アウトソース情報の追加](#)
- [所有者情報の追加](#)
- [サービス契約情報の追加](#)
- [サポート情報の追加](#)
- [システム情報の追加](#)
- [保証情報の追加](#)

概要

omconfig system assetinfo または omconfig servermodule assetinfo コマンドを使うと、システムの所有コスト合計を構成する総括的なパラメータセットの編集が簡単にできます。この項では、omconfig system assetinfo または omconfig servermodule assetinfo コマンドで報告および設定可能なパラメータについて説明します。

omconfig system assetinfo または omconfig servermodule assetinfo コマンドを使って、構成可能なオブジェクトを制御する値を設定することができます。assetinfo 設定機能の例にはシステム所有者の設定値、購入金額、有効なリース内容詳細、減価償却方式とレート、システムのロケーション、保証および保証期間の延長、アウトソーシング詳細、およびサービスレベルの許諾書などがあります。

資産情報を追加するために必要なユーザーレベル

パワーユーザーとシステム管理者が資産情報の追加および編集を実行できます。

表 5-1 omconfig コマンドのシステム可用性

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	適用可能
omconfig	servermodule	モジュラーシステム
	mainsystem	モジュラーシステム
	システム	非モジュラーシステム
	シャーシ	非モジュラーシステム

取得情報の追加

「取得」とは、企業によるシステム購入またはリースに関する事実を指します。omconfig system assetinfo info=acquisition または omconfig servermodule assetinfo info=acquisition コマンドを使って、システムの購入またはリースに関する詳細を追加します。[表 5-2](#) は、コマンドの有効なパラメータを表示します。

表 5-2 omconfig system assetinfo info=acquisition/omconfig servermodule assetinfo info=acquisition

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
omconfig					
	system/servermodule				
		assetinfo			
			info=acquisition		
				costcenter=<テキスト>	システムを取得した企業名またはコード。
				expensed=yes no	システムが特定目的、または研究開発部門や販売部門など、特定部署のための経費とされるかどうか。
				installdate=<月日>	システムのインストール日。
				ponum=<n>	システム代金支払いを承認した文書番号。
				purchasecost=<n>	所有者が支払ったシステム代金。
				purchasedate=<月日年>	所有者がシステムを購入した日。
				signauth=<テキスト>	システム購入またはサービスコールの承認者名。
				waybill=<n>	受け取った商品の貨物受領書。

取得情報を追加するためのコマンド例

取得パラメータの値を提供するには、次のようなコマンドを入力します。 **omconfig system assetinfo info=acquisition** <名前=値のペア 2> または **omconfig servermodule assetinfo info=acquisition** <名前=値のペア 2>。たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=acquisition purchasedate=122101
または
omconfig servermodule assetinfo info=acquisition purchasedate=122101
```

次のメッセージが表示されます。

資産情報は正常に設定されました。

すべての「名前=値」のペア 2が同じ「名前=値」のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。たとえば、**info=acquisition** に複数のパラメータ値を入力する場合、次の例を構文ガイドとして使用してください。

```
omconfig system assetinfo info=acquisition purchasecost=5000
waybill=123456 installdate=120501 purchasedate=050601 ponum=9999 signauth="John Smith" expensed=yes costcenter=finance
または
omconfig servermodule assetinfo info=acquisition purchasecost=5000
waybill=123456 installdate=120501 purchasedate=050601 ponum=9999 signauth="John Smith" expensed=yes costcenter=finance
```

次のメッセージが表示されます。

資産情報は正常に設定されました。

減価償却情報の追加

減価償却とは、時間の経過とともに資産の価値を減らしていく計算方法です。たとえば、5年間の耐用年数が期待されるシステムの減価償却は年間 20 パーセントです。 **omconfig system assetinfo info=depreciation** または **omconfig servermodule assetinfo info=depreciation** コマンドを使うと、システムの減価償却を計算する方法に関する情報を追加できます。 [表 5-3](#) は、コマンドの有効なパラメータを表示しています。

表 5-3 omconfig system assetinfo info=depreciation/omconfig servermodule assetinfo info=depreciation

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
omconfig					
	system/servermodule				
		assetinfo			
			info=depreciation		
				duration=<n>	システムが減価償却される年数または月数。
				method=<テキスト>	システムの減価償却計算に使用するステップと仮定。
				percent=<n>	資産の価値切り下げまたは減価償却率(百分率)。
				unit=months years	ユニットは月または年単位です。

減価償却情報を追加するためのコマンド例

減価償却パラメータの値を提供するには、次のようなコマンドを入力します。 **omconfig system assetinfo info=depreciation** <名前=値のペア 2> または **omconfig servermodule assetinfo info=depreciation** <名前=値のペア 2>。たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=depreciation method=straightline
または
omconfig servermodule assetinfo info=depreciation method=straightline
```

次のメッセージが表示されます。

Asset information set successfully. (資産情報は正常に設定されました。)

すべての「名前=値」のペア 2が同じ「名前=値」のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。例は、「[取得情報を追加するためのコマンド例](#)」を参照してください。

保証延長情報の追加

omconfig system extwarranty または **omconfig servermodule extwarranty** コマンドを使うと、保証延長情報に値を割り当てることができます。保証は、製造元または販売店とシステム購入者との間で取り交わす契約です。保証では、指定した期間または使用範囲内でどのコンポーネントの修理や交換をカバーするかを特定します。保証延長は、当初の保証期限が切れた後に有効になります。保証の値の編集方法に関する詳細は、「[保証情報の追加](#)」を参照してください。

[表 5-4](#) は、コマンドの有効なパラメータを表示します。

表 5-4 omconfig system assetinfo info=extwarranty/omconfig servermodule assetinfo info=extwarranty

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
omconfig					
	system/servermodule				
		assetinfo			
			info=extwarranty		
				cost=<コスト>	保証サービスにかかるコスト。
				enddate=<終了日>	保証延長契約の有効期限。
				provider=<プロバイダ>	保証延長サービスを提供する会社。
				startdate=<開始日>	保証延長サービスの開始日。

保証延長情報を追加するためのコマンド例

取得パラメータの値を提供するには、次のようなコマンドを入力します。omconfig system assetinfo info=extwarranty <名前=値のペア 2> または omconfig servermodule assetinfo info=extwarranty <名前=値のペア 2>。たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=extwarranty enddate=012503
または
omconfig servermodule assetinfo info=extwarranty enddate=012503
```

次のメッセージが表示されます。

```
Asset information set successfully. (資産情報は正常に設定されました。)
```

すべての「名前=値」のペア 2が同じ「名前=値」のペア 1に属する限り、複数の omconfig system assetinfo または omconfig servermodule assetinfo コマンドを同時に入力できます。例は、「[取得情報を追加するためのコマンド例](#)」を参照してください。

リース情報の追加

リースとは、指定期間中システムの使用料を支払うという契約です。システムの所有権は賃貸人に属します。[表 5-5](#) は、コマンドの有効なパラメータを表示します。

表 5-5 omconfig system assetinfo info=lease/omconfig servermodule assetinfo info=lease

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
omconfig					
	system/servermodule				
		assetinfo			
			info=lease		
				buyout=<金額>	賃貸人からシステムを購入する場合支払う金額。
				lessor=<賃貸人>	システムのリースを提供する会社。
				multischedule=true false	システム リースのコストが 2 種類以上の料金表によって計算されるかどうか。
				ratefactor=<要素>	リース料の計算に使用する要素。
				value=<残余>	リース終了時のシステムの適正市場価格。

リース情報を追加するためのコマンド例

リース パラメータの値を提供するには、次のようなコマンドを入力します。omconfig system assetinfo info=lease <名前=値のペア 2> または omconfig servermodule assetinfo info=lease <名前=値のペア 2>。たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=lease value=4500
または
omconfig servermodule assetinfo info=lease value=4500
```

次のメッセージが表示されます。

```
Asset information set successfully. (資産情報は正常に設定されました。)
```

すべての「名前=値」のペア 2のパラメータが同じ「名前=値」のペア 1に属する限り、複数の omconfig system assetinfo または omconfig servermodule assetinfo コマンドを同時に入力できます。例は、「[取得情報を追加するためのコマンド例](#)」を参照してください。

メンテナンス情報の追加

メンテナンスとは、システムが正常に稼動し続けるように行う保守作業を指します。表 5-6 は、メンテナンス情報の追加に有効なパラメータを表示しています。

表 5-6 omconfig system assetinfo info=maintenance/omconfig servermodule assetinfo info=maintenance

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
omconfig					
	system/servermodule				
		assetinfo			
			info=maintenance		
				enddate=<終了日>	保証延長契約の有効期限。
				provider=<プロバイダ>	メンテナンス サービスを提供する会社。
				startdate=<開始日>	メンテナンスの開始日。
				restrictions=<文字列>	メンテナンス契約でカバーされない作業。

メンテナンス情報を追加するためのコマンド例

メンテナンス パラメータの値を提供するには、次のようなコマンドを入力します。omconfig system assetinfo info=maintenance <名前=値のペア 2> または omconfig system assetinfo info=maintenance <名前=値のペア 2>。たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=maintenance startdate=012504
または
omconfig servermodule assetinfo info=maintenance startdate=012504
```

次のメッセージが表示されます。

```
Asset information set successfully. (資産情報は正常に設定されました。)
```

すべての「名前=値」のペア 2 が同じ「名前=値」のペア 1 に属する限り、複数の omconfig system assetinfo または omconfig servermodule assetinfo コマンドを同時に入力できます。例は、「[取得情報を追加するためのコマンド例](#)」を参照してください。

アウトソース情報の追加

アウトソースとは、システムの正常運転に必要な保守作業を別の会社に委託することです。表 5-7 は、アウトソース情報を追加するために有効なパラメータを表示しています。

表 5-7 omconfig system assetinfo info=outsourcing/omconfig servermodule assetinfo info=outsourcing

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
omconfig					
	system/servermodule				
		assetinfo			
			info=outsourcing		
				levels=<n>	プロバイダが提供するサービスのレベル
				problemcomponent=<コンポーネント>	メンテナンスを必要とするシステム部品。
				providerfee=<プロバイダ料金>	メンテナンス料金。
				servicefee=<サービス料金>	サービス料金。
				signauth=<名前>	サービスの契約者、または承認者。

アウトソース情報を追加するためのコマンド例

アウトソースパラメータの値を提供するには、次のようなコマンドを入力します。omconfig system assetinfo info=outsourcing <名前=値のペア 2> または omconfig servermodule assetinfo info=outsourcing <名前=値のペア 2>。たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=outsourcing providerfee=75
または
omconfig servermodule assetinfo info=outsourcing providerfee=75
```

次のメッセージが表示されます。

```
Asset information set successfully. (資産情報は正常に設定されました。)
```

すべての「名前=値」のペア 2 のパラメータが同じ「名前=値」のペア 1 に属する限り、複数の omconfig system assetinfo または omconfig servermodule assetinfo コマンドを同時に

入力できます。例のために、「[取得情報を追加するためのコマンド例](#)」を参照してください。

所有者情報の追加

所有者はシステムの法的所有権を有する当事者を指します。[表 5-8](#) は、所有者情報の追加に有効なパラメータを表示しています。

表 5-8 omconfig system assetinfo info=owner/omconfig servermodule assetinfo info=owner

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
omconfig					
	system/servermodule				
		assetinfo			
			info=owner		
				insuranceco=<会社>	システムを保証する保険会社名。
				ownername=<ビジネス>	システムを所有する会社名。
				type=owned leased rented	ユーザーがシステムを所有しているか、リースか、レンタルかの分類。

所有者情報を追加するためのコマンド例

所有者パラメータの値を提供するには、次のようなコマンドを入力します。**omconfig system assetinfo info=owner** <名前=値のペア 1> または **omconfig servermodule assetinfo info=owner** <名前=値のペア 2>。たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=owner type=rented
または
omconfig servermodule assetinfo info=owner type=rented
```

次のメッセージが表示されます。

```
Asset information set successfully. (資産情報は正常に設定されました。)
```

すべての「名前=値」のペア 2 のパラメータが同じ「名前=値」のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。例は、「[取得情報を追加するためのコマンド例](#)」を参照してください。

サービス契約情報の追加

サービス契約とは、システムの予防的なメンテナンス作業と修理にかかる手数料を指定する契約です。[表 5-9](#) は、契約情報の追加に有効なパラメータを表示しています。

表 5-9 omconfig system assetinfo info=service/omconfig servermodule assetinfo info=service

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
omconfig					
	system/servermodule				
		assetinfo			
			info=service		
				renewed=true false	サービス契約が更新されたかどうか。
				type=<文字列>	契約でカバーされるサービスのタイプ
				vendor=<ビジネス>	システムのサービスを提供する企業。

サービス情報を追加するためのコマンド例

サービスパラメータの値を提供するには、次のようなコマンドを入力します。**omconfig system assetinfo info=service** <名前=値のペア 1> または **omconfig servermodule assetinfo info=service** <名前=値のペア 2>。たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=service vendor=fixsystemco
または
omconfig servermodule assetinfo info=service vendor=fixsystemco
```

次のメッセージが表示されます。

```
Asset information set successfully. (資産情報は正常に設定されました。)
```

すべての「名前=値」のペア 2 のパラメータが同じ「名前=値」のペア 1 に属する限り、複数の `omconfig system assetinfo` または `omconfig servermodule assetinfo` コマンドを同時に入力できます。例は、「[取得情報を追加するためのコマンド例](#)」を参照してください。

サポート情報の追加

サポートとは、ユーザーがタスクを実行する際、システムの適切な使用に関するガイダンスを必要とする場合に、システムユーザーが利用できるテクニカル サポートを指します。[表 5-10](#) は、サポート情報の追加に有効なパラメータを表示しています。

表 5-10 `omconfig system assetinfo info=support/omconfig servermodule assetinfo info=support`

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
omconfig					
	system/servermodule				
		assetinfo			
			info=support		
				automaticfix=<プログラム名>	問題を自動的に解決するのに使用するアプリケーション名。
				helpdesk=<テキスト>	電話番号、電子メールアドレス、またはウェブサイトアドレスなどのヘルプデスクまたは連絡先情報
				outsourced=true false	外部の企業体がテクニカル サポートを提供するか、またはシステム所有者の社員がテクニカル サポートを提供するかの選択。
				type=network storage	サポートがネットワーク付属のデバイス、またはストレージデバイスに対するものであるかどうか。

サポート情報を追加するためのコマンド例

サポート パラメータの値を提供するには、次のようなコマンドを入力します。`omconfig system assetinfo info=lease <名前=値のペア 2>` または `omconfig servermodule assetinfo info=lease <名前=値のペア 2>`。たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=support outsourced=true
または
omconfig servermodule assetinfo info=support outsourced=true
```

次のメッセージが表示されます。

```
Asset information set successfully. (資産情報は正常に設定されました。)
```

すべての「名前=値」のペア 2 のパラメータが同じ「名前=値」のペア 1 に属する限り、複数の `omconfig system assetinfo` または `omconfig servermodule assetinfo` コマンドを同時に入力できます。例のために、「[取得情報を追加するためのコマンド例](#)」を参照してください。

システム情報の追加

システム情報には、システムのプライマリユーザー、プライマリユーザーの電話番号、およびシステムの設置場所が含まれます。[表 5-11](#) は、システム情報の追加に有効なパラメータを表示しています。

表 5-11 `omconfig system assetinfo info=system/omconfig servermodule assetinfo info=system`

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
omconfig					
	system/servermodule				
		assetinfo			
			info=system		
				location=<テキスト>	システム所在地
				primaryphone=<n>	システムのプライマリユーザーの電話番号。
				primaryuser=<ユーザー>	システムのプライマリユーザー。

システム情報を追加するためのコマンド例

システム パラメータの値を提供するには、次のようなコマンドを入力します。`omconfig system assetinfo info=system <名前=値のペア 2>` or `omconfig servermodule assetinfo info=system <名前=値のペア 2>`。たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=system location=firstfloor
または
omconfig servermodule assetinfo info=system location=firstfloor
```

次のメッセージが表示されます。

```
Asset information set successfully. (資産情報は正常に設定されました。)
```

すべての「名前=値」のペア 2 のパラメータが同じ「名前=値」のペア 1 に属する限り、複数の `omconfig system assetinfo` または `omconfig servermodule assetinfo` コマンドを同時に入力できます。例のために、「[取得情報を追加するためのコマンド例](#)」を参照してください。

保証情報の追加

`omconfig system warranty` または `omconfig servermodule warranty` コマンドを使うと、保証情報に値を割り当てることができます。保証は、製造元または販売店とシステム購入者との間で取り交わす契約です。保証では、指定した期間または使用範囲内でどのコンポーネントの修理や交換をカバーするかを特定します。保証延長値の詳細については、『[保証延長情報の追加](#)』を参照してください。[表 5-12](#) は保証情報を追加する有効なパラメータを示します。

表 5-12 `omconfig system assetinfo info=warranty/omconfig servermodule assetinfo info=warranty`

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
omconfig					
	system/servermodule				
		assetinfo			
			info=warranty		
				cost=<コスト>	保証サービスにかかるコスト。
				duration=<期間>	保証を強制する日数または月数。
				enddate=<終了日>	保証サービスの有効期限。
				unit=days months	期間の単位が日数か月数かの選択。

保証情報を追加するためのコマンド例

保証パラメータの値を提供するには、次のようなコマンドを入力します。`omconfig system assetinfo info=warranty <名前=値のペア 2>` または `omconfig servermodule assetinfo info=warranty <名前=値のペア 2>`。たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=warranty unit=days
または
omconfig servermodule assetinfo info=warranty unit=days
```

次のメッセージが表示されます。

```
Asset information set successfully. (資産情報は正常に設定されました。)
```

すべての「名前=値」のペア 2 のパラメータが同じ「名前=値」のペア 1 に属する限り、複数の `omconfig system assetinfo` または `omconfig servermodule assetinfo` コマンドを同時に入力できます。例は、「[取得情報を追加するためのコマンド例](#)」を参照してください。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

Instrumentation Service (計装サービス) を使った omconfig: コンポーネントの管理

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 6.0.1 コマンドラインインタフェース ユーザーズガイド

- [omconfig コマンドの概要](#)
- [omconfig コマンドのヘルプ](#)
- [omconfig about](#)
- [omconfig chassis/omconfig mainsystem](#)
- [omconfig preferences](#)
- [omconfig system/omconfig servermodule](#)

omconfig コマンドを使用すると、警告イベントの定義、警告操作の設定、ログのクリアのほか、システムシャットダウンの設定に使用する値の入力や、その他のシステム管理タスクを実行できます。

omconfig 機能の例には、コマンド、警告、ハードウェアログをクリアする、システムシャットダウンを設定して実行する管理者権限、電流プローブ、ファン、電圧プローブ、温度プローブで警告イベントの値を指定したりデフォルト設定するパワーユーザーおよび管理者権限、イントルージョン、電流プローブ、ファン、電圧プローブおよび温度プローブで警告または障害イベントが発生したときに警告措置を設定するパワーユーザーおよび権利者権限などがあります。

omconfig システムコマンドを使った所有権情報のコスト (assetinfo) の表示と管理方法の詳細に関しては、「[omconfig システムまたは servermodule assetinfo: 所有コスト \(Cost of Ownership\) の編集](#)」を参照してください。

omreport コマンドを使って omconfig コマンドの実行に必要な情報を取得しなくてはならない場合が頻繁に発生します。たとえば、温度プローブの警告イベントの最低温度を編集する場合は、設定するプローブのインデックスを知っておく必要があります。そのような場合は、omreport chassis temps または omreport mainsystem temp コマンドを使用すると、プローブのリストとそのインデックスを表示できます。omreport rac コマンドの使用については、「[omreport: Instrumentation Service \(計装サービス\) を使用したシステム状態の表示](#)」を参照してください。

表 4-1 omconfig コマンドのシステム可用性

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	適用可能
omconfig	servermodule	モジュラーシステム
	mainsystem	モジュラーシステム
	システム	非モジュラーシステム
	シャーシ	非モジュラーシステム

パラメータ表の規則

コマンドに使えるパラメータをリストにする場合、パラメータはコマンドラインインタフェースに表示される順ではなくアルファベット順に並んでいます。

記号「 / 」はパイプと呼ばれることがあり、排他的論理和 or 演算子を表します。たとえば、「有効 | 無効」はコンポーネントや機能を有効または無効にできますが、同時に有効と無効にすることはできません。

omconfig コマンドの概要

メモ: 本項では可能な全ての omconfig コマンドを一覧表示しますが、システムで使用できるコマンドはシステム構成に依存します。ヘルプを表示したり、またはシステムにインストールされていないコンポーネントのコマンドを実行すると、Server Administrator はコンポーネントまたは機能がシステムで見つからない旨のメッセージを発行します。

表 4-2 は omconfig コマンドの高レベルな概要です。「コマンドレベル 2」および「コマンドレベル 3」とタイトルの付いた欄には omconfig で使用できる主な引数を一覧表示します。「ユーザー特権が必要」とは、コマンドを実行するのに必要な特権の種類を表し、U=ユーザー、P=パワーユーザー、A=アドミニストレータを表します。「用途」は omconfig を使って実行される操作についての概略です。コマンドの構文と使い方の詳細については、この項で後述します。

表 4-2 omdiaq コマンドレベル 1、2、および 3

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	ユーザー権限必須。	用途
omconfig				
	about		U、P、A	Server Administrator プログラムのバージョン番号とプロパティを表示します。
		details=true	U、P、A	インストールされている全ての Server Administrator プログラムの情報を表示します。
	preferences			
		cdvformat	A	カスタムデミットフォーマット (cdv) のデータフィールドで分けるデミリタを指示します。
		dirservice	A	Microsoft Active Directory サービスを設定します。
		snmp	A	新しい SNMP ルートパスワードを設定します。SNMP Set 操作を設定します。
		useraccess	A	システム管理者レベルの下にいるユーザーが Server Administrator を使用できるかどうかを指定します。

	system/ servermodule			
		alertaction	P, A	イントルージョン、ファン、温度、電圧、電源装置、メモリ、および冗長の警告またはエラー イベントに対処するのに使用する操作を事前に決定します。
		alertlog	P, A	システム管理者がアラートログを表示できます。
		assetinfo	P, A	減価償却値、リース、メンテナンス、サービス、およびサポートを含むシステムの所有権のコストを入力して編集します。
		cmdlog	P, A	システム管理者がアラートログを表示できます。
		esmlog	P, A	システム管理者が ESMログを表示できます。
		events	P, A	SNMP トラップを有効または無効にします。
		pedestinations	P, A	警告送信先の IP アドレスを設定します。
		platformevents	A	特定のプラットフォームイベントで行うべきシャットダウン措置があれば指定します。また、プラットフォームイベントのフィルタ警告 生成を有効にしたり無効にします。
		recovery	P, A	システムがハングの状態にあるオペレーティング システムにどう対応するかを事前に決定します。
		shutdown	A	システムをシャットダウンする場合に、システム管理者がいくつかのオプションから選択できるようにします。
		thrmshutdown	A	温度イベントがシステムシャットダウンをトリガする重大度レベルを設定します。
		webserver	A	ウェブ サーバーを開始または停止します。
	chassis/ mainsystem			
		biossetup	A	BIOS が管理する特定のシステム部品の動作を設定します。
		bmc	A	リモートアクセス情報を設定します。 メモ: このコマンドはこのリリースに廃止されています。これはremoteaccess コマンドに置き換えています。
		fans	P, A	ファンローブ警告しきい値をデフォルトで、または値を指定して設定します。 メモ: 組み込み型サーバー管理 (ESM3) および Dell™ PowerEdge™ x8xx システムでは、しきい値を変更することはできません。
		fancontrol	P, A	ファン速度を、静かさと冷却速度のいずれかを選んで最適化できます。
		frontpanel	A	電源ボタンとマスク可能割り込み (NMI) がシステムに存在すれば設定します。
		info	P, A	管理タグやシャーシ名の初期値を設定したり、値を編集したりできます。
		leds	P, A	シャーシ フォールト LED や シャーシ識別 LED の点滅時を指定して、システム ハードドライブの LED をクリアできるようにします。
		memorymode	A	スベアバンクとミラーリング メモリ モードを有効にしたり無効にしたりするだけでなく、使用するモードも指定します。
		pwrmanagement	P, A	システムの最大電力経済または最適化性能を選択できます。
		pwrmonitoring	P, A	電源消費情報としきい値を設定します。
		remoteaccess	A	リモートアクセス情報を設定します。
		temps	P, A	警告しきい値をデフォルトで、または値を指定して設定します。 メモ: ESM3 および PowerEdge x8xx システムでは、しきい値を変更することはできません。
		volts	P, A	警告しきい値をデフォルトで、または値を指定して設定します。 メモ: ESM3 および PowerEdge x8xx システムでは、しきい値を変更することはできません。
	ストレージ			「Storage Management Service (ストレージ管理サービス) の使用」 を参照してください。

omconfig コマンドのヘルプ

omconfig -? を使って、omconfig に使用できるコマンドの一覧を入手します。

omconfig <コマンドレベル 2>-? を使ってバージョン番号、シャーシ、プリファランスおよびシステムレベル 2 のコマンドについてのヘルプを提供できます。omconfig system -? に関する次の情報は、omconfig chassis コマンドのヘルプにも同様に適用できます。

omconfig system -? を使って、omconfig system に使用できるコマンドの一覧を入手します。

omconfig preferences -? を使って、カスタム区切りフォーマット (cdv) である cdvformat のような、omconfig preferences に使用できるコマンドリストを取得できます。cdv 用のデリミタリストを表示するには、以下のコマンドをタイプします。

```
omconfig preferences cdvformat -?
```

omconfig system <コマンドレベル 3>-? の形式のコマンドを使って、特定の omconfig system コマンドの実行に必要なパラメータを一覧表示します。たとえば、次のコマンドを使って omconfig system alertaction と omconfig system shutdown に有効なパラメータの一覧を生成します。

```
omconfig system alertaction -?
```

```
omconfig system shutdown -?
```

omconfig system alertaction コマンドを使う場合、いろいろなオプションがあるのですべてのコマンドライン インタフェース (CLI) ヘルプがスクロールしてしまう前に読むことができます。

コマンド出力を 1 画面ごとにスクロールするには、次のように入力します。

```
omconfig system alertaction -?| more
```

上の例では、「| more」があるため、スペースバーを押して CLI ヘルプ出力の次の画面を表示できます。

omconfig system alertaction -? コマンドの全てのヘルプを含んだファイルを作成するには、次のように入力します。

```
omconfig system alertaction -?-outa alert.txt
```

ここでの **-outa** によって **alert.txt** と呼ばれるファイルにコマンドの出力を向けます。

Microsoft® Windows®, Red Hat® Enterprise Linux®, または SUSE® Linux Enterprise Server のオペレーティングシステム上で **alertaction** コマンドについてのヘルプを読むには、以下のように入力します。

```
more alert.txt
```

omconfig about

omconfig about コマンドを使って、システムにインストールされているシステム管理アプリケーションの製品名とバージョン番号を確認します。次に **omconfig about** コマンドからの出力を例示します。

```
Product name (製品名) : Dell OpenManage Server Administrator
Version (バージョン)   : 6.x.x
Copyright              : Copyright (C) Dell Inc. 1995-2009. All rights reserved.
Company (会社名)      : Dell Inc.
```

Server Administrator 環境に関する詳細については、以下のように入力します。

```
omconfig about details=true
```

Server Administrator には多くのサービスが含まれており、それぞれ独自のバージョン番号を持っています。**内容** フィールドにはサービスのバージョン番号にあわせてその他の有用な詳細情報が報告されます。以下に続く出力は例であり、使用できる Server Administrator の設定とバージョンによって異なります。

```
Contains (内容) : Instrumentation Service 6.x.x
                  Storage Management Service 3.x.x
                  Sun JRE - OEM Installed Version 3.x.x
                  Secure Port Server 1.x.x
                  Core Service 1.x.x
                  Instrumentation Service Integration Layer 1.x.x
                  Storage Management Service Integration Layer 1.x.x
                  Server Administrator 6.x.x
```


omconfig chassis/omconfig mainsystem


omconfig chassis または **omconfig mainsystem** コマンドを使って、電流プローブ、ファンプローブ、電圧プローブ、および温度プローブの値をデフォルトまたは指定値に設定したり、システム起動時の BIOS 動作を設定したり、メモリエラーカウントのクリア、あるいはシステム構成で許可される電源ボタン管理機能の有効・無効を切り替えたりできます。

omconfig chassis -? または **omconfig mainsystem -?** コマンドを使って、すべての **omconfig chassis/omconfig mainsystem** コマンドのリストが表示されます。

omconfig chassis biossetup/omconfig mainsystem biossetup

omconfig chassis biossetup または **omconfig mainsystem biossetup** コマンドを使って、システムの BIOS セットアップ起動時間設定で通常使用できるシステム BIOS 設定を構成します。

 **注意:** 特定の BIOS 設定のオプションを変更するとシステムが無効になったり、またはオペレーティングシステムを再インストールする必要がある場合があります。

 **メモ:** BIOS 設定 オプションを適用するには、システムを再起動します。


 **メモ:** 各システムで全ての BIOS 設定オプションが使用できるわけではありません。

表 4-3 は、このコマンドで使用できる「名前=値」のペアを表示します。

表 4-3 BIOS Setup Settings

「名前=値」のペア 1 attribute=	「名前=値」のペア 2 setting=	説明
attribute=acpwrrcovery	setting=off last on	<p>off: システムはオフになっています。</p> <p>last: システムは前の状況に戻します。</p> <p>on: システムがオンになっています。</p>
	delay=random immediate timedelay time <値>	<p>random: ランダムな遅延時間でシステムの電源を入れます。</p> <p>immediate: システムを即時前の状態に戻します。</p> <p>timedelay <値>: ユーザー指定の遅延時間に基づいてシステムの電源を入れます。</p>
attribute=bezel	setting=enable disable	<p>enable: システム起動中のベゼル取り外しインテリジェントチェックを有効にします。</p> <p>disable: システム起動中のベゼル取り外しインテリジェントチェックを無効にします。</p>
attribute=bootsequence	setting=diskettefirst hdonly device1st cdromfirst opticaldrive	BIOS にシステムを起動するデバイスと、起動ルーチンが各デバイスをチェックする順序を伝えます。
attribute=conredirect	setting=enable disable	<p>enable: シリアルポート 1 に BIOS 画面をリダイレクトします。キーボードとテキスト出力はシリアルポート 2 にリダイレクトされます。</p> <p>disable: BIOS コンソールのリダイレクトをオフにします。</p>
attribute=crab	setting=enable disable	<p>enable: システム再起動後に BIOS コンソールリダイレクトを有効にします。</p> <p>disable: BIOS コンソールリダイレクトを無効にします。</p> <p>メモ: crab コマンドは Dell PowerEdge x9xx システムのみに有効になっています。</p>
attribute=cpuht	setting=enable disable	<p>enable: 論理プロセッサの hyper threading を有効にします。</p> <p>disable: 論理プロセッサの hyper threading を無効にします。</p>
attribute=cpvnt	setting=enable disable	<p>enable: 仮想化を有効にします。</p> <p>disable: 仮想化を無効にします。</p>
attribute=dbs	setting=enable disable	<p>enable: システムの要求に基づいた電源管理 (DBS) を有効にします。</p> <p>disable: システムの DBS を無効にします。</p>
attribute=diskette	setting=off auto writeprotect	<p>off: ディスケットドライブを無効にします。</p> <p>auto: 自動的にディスクドライブを有効にします。</p> <p>writeprotect: 書き込みはできません。ディスクドライブを読み取り専用にします。</p>
attribute=dualnic	setting=off on pxeboth nic1pxe nic2pxe isciboth nic1iscsi nic2iscsi nic1pxenic2iscsi nic1iscnic2pxe onpxeboth onpxenone onpxenic1 onpxenic2	<p>off: ネットワークインタフェースコントローラ (NIC) を無効にします。</p> <p>on: ネットワークインタフェースを有効にします (PXE と iSCSI はどちらの NIC でも有効にしません)。</p> <p>pxeboth: 両方の NIC で PXE を有効にします。</p> <p>nic1pxe: 最初の NIC で PXE を有効にし、2 つ目の NIC では何も (PXE も iSCSI も) 有効にしません。</p> <p>nic2pxe: 最初の NIC では何も (PXE も iSCSI も) 有効にしないで、2 つ目の NIC で PXE を有効にします。</p> <p>isciboth: 両方の NIC で iSCSI を有効にします。</p> <p>nic1iscsi: 最初の NIC で iSCSI を有効にし、2 つ目の NIC では何も (PXE も iSCSI も) 有効にしません。</p> <p>nic2iscsi: 最初の NIC では何も (PXE も iSCSI も) 有効にしないで、2 つ目の NIC で iSCSI を有効にします。</p> <p>nic1pxenic2iscsi: 最初の NIC で PXE を有効にし、2 つ目の NIC で iSCSI を有効にします。</p> <p>nic1iscnic2pxe: 最初の NIC で iSCSI を有効にし、2 つ目の NIC で PXE を有効にします。</p>


		<p>メモ: 以下のオプションは廃止予定です。</p> <p>onpxeboth: 両方の NIC で PXE を有効にします。</p> <p>onpxenone: PXE はいずれの NIC でも使用できません。</p> <p>onpxenic1: NIC 1で PXE を有効にします。</p> <p>onpxenic2: NIC 2で PXE を有効にします。</p>
attribute=embhypvisor	setting=enabled disabled	<p>enabled: 内蔵されたハイパーバイザを有効にします。</p> <p>disabled: 内蔵されたハイパーバイザを無効にします。</p>
attribute=extserial	setting=com1 com2 rad	<p>com1: 外付けのシリアルコネクタを COM 1 にマップします。</p> <p>com2: 外付けのシリアルコネクタを COM 2 にマップします。</p> <p>rad: 外部シリアルコネクタをリモートアクセスドライブにマップします。</p>
attribute=fbr	setting=9600 19200 57600 115200	<p>9600: コンソールリダイレクトのフェイルセーフ ボーレートを 9600 bps に設定します。</p> <p>19200: コンソールリダイレクトのフェイルセーフ ボーレートを 19200 bps に設定します。</p> <p>57600: コンソールリダイレクトのフェイルセーフ ボーレートを 57600 bps に設定します。</p> <p>115200: コンソールリダイレクトのフェイルセーフ ボーレートを 115200 bps に設定します。</p>
attribute=ide	setting=on off force=true	<p>on: このデバイスを有効にします。</p> <p>off: このデバイスを無効にします。</p> <p>force=true: 設定変更の確認。</p>
attribute=ideprdrv	setting=off auto	<p>off: デバイスを有効にします。</p> <p>auto: 自動的にデバイスを検出して有効にします。</p>
attribute=intrusion	setting=enable disable	<p>enable: システム起動中にインテルーションチェックを有効にします。システムにもベゼルインテルーションチェック機能がある場合、このインテルーションオプションはシステムのベゼルの取り外しをチェックします。</p> <p>disable: システム起動中にインテルーションチェックを無効にします。</p>
attribute=intusb	setting=enabled disabled	<p>enabled: 内蔵の USB ドライブを有効にします。</p> <p>disabled: 内蔵の USB ドライブを無効にします。</p>
attribute=mouse	setting=on off	<p>on: マウスを有効にします。</p> <p>off: マウスを無効にします。</p>
attribute=nic1	setting=enabled enabledwithpxe disabled enabledonly enablednonepxe enabledwithiscsi	<p>enabled: 最初の NIC はシステム起動中に有効にします。</p> <p>enabledwithpxe: システム起動中にNICを有効にします（システムに PXE がある場合は PXE をオンの状態にします。）</p> <p>disabled: システム 起動中に最初の NIC を無効にします。</p> <p>enabledonly:システム起動中にNICを有効にします（システムに PXE がある場合は PXE をオンの状態にします。）</p> <p>enablednonepxe: システム起動中に最初のNICを有効にします（システムに PXE がある場合は PXE をオンの状態にします。）</p> <p>enabledwithiscsi: システム起動中に最初のNICを有効にします（システムに iSCSI がある場合は iSCSI をオンの状態にします。）</p>
attribute=nic2	setting=enabled enabledwithpxe disabled enabledonly enablednonepxe enabledwithiscsi	<p>enabled: システムを起動中に最初の NIC を有効にします。</p> <p>enabledwithpxe: システム起動中に二番目のNICを有効にします（システムに PXE がある場合は PXE をオンの状態にします。）</p> <p>disabled: システム 起動中に二番目の NIC を無効にします。</p> <p>enabledonly:システム起動中に二番目の NIC を有効にします（システムに PXE がある場合は PXE をオンの状態にします。）</p> <p>enablednonepxe:システム起動中に二番目の NIC を有効にします（システムに PXE がある場合は PXE をオンの状態にします。）</p> <p>enabledwithiscsi: システム起動中に二番目のNICを有効にします（システムに iSCSI がある場合は iSCSI をオンの状態にします。）</p>

attribute=nic3	setting=enabled enabledwithpxe disabled enabledonly enablednonepxe enabledwithiscsi	<p>enabled: システム起動中に三番目の NIC を有効にします。</p> <p>enabledwithpxe: システム起動中に三番目のNIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオンの状態にします。)</p> <p>disabled: システム 起動中に三番目の NIC を無効にします。</p> <p>enabledonly:システム起動中に三番目の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオンの状態にします。)</p> <p>enablednonepxe:システム起動中に三番目の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオンの状態にします。)</p> <p>enabledwithiscsi: システム起動中に三番目のNIC を有効にします (システムに iSCSI がある場合は iSCSI をオンの状態にします。)</p>
attribute=nic4	setting=enabled enabledwithpxe disabled enabledonly enablednonepxe enabledwithiscsi	<p>enabled: システム起動中に四番目の NIC を有効にします。</p> <p>enabledwithpxe: システム起動中に四番目のNIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオンの状態にします。)</p> <p>disabled: システム 起動中に四番目の NIC を無効にします。</p> <p>enabledonly: システム起動中に四番目の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオフの状態にします。)</p> <p>enablednonepxe:システム起動中に四番目の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオンの状態にします。)</p> <p>enabledwithiscsi: システム起動中に四番目のNIC を有効にします (システムに iSCSI がある場合は iSCSI をオンの状態にします。)</p>
attribute=numlock	setting=on off	<p>on: キーパッドは番号のキーとして使用します。</p> <p>off: キーパッドは矢印キーとして使用します。</p>
attribute=node interleaving	setting=enabled disabled	<p>enabled: ノードのインターリーブを有効にします。</p> <p>disabled: ノードのインターリーブを無効にします。</p>
attribute=ppaddress	setting=off lpt1 lpt2 lpt3	<p>off: パラレルポートアドレスを有効にします。</p> <p>lpt1: LPT1 にデバイスを検出します。</p> <p>lpt2: LPT2 にデバイスを検出します。</p> <p>lpt3: LPT3 にデバイスを検出します。</p>
attribute=ppmode	setting=at ps2 ecp epp	<p>at: パラレルポートのモードは AT タイプに設定します。</p> <p>at: パラレルポートのモードは PS/2 タイプに設定します。</p> <p>ecp: パラレルポートモードをタイプ ECP に設定します (拡張機能ポート)。</p> <p>epp: パラレルポートモードをタイプ ECP に設定します (強化パラレルポート)。</p>
attribute=primaryscsi	setting=on off force=true	<p>注意:primary scsi、romb、romba、または rombb の設定を変更する場合、システムはオペレーティングシステムを再インストールするまで操作不能となります。</p> <p>on: このデバイスを有効にします。</p> <p>off: このデバイスを無効にします。</p> <p>force=true: 設定変更の確認。</p>
attribute=romb	setting=raid off scsi force=true	<p>raid: BIOS にマザーボードの RAID を RAID として検出するように指示します。</p> <p>off: デバイスはシステムを起動中に有効にします。</p> <p>scsi: BIOS にこのデバイスをSCSI デバイスとして検出するように指示します。</p> <p>force=true: 設定変更の確認。</p>
attribute=romba	setting=raid scsi force=true	<p>raid: BIOS にマザーボードチャンネル A の RAID を RAID デバイスとして検出するように指示します。</p> <p>scsi: BIOS にこのデバイスをSCSI デバイスとして検出するように指示します。</p> <p>force=true: 設定変更の確認。</p>
attribute=rombb	setting=raid scsi force=true	<p>raid: BIOS にマザーボードチャンネル B の RAID を RAID デバイスとして検出するように指示します。</p> <p>scsi: BIOS にこのデバイスをSCSI デバイスとして検出するように指示します。</p>


		force=true: 設定変更の確認。
attribute=sata	setting=off ata raid	off: SATAコントローラが無効になります。 ata: オンボード SATA コントローラを ATA モードに設定します。 raid: オンボード SATA コントローラを RAID モードに設定します。
attribute=sataport (0...7) または (A...H)	setting=off auto	off: SATAポートが無効になります。 auto: SATA ポートは自動的に有効にします。
attribute=secondaryscsi	setting=on off	on: このデバイスを有効にします。 off: このデバイスを無効にします。
attribute=serialportaddr	setting=default alternate	default: シリアルデバイス 1=COM1、シリアルデバイス 2=COM2 にマップします。 alternate: シリアルデバイス 1=COM2、シリアルデバイス 2=COM1 にマップします。
attribute=serialcom	setting=off on com1 com2	off: シリアル通信設定を無効にします。 on: コンソールリダイレクトのないシリアル通信設定を有効にします。 com1: COM 1 経由のコンソールリダイレクトのあるシリアル通信設定を有効にします。 com2: COM 2 経由のコンソールリダイレクトのあるシリアル通信設定を有効にします。
attribute=serialport1	setting=off auto com1 com3 bmcserial bmcnic rac com1bmc	off: シリアルポート 1 を無効にします。 auto: シリアルポート 1 は COM ポートにマッピングします。 com1: シリアルポート 1 を COM ポート 1 bmc にマッピングします。 com3: シリアルポート 1 を COM ポート 3 bmc にマッピングします。 bmcserial: シリアルポート 1 を BMC シリアルにマッピングします。 bmcnic: シリアルポート 1 を Baseboard Management Controller (BMC) NIC にマッピングします。 rac: シリアルポート 1 をRemote Access Controller (RAC) にマッピングします。 com1: シリアルポート 1 を COM ポート 1 bmc にマッピングします。 メモ: このコマンドは一部の x8xx システムで使用できます。
attribute=serialport2	setting=off auto com2 com4	off: シリアルポート 2 を無効にします。 auto: シリアルポート 1 は COM ポートにマッピングします。 com2: シリアルポート 2 を COM ポート 2 bmc にマッピングします。 com4: シリアルポート 2 を COM ポート 4 bmc にマッピングします。
attribute=speaker	setting=on off	on: スピーカーを有効にします。 off: スピーカーを無効にします。
attribute=cputurbomode	setting=enabled disabled	CPU ターボモードは、システムが温度、電力、または電流許容範囲内で稼働しているときに CPU の周波数を増やすことができます。 enabled: CPU ターボモードを有効にします。 disabled: CPU ターボモードを無効にします。
attribute=uausb	setting=on backonly off	on: ユーザーがアクセス可能な USB ポートを有効にします。 backonly: システムの背面にあるユーザーがアクセス可能な USB ポートのみを有効にします。 off: ユーザーがアクセス可能な USB ポートを無効にします。
attribute=usb	setting=enabled disabled	enabled: USB ポートを有効にします。 disabled: USB ポートを無効にします。 メモ: システムのハードウェアによって、2 つの属性、usb と usbb のどちらか

		ひとつだけが USB ポートの設定に使用可能です。
attribute=usbb	setting=enabled enabledwithbios disabled	<p>enabled: システム起動中に USB ポートを有効にします (BIOS サポートなし)。</p> <p>enabledwithbios: システム起動中に USB ポートを有効にします (BIOS サポートあり)。</p> <p>disabled: システム起動中に USB ポートを無効にします。</p> <p>メモ: システムのハードウェアによって、2 つの属性、usb と usbb のどちらかひとつだけが USB ポートの設定に使用可能です。</p>

omconfig chassis bmc/omconfig mainsystem bmc

 **メモ:** このコマンドはこのリリースに廃止されています。これは `omconfig chassis remoteaccess/omconfig mainsystem remoteaccess` コマンドに置き換えています。

omconfig chassis currents/omconfig mainsystem currents

 **メモ:** 現在、Server Administrator ではこのコマンドは使用できません。

omconfig chassis fans/omconfig mainsystem fans

`omconfig chassis fans` または `omconfig mainsystem fans` コマンドを使用すると、ファンブローブ警告しきい値を設定できます。他のコンポーネントに関しては、警告とエラーしきい値の両方を表示することができますが、エラーしきい値を設定することはできません。最小および最大エラーしきい値はシステム製造元によって設定されます。


ファン警告しきい値の有効なパラメータ

表 4-4 は、ファン警告しきい値設定に有効なパラメータを表示します。

表 4-4 omconfig chassis fans/omconfig chassis fans

「名前=値」のペア	説明
index=<n>	ブローブまたはブローブインデックスの番号 (指定が必要)。
warnthresh=default	最小および最大警告しきい値をデフォルトの状態に設定します。
minwarnthresh=<n>	最小警告しきい値。
maxwarnthresh=<n>	最大警告しきい値。

デフォルトの最小および最大警告しきい値

 **メモ:** ESM 3、ESM4、および BMC の機能を持つシステムでは警告しきい値をデフォルト値に設定することはできません。

上限と下限ファン警告しきい値の両方を、推奨されているデフォルト値に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig chassis fans index=0 warnthresh=default
または
omconfig mainsystem fans index=0 warnthresh=default
```

1 つの値をデフォルト状態にして別の値を設定することはできません。つまり、最小警告しきい値をデフォルト状態にすると、最大警告しきい値もデフォルト値を選択することになります。

最小および最大警告しきい値の指定


ファンブローブの警告しきい値を指定する場合、設定するブローブ番号と最小、および / あるいは最大警告しきい値を指定する必要があります。次の例では、ブローブ 0 を設定します。最初のコマンドは最小しきい値のみを設定し、2 番目のコマンドは最小および最大しきい値の両方を設定します。

```
omconfig chassis fans index=0 minwarnthresh=4580
または
omconfig mainsystem fans index=0 minwarnthresh=4580

omconfig chassis fans index=0 minwarnthresh=4580 maxwarnthresh=9160
または
omconfig mainsystem fans index=0 minwarnthresh=4580 maxwarnthresh=9160
```

このコマンドを実行して、システムによる指定値の設定が完了すると、次のメッセージが表示されます。

Fan probe warning threshold(s) set successfully. (ファンプローブの警告しきい値は正常に設定されました。)

 **メモ:** ファンプローブの最小および最大警告しきい値は、PowerEdge x8xx および x9xxのシステムでは設定できません。

omconfig chassis fancontrol/omconfig mainsystem fancontrol

omconfig chassis fancontrol または omconfig mainsystem fancontrol コマンドを使用すると、ファン速度を設定できます。ファン速度は、静かさまたは冷却速度に合わせて最適化できます。表 4-5 は、コマンドの有効なパラメータを表示します。

表 4-5 omconfig chassis fancontrol/omconfig mainsystem fancontrol

「名前=値」のペア	説明
speed=quiet	静かに操作が実行されるようにファン速度を設定します。
speed=maxcool	最大冷却が実行されるようにファン速度を設定します。

omconfig chassis frontpanel/omconfig mainsystem frontpanel

omconfig chassis frontpanel または omconfig mainsystem frontpanel コマンドを使用して次の設定を行います。

- 電源ボタンとマスク不可能割り込み (NMI) ボタンを設定する
- LCD での表示内容を設定する
 - 何も表示しない
 - カスタム情報
 - デフォルトシステム情報
 - サービスタグ、システム名
 - iDRAC6 の MAC アドレス
 - システム電源
 - iDRAC6 の IP アドレス
 - システムの周辺温度
 - iDRAC6 の IPv4 アドレス
 - iDRAC の IPv6 アドレス
- LCD ライン番号の設定
- LCD のセキュリティ状態レポートの表示
- カーネルベースの仮想マシン (KVM) が使用可能な場合にアクティブなりモートセッションを表示するように LCD を設定する


 **メモ:** 電源 と NMI ボタンは、システムに存在するときのみ設定できます。

表 4-6 は、コマンドの有効なパラメータを表示します。

表 4-6 omconfig chassis frontpanel/omconfig mainsystem frontpanel

「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
lcdindex=<インデックス>	-	LCD ライン番号を指定します。
config=none default custom	-	none: LCD テキストをなしに設定します。 default: LCD テキストをデフォルトに設定します。 custom: LCD テキストはカスタムに設定します。
text=<カスタムテキスト>	-	config=custom のときに LCD のカスタムテキストを設定します。
nmibutton=enable disable	-	enable: システムの NMI ボタンを有効にします。 disable: システムの NMI ボタンを無効にします。
powerbutton=enable disable	-	true: システムの電源 ボタンを有効にします。 false: システムの電源 ボタンを無効にします。
config=sysname	-	システムの名前を表示します。

config=syspower	-	システム電源情報を表示します。
config=servicetag		サービスタグ情報を表示します。
config=ipv4drac		IPv4 DRAC 情報を表示します。
config=ipv6drac		IPv6 DRAC 情報を表示します。
config=ambienttemp	-	システム温度を摂氏で表示します。
security=modify	-	LCD テキストを変更できます。
security=view	-	LCD テキストへの読み取り専用アクセスを与えます。
security=disabled	-	LCD テキストへの制限付きアクセスを与えます。
remoteindication=true	-	システムがアクティブなりモートセッションを検出すると、LCD が点滅します。

omconfig chassis info/omconfig mainsystem info

omconfig chassis info または omconfig mainsystem info コマンドを使って、システムの資産タグとシャーシ名を入力します。システムがモジュラシステムの場合、モジュラコンポーネントの管理タグも入力できます。表 4-7 は、コマンドの有効なパラメータを表示します。

表 4-7 omconfig chassis info/omconfig mainsystem info

「名前=値」のペア	説明
index=<n>	管理タグまたは名前を設定するシャーシの番号。
tag=<テキスト>	英数字テキストによる管理タグ。英数字 10 文字以内で指定します。
name=<テキスト>	シャーシ名

以下の例では、メインシステムシャーシの管理タグを **buildsys** に設定します。

```
omconfig chassis info index=0 tag=buildsys
または
omconfig mainsystem info index=0 tag=buildsys
```

インデックス 0 はメインシステムシャーシのデフォルト値です。次のコマンドでは index=n が省略されていますが、結果は同じです。

```
omconfig chassis info tag=buildsys
または
omconfig mainsystem info tag=buildsys
```

有効なコマンドが実行されると、結果として次のメッセージが表示されます。

```
Chassis info set successfully. (シャーシ情報は正常に設定されました。)
```

シャーシによっては、異なる名前を割り当てることができます。メインシステムシャーシの名前を変更することはできません。下の例では、シャーシ 2 の名前を **storscsi1** から **storscsia** に変更します。

```
omconfig chassis info index=2 name=storscsia
または
omconfig mainsystem info index=2 name=storscsia
```

他のコマンドでは、シャーシ 2 (メイン シャーシ=0) がない場合、CLI によってエラーメッセージが表示されます。CLI では、存在するシステム構成に対してのみコマンドを実行できます。

omconfig chassis leds/omconfig mainsystem leds

omconfig chassis leds または omconfig mainsystem leds コマンドを使って、chassis fault LED または chassis identification LED を点滅するか指定します。このコマンドはシステムのハードドライブから LED をクリアすることもできます。表 4-8 は、コマンドの有効なパラメータを表示します。

表 4-8 omconfig chassis leds/omconfig mainsystem leds

「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
index=<n>	-	LED が存在するシャーシ番号 (デフォルトはメインシステムシャーシであるシャーシ 0)。
led=fault	severity=warning critical	警告イベントまたは重要イベントの発生時に、LED を点滅するように選択します。
led=hdfault	action=clear	ハードドライブのフォールト数を 0 に戻します。
led=identify	flash=off on	シャーシ識別 LED をオフまたはオンに設定します。LED が点滅するタイムアウト値を秒数で設定します。
	time-out=<n>	

omconfig chassis memorymode/omconfig mainsystem memorymode

omconfig chassis memorymode または omconfig mainsystem memorymode コマンドを使用して、メモリエラーが発生したときにシステムのメモリで使用する冗長性モードを指定します。

冗長メモリを使うと、現在使用中のモジュールに許容できないエラーが検出されたときに、システムを使用できる他のメモリモジュールに切り替えることができます。omconfig chassis memorymode または omconfig mainsystem memorymode を使用すると、冗長性を無効にすることができます。冗長性を無効にすると、システムが使用しているモジュールにエラーが発生したときに、使用できる他のメモリモジュールに切り替えないようにシステムに指示を出すことになります。冗長性、スベアの選択、ミラーおよび RAID を有効にするには、

スベアモードを使用すると、訂正可能なメモリイベントが検出されたときにシステムメモリのバンクが無効になり、スベアバンクが有効になって、オリジナルバンクのデータがすべてスベアバンクにコピーされます。スベアバンクには、少なくとも 3 つの同一メモリのバンクが必要です。オペレーティングシステムはスベアバンクを認識しません。

ミラーモードは、訂正不可能なメモリイベントが検出されたときに、メモリの冗長コピーに切り替えます。ミラーリングされたメモリに切り替えた後、システムは次回再起動時までオリジナルのシステムメモリに切り替わりません。このモードではオペレーティングシステムはインストールされているシステムメモリの半分の容量を認識しません。

RAID モードでは、メモリチェックとエラー回復のレベルが向上しますが、メモリ容量が低下します。

表 4-9 は、コマンドの有効なパラメータを表示します。

表 4-9 omconfig chassis memorymode/omconfig mainsystem memorymode

「名前=値」のペア 1	説明
index=<n>	メモリモジュールが常駐するシャーシ番号（デフォルトはメインシステムシャーシのシャーシ 0 です）。
redundancy=spare mirror disabled raid5	Spare は訂正可能なメモリイベントを持つメモリモジュールを無効にし、エラーがあったモジュールのデータをスベアバンクにコピーします。 Disabled は、訂正不可能なメモリイベントが検出されたときにシステムでその他のメモリモジュールを使用しないことを示します。 Mirror は、エラーのあったモジュールに訂正不可能なメモリイベントが検出された場合、システムをミラーリングされたメモリのコピーに切り替えます。 ミラーモード では、オペレーティングシステムはシステムが再起動されるまでオリジナルのモジュールに戻りません。 RAID5 はシステムメモリの設定方法です。これは理論的には、ハードドライブのストレージシステムで使用される RAID 5 モードに似ています。RAID モードでは、メモリチェックとエラー回復のレベルが向上しますが、メモリ容量が低下します。サポートしている RAID モードは、循環パリティの RAID レベル 5 ストライピングです。
opmode=mirror optimizer advecc	ミラーミラー は、エラーのあったモジュールに訂正不可能なメモリイベントが検出された場合、システムをミラーリングされたメモリのコピーに切り替えます。 ミラーモード では、システムが再起動されるまで、オペレーティングシステムはオリジナルのモジュールに戻りません。 オプティマイザ を使うと、DRAM コントローラは 64 ビットモードで独立して作動でき、メモリ性能を最適化できます。 一方、 アドバンスド ECC (advecc) を使うと、2 つの DRAM コントローラ が同時に 128 ビットモードで作動するため、信頼性を最適化できます。コントローラがチーミングできないメモリは、オペレーティングシステムにレポートされません。


omconfig chassis pwrmanagement/omconfig mainsystem pwrmanagement

omconfig chassis pwrmanagement または omconfig mainsystem pwrmanagement コマンドを使って、電力キャップを設定し、電力使用を制御するプロファイルを管理できます。

表 4-10 omconfig chassis pwrmanagement/omconfig mainsystem pwrmanagement pwrmanagement

「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
config=budget	cap=<値>	電力バジェットのしきい値を設定します。
	setting=enable disable	enable: powercap 設定を有効にします。 disable: powercap 設定を無効にします。
	unit=watt btuphr percent	watt: ワット単位で表示します。 btuphr: BTU/hr 単位で表示します。 percent: パーセント単位で表示します。
config=profile	profile=maxperformance apc osctrl custom	maxperformance: サポートされている最高のプロセッサ状態に設定します。最大性能と最小電源経済が得られます。 apc: アクティブ電源制御 (apc) は、BIOS 制御のデマンドベース電源管理を有効にします。 osctrl: OS 制御 (osctrl) は、オペレーティングシステム制御のデマンドベース電源管理を有効にします。 custom: このプロファイルは BIOS 設定を個別に指定できるようにします。基盤となる BIOS 設定を表示することで、詳細な制御を可能にします。
	cpupowermode=min max systemdbpm osdbpm	min: CPU 電力消費量を最小に設定します。 max: CPU 電力消費量を最大に設定します。 systemdbpm: モードをシステムデマンドベースの電源管理に設定します。 osdbpm: モードをオペレーティングシステムデマンドベースの電源管理に設定します。

		メモ: これらのオプションは、カスタムプロファイルが選択されている場合にのみ適用されます。
	memorypowermode=min 800 1067 1333 max	min: モードを最小電力使用に設定します。 800 1067 1333: モードを 800、1067、または1333 MHz に設定します。 max: モードを最大性能に設定します。
	fanmode=min max	min: モードを最小電力使用に設定します。 max: モードを最大性能に設定します。


 **メモ:** 電源プロファイル設定オプションを有効にするためにシステムを再起動します。

omconfig chassis pwrmonitoring/omconfig mainsystem pwrmonitoring

omconfig chassis pwrmonitoring または omconfig mainsystem pwrmonitoring コマンドを使用すると、電力消費情報を設定できます。

表 4-11 omconfig chassis pwrmonitoring/omconfig mainsystem pwrmonitoring

「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	説明
index=<n>	-	プローブまたはプローブインデックスの番号（指定が必要）。
config=probe	warnthresh=settodefault	最小および最大警告しきい値を デフォルト の状態に設定します。
	warnthresh=<n>	警告しきい値を設定します。
	unit=watt btuphr	watt: ワット単位で表示します。 btuphr: BTU/hr 単位で表示します。
config=resetreading	type=energy peakpower	energy: システム電力読み取り値をリセットします。 peakpower: システムピーク電源をリセットします。

 **メモ:** このコマンドは PMBus をサポートするいくつかの Dell xx0x システムにのみ適用できます。

デフォルトな警告しきい値

 **メモ:** センサー管理機能はシステムによって異なります。

上限と下限ファン警告しきい値の両方を、推奨されているデフォルト値に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig chassis pwrmonitoring index=0 warnthresh=settodefault
または
omconfig chassis pwrmonitoring index=0 warnthresh=settodefault
```

1 つの値をデフォルト状態にして別の値を設定することはできません。つまり、最小警告しきい値をデフォルト状態にすると、最大警告しきい値もデフォルト値を選択することになります。

警告しきい値を指定します。


電力消費プローブの警告しきい値を指定する場合、設定するプローブ番号と警告しきい値を指定する必要があります。値は BTU/hr またはワット単位で表示されます。次の例では、プローブ 4 を設定します。

```
omconfig chassis pwrmonitoring config=probe index=4 warnthresh=325 unit=watt
または
omconfig mainsystem pwrmonitoring config=probe index=4 warnthresh=325 unit=btuphr.
```

このコマンドを実行して、システムによる指定値の設定が完了すると、次のメッセージが表示されます。


```
Power consumption probe warning threshold(s) set successfully. (電力消費プローブ警告しきい値が正常に設定しました。)
```

omconfig chassis remoteaccess/omconfig mainsystem remoteaccess

 **メモ:** このコマンドは、PowerEdge x8xx、x9xx、xx0x、xx1x システムのみに適用されます。

omconfig chassis remoteaccess または omconfig mainsystem remoteaccess コマンドを使用すると、設定できます。

- 1 ローカルエリアネットワーク (LAN) 上のリモートアクセス。
- 1 インストールされている BMC または RAC 用のシリアルポート。
- 1 シリアルオーバー LAN 接続の BMC または RAC。
- 1 シリアルポートのターミナル設定。
- 1 LAN 接続におけるシリアルの詳細設定。
- 1 BMC または RAC ユーザーの情報。
- 1 IPv6 と IPv4 インタフェースの情報。

 **メモ:** ユーザー情報を設定するには、ユーザー ID を入力する必要があります。

次のように入力します。

```
omconfig chassis remoteaccess
または
omconfig mainsystem remoteaccess
```

omconfig chassis remoteaccess または omconfig mainsystem remoteaccess コマンドの出力は各使用可能な設定を一覧表示します。表 4-12 は、有効なパラメータを表示します。

表 4-12 omconfig chassis remoteaccess/omconfig mainsystem remoteaccess

「名前=値」のペア 1 config=	「名前=値」のペア 2	説明
config=additional	ipv4=enable disable	enable: IPv4 スタックが iDRAC6 にロードされます。 disable: IPv4 スタックが iDRAC6 でフラッシュされます。
	ipv6=enable disable	enable: IPv6 スタックを有効にして iDRAC6 にロードできるようにします。 disable: IPv6 スタックを無効にして iDRAC6 からアンロードできるようにします。
config=advsol	characcuminterval=number	number: 文字累積間隔を 5 ミリ秒に設定します。
	charsendthreshold=number	number: 文字数を設定します。BMC は、この文字数（以上）がベースボードシリアルコントローラから BMC に受け入れられるとすぐに自動的にこの文字数が含まれたシリアルオーバー LAN データパケットを送信します。
config=nic	enable=true false	true: LAN で IPMI を有効にします。 false: LAN で IPMI を無効にします。
	nicselection=sharedwithfailoveronall nic1 teamednic1nic2 dracnic	sharedwithfailoveronall: 新しい NIC 選択オプションを設定します。 nic1: NIC 1 を有効にします。 teamednic1nic2: NIC チーム機能を有効にします。 dracnic: DRAC 5 がインストールされている場合は、DRAC NIC を有効にします。 メモ: nicselection オプションは PowerEdge x9xx システムでのみサポートします。
	aitdnsserverv6	代替 DNS サーバーアドレスの設定を検証します。
	dnssourcev6=static auto	static: DNS ソースを 静的 に設定します。 auto: DNS ソースを 自動 に設定します。
config=nic (続き)	encryptkey=text confirmcryptkey=text	text: 暗号化と暗号化の確認に使用されるテキスト。 メモ: text オプションは PowerEdge x9xx システムでのみサポートします。
	gateway=Gateway	Gateway: BMC LAN インタフェースの IP アドレスソースに 静的 アドレスを選択した場合のゲートウェイアドレスを設定します。
	gatewayv6=<値>	IPv6 ゲートウェイを検証します。
	enablenic=true false	true: DRAC NIC を有効にします。 false: DRAC NIC を無効にします。 メモ: enablenic オプションは DRAC 5 がインストールされている PowerEdge x9xx システムでのみサポートします。
	ipaddress=ip	ip: BMC LAN インタフェースの IP アドレスソースに静的アドレスを選択した場合の IP アドレス

		スを設定します。
	ipaddressv6=<IPv6 アドレス>	IPv6 アドレスの設定を検証します。
	ipsource=static dhcp systemsoftware	static: BMC LAN インタフェースの IP アドレスが固定で割り当てられた IP アドレスの場合、静的です。 dhcp: BMC LAN インタフェースの IP アドレスが動的ホスト設定プロトコルの場合、DHCP です。 systemsoftware: BMC LAN インタフェースの IP アドレスのソースがシステムソフトウェアからのものである場合、システムソフトウェアです。 メモ: すべてのコマンドがシステムでサポートされているわけではありません。
	ipsourcev6=static auto	static: IPv6 ソースを 静的 に設定します。 auto: IPv6 ソースを 自動 に設定します。
config=nic (続き)	privilegelevel=administrator operator user	administrator: LAN チャネルで受け入れられる最大特権をアドミニストレータに設定します。 operator: LAN チャネルで受け入れられる最大特権をオペレータに設定します。 user: LAN チャネルで受け入れられる最大特権をユーザーに設定します。
	prefdnsservv6=<値>	優先 DNS サーバーの設定を検証します。
	subnet=Subnet	subnet: BMC LAN インタフェースの IP アドレスソースに静的アドレスを選択した場合のサブネットマスクを設定します。
	vlanenable=true false	true: 仮想 LAN 識別を有効にします。 false: 仮想 LAN 識別を無効にします。
	vlanid=number	number: 1~4094 までの仮想 LAN 識別。
	vlanpriority=number	number: 0~7 までの仮想 LAN 識別の優先順位。
config=serial	baudrate=9600 19200 38400 57600 115200	9600: 接続速度を 9600 bps に設定します。 19200: 接続速度を 19200 bps に設定します。 38400: 揮発性および不揮発性接続速度を 38400 bps に設定します。 57600: 揮発性および不揮発性接続速度を 57600 bps に設定します。 115200: 揮発性および不揮発性接続速度を 115200 bps に設定します。 メモ: 9600 および 19200 のボーレートは、PowerEdge 1800、1850、2800、および 2850 のシステムでサポートされています。 19200、38400 および 57600 のボーレートは、PowerEdge x9xx システムでサポートされています。 115200 のボーレートは、DRAC 5 がインストールされている特定のシステムでサポートされています。 19200、57600、115200 は、iDRAC6 がインストールされている xx0x システムでサポートされます。
	flowcontrol=none rtscts	none: シリアルポートを介した通信フローの制御がありません。 rtscts: RTS は送信の準備ができた (Ready to Send)、CTS は明確に送信する (Clear to Send) の意味です。
config=serial (続き)	mode=directbasic directterminal directbasicterminal modembasic modemterminal modembasicterminal	directbasic: シリアル 接続で IPMI メッセージに使用するメッセージの種類。 directterminal: シリアル 接続で印刷可能な ASCII 文字を使い、限定数のテキストコマンドを使用できるメッセージの種類。 directbasicterminal: シリアル 接続上での基本モードとターミナルモードのメッセージ。 modembasic: モデムでの IPMI メッセージに使用するメッセージの種類。 modemterminal: モデムで印刷可能な ASCII 文字を使い、限定数のテキストコマンドを使用できるメッセージの種類。 modembasicterminal: モデムを使った基本メッセージとターミナルメッセージ。 メモ: すべてのコマンドがシステムでサポートされているわけではありません。
	privilegelevel=administrator operator user	administrator: シリアル接続で受け入れられる最大特権をアドミニストレータに設定します。 operator: シリアル接続で受け入れられる最大特権をオペレータに設定します。 user: シリアル接続で受け入れられる最大特権をユーザーに設定します。

config=serialoverlan	enable=true false	<p>true: BMC の LAN でシリアルを有効にします。</p> <p>false: BMC の LAN でシリアルを無効にします。</p>
	baudrate=9600 19200 38400 57600 115200	<p>9600: 揮発性および非揮発性接続速度を 9600 bps に設定します。</p> <p>19200: 揮発性および非揮発性接続速度を 19200 bps に設定します。</p> <p>38400: 揮発性および非揮発性接続速度を 38400 bps に設定します。</p> <p>57600: 揮発性および非揮発性接続速度を 57600 bps に設定します。</p> <p>115200: 揮発性および非揮発性接続速度を 115200 bps に設定します。</p> <p>メモ: 9600 および 19200 のボーレートは、PowerEdge 1800、1850、2800、および 2850 のシステムでサポートされています。19200 および 57600 のボーレートは、PowerEdge x9xx システムでサポートされています。115200 のボーレートは、DRAC 5 がインストールされている特定のシステムでサポートされています。19200、57600、115200 のボーレートは、iDRAC6 がインストールされている xx0x システムでサポートされます。</p>
	privilegelevel=administrator operator user	<p>administrator: LAN チャネルのシリアルで受け入れられる最大特権をアドミニストレータに設定します。</p> <p>operator: LAN チャネルのシリアルで受け入れられる最大特権をオペレータに設定します。</p> <p>user: LAN チャネルのシリアルで受け入れられる最大特権をユーザーに設定します。</p>
config=settodefualt		デフォルトの設定を使用します。
config=terminalmode	deletecontrol=outputdel outputbkspspbks	<p>outputdel: BMC は、<bksp> か を受け取ると、 文字を出力します。</p> <p>outputbkspspbks: BMC は、<bksp> または を受け取ると、<bksp><sp><bksp> 文字を出力します。</p>
config=terminalmode (続き)	echocontrol=enabled disabled	<p>enabled: 画面に送信する文字を有効にします。</p> <p>disabled: 画面に送信する文字を無効にします。</p>
	handshakingcontrol=enabled disabled	<p>enabled: 入力バッファが別の コマンドを受け入れる準備ができたときに、文字シーケンスを出力するよう BMC に指示します。</p> <p>disabled: 入力バッファが別の コマンドを受け入れる準備ができたときに、文字シーケンスを出力するよう BMC に指示しません。</p>
	inputlinequence=cr null	<p>cr: コンソールは新しいライン シーケンスに <CR> を使用します。</p> <p>null: コンソールは新しいラインシーケンスに <NULL>を使用します。</p>
	lineediting=enabled disabled	<p>enabled: ラインをタイプしたとき、ライン編集を有効にします。</p> <p>disabled: ラインをタイプしたとき、ライン編集を無効にします。</p>
	newlinesequence=none crlf null cr lfcr lf	<p>none: BMC は終結 シーケンスを使用しません。</p> <p>crlf: BMC は、新しいラインがコンソールに書き込まれたときに、新しいラインシーケンスに <CR-LF>を使用します。</p> <p>null: BMC は、新しいラインがコンソールに書き込まれたときに、新しいラインシーケンスに <Null> を使用します。</p> <p>cr: BMC は、新しいラインがコンソールに書き込まれたときに、新しいラインシーケンスに <CR>を使用します。</p> <p>lfcr: BMC は、新しいラインがコンソールに書き込まれたときに、新しいラインシーケンスに <LF-CR> を使用します。</p> <p>lf: BMC は、新しいラインがコンソールに書き込まれたときに、新しいラインシーケンスに <LF>を使用します。</p>
config=user	id=number enable=true false	<p>id=number: 設定されているユーザーの ID (数字書式の ID)</p> <p>enable=true: ユーザーを有効にします。</p> <p>enable=false: ユーザーを無効にします。</p>
	id=number enableserialoverlan=true false	<p>id=number: 設定されているユーザーの ID (数字書式の ID)</p> <p>enableserialoverlan=true: LAN のシリアルを有効にします。</p> <p>enableserialoverlan=false: LAN のシリアルを無効にします。</p>


		<p>メモ: enableserialoverlanオプションは PowerEdge x9xx システムでのみサポートします。</p>
	id=number name=text	<p>number: 設定されているユーザーの ID (数字書式の ID)</p> <p>name=text: ユーザー名</p>
	id=number newpw=text confirmnewpw=text	<p>number: 設定されているユーザーの ID (数字書式の ID)</p> <p>newpw=text: ユーザーの新しいパスワード。</p> <p>confirmnewpw=text: 新しいパスワードの確認</p>
	id=number serialaccesslevel=administrator operator user none	<p>id=number: 設定されているユーザーの ID (数字書式の ID)</p> <p>serialaccesslevel=administrator: ID を持つユーザーは、シリアルポートチャネルについてアドミニストレータのアクセス特権があります。</p> <p>serialaccesslevel=operator: ID を持つユーザーは、シリアルポートチャネルについてオペレータのアクセス特権があります。</p> <p>serialaccesslevel=user: ID を持つユーザーは、シリアルポートチャネルについてユーザーのアクセス特権があります。</p> <p>serialaccesslevel=none: ID を持つユーザーは、シリアルポートチャネルのアクセス特権がありません。</p>
config=user (続き)	id=number lanaccesslevel=administrator operator user none	<p>id=number: 設定されているユーザーの ID 番号。</p> <p>lanaccesslevel=administrator: ID を持つユーザーは、LAN チャネルについてアドミニストレータのアクセス特権があります。</p> <p>lanaccesslevel=operator: ID を持つユーザーは、LAN チャネルについてオペレータのアクセス特権があります。</p> <p>lanaccesslevel=user: ID を持つユーザーは、LAN チャネルについてユーザーのアクセス特権があります。</p> <p>lanaccesslevel=none: ID を持つユーザーは、LAN チャネルのアクセス特権がありません。</p>
	id=user id dracusergroup=admin poweruser custom none	<p>id=user id: 設定されているユーザーの ID。</p> <p>dracusergroup=admin: システム管理者ユーザー特権を有効にします。</p> <p>dracusergroup=poweruser: パワーユーザー特権を有効にします。</p> <p>dracusergroup=custom: カスタムユーザー特権を有効にします。</p> <p>メモ: 「名前=値」のペアの詳細に関しては、表 4-13を参照してください。 dracusergroup=custom.</p> <p>dracusergroup=none: ユーザー特権を有効にしません。</p>
config=user (続き)	id=user id extimpusergroup=admin poweruser custom none メモ: extimpusergroup ユーザーグループは Dell xx0x モジュールシステムでのみ使用できます。	<p>id=user id: 設定されているユーザーの ID。</p> <p>extimpusergroup=admin: システム管理者ユーザー特権を有効にします。</p> <p>extimpusergroup=poweruser: パワーユーザー特権を有効にします。</p> <p>extimpusergroup=custom: カスタムユーザー特権を有効にします。</p> <p>メモ: 「名前=値」のペアの詳細に関しては、表 4-14を参照してください。 extimpusergroup=custom</p> <p>extimpusergroup=none: ユーザー特権を有効にしません。</p>

表 4-13 omconfig chassis remoteaccess config=user id=<ユーザー ID> dracusergroup=custom/omconfig mainsystem remoteaccess config=user id=<ユーザー ID> dracusergroup=custom

「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	「名前=値」のペア 3	説明
config=user (続き)	id=user id dracusergroup=custom	<p>logindrac= true false</p> <p>configuredrac= true false</p> <p>configure users= true false</p> <p>clearlogs= true false</p>	<p>true/false: DRAC にログインすることを有効・無効にします。</p> <p>true/false: DRAC の設定を有効・無効にします。</p> <p>true/false: ユーザーの設定を有効・無効にします。</p> <p>true/false: ログ クリアを有効・無効にします。</p>


		executeservercommands= true false	true/false: サーバーコマンドの実行を有効・無効にします。
		accessconsoleredir= true false	true/false: コンソールリダイレクトのアクセスを有効・無効にします。
		accessvirtualmedia= true false	true/false: 仮想メディアのアクセスを有効・無効にします。
		testalerts= true false	true/false: 警告テストを有効・無効にします。

表 4-14 `omconfig chassis remoteaccess config=user id=<ユーザー ID> extimpusergroup=custom/omconfig mainsystem remoteaccess config=user id=<ユーザー ID> extimpusergroup=custom`

「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2	「名前=値」のペア 3	説明
config=user (続き)	id=user id extimpusergroup=custom  メモ: extimpusergroup ユーザーグループは Dell xx0x モジュールシステムでのみ使用できます。	loginidrac= true false configureidrac= true false	true/false: iDRAC6 にログインすることを有効 / 無効にします。 true/false: iDRAC6 の設定を有効 / 無効にします。

omconfig chassis temps/omconfig mainsystem temps

omconfig chassis temps または omconfig mainsystem temps コマンドを使って、温度プローブの警告しきい値を設定できます。他のコンポーネントに関しては、警告とエラーしきい値の両方を表示することができますが、エラーしきい値を設定することはできません。最小および最大エラーしきい値はシステム製造元によって設定されます。

 **メモ:** 設定できる警告しきい値は、システム設定によって異なります。

温度警告しきい値の有効なパラメータ

表 4-15 は、温度警告しきい値設定に有効なパラメータを表示します。

表 4-15 `omconfig chassis temps/omconfig mainsystem temps`

「名前=値」のペア	説明
index=<n>	プローブまたはプローブインデックスの番号 (指定が必要)。
warnthresh=default	最小および最大警告しきい値をデフォルトの状態に設定します。
minwarnthresh=<n>	最小警告しきい値 (1 小数点) を設定します。
maxwarnthresh=<n>	最大警告しきい値 (1 小数点) を設定します。

最小および最大警告しきい値を設定します。

上限と下限温度警告しきい値の両方を、推奨されているデフォルト値に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig chassis temps index=0 warnthresh=default
または
omconfig mainsystem temps index=0 warnthresh=default
```

1 つの値をデフォルト状態にして別の値を設定することはできません。つまり、最小警告しきい値をデフォルト状態にすると、最大警告しきい値もデフォルト値を選択することになります。

 **メモ:** センサーを管理する機能はシステムによって異なります。

最小および最大警告しきい値の指定

温度プローブの警告しきい値を指定する場合、設定するプローブ番号と最小および最大警告しきい値を指定する必要があります。次の例では、プローブ 4 を設定します。

```
omconfig chassis temps index=4 minwarnthresh=11.2 maxwarnthresh=58.7
または
omconfig mainsystem temps index=4 minwarnthresh=11.2 maxwarnthresh=58.7
```

このコマンドを実行して、システムによる指定値の設定が完了すると、次のメッセージが表示されます。

```
Temperature probe warning threshold(s) set successfully. (温度プローブの警告しきい値は正常に設定されました。)
```

 **メモ:** PowerEdge x8xx および x9xx のシステムでは、周辺温度に関してのみ温度プローブの警告しきい値を設定できます。

omconfig chassis volts/omconfig mainsystem volts

omconfig chassis volts または omconfig mainsystem volts コマンドを使用すると、電圧ファンプローブ警告しきい値を設定できます。他のコンポーネントに関しては、警告とエラーしきい値の両方を表示することができますが、エラーしきい値を設定することはできません。システムメーカーは最小および最大エラーしきい値を設定します。

電圧警告しきい値の有効なパラメータ

表 4-16 は、電圧警告しきい値に有効なパラメータを表示します。


 **メモ:** 設定できる警告しきい値は、システム設定によって異なります。

表 4-16 omconfig chassis volts/omconfig mainsystem volts

「名前=値」のペア	説明
index=<n>	プローブインデックス（指定する必要があります）。
warnthresh=default	最小および最大警告しきい値をデフォルトの状態に設定します。
minwarnthresh=<n>	最小警告しきい値（3 小数点）を設定します。
maxwarnthresh=<n>	最大警告しきい値（3 小数点）を設定します。

デフォルトな最小および最大警告しきい値を設定します。

上限と下限電圧警告しきい値の両方を、推奨されているデフォルト値に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig chassis volts index=2 warnthresh=default
または
omconfig mainsystem volts index=2 warnthresh=default
```

1 つの値をデフォルト状態にして別の値を設定することはできません。つまり、最小警告しきい値をデフォルト状態にすると、最大警告しきい値もデフォルト値を選択することになります。

 **メモ:** ESM 3 機能を持つシステムでは警告しきい値をデフォルト値に設定することはできません。


最小および最大警告しきい値の指定

電圧プローブの警告しきい値を指定する場合、設定するプローブ番号と最小、および / あるいは最大警告しきい値を指定する必要があります。次の例では、プローブ 0 を設定します。

```
omconfig chassis volts index=0 minwarnthresh=1.900 maxwarnthresh=2.250
または
omconfig mainsystem volts index=0 minwarnthresh=1.900 maxwarnthresh=2.250
```

このコマンドを実行して、システムによる指定値の設定が完了すると、次のメッセージが表示されます。

```
Voltage probe warning threshold(s) set successfully. (電圧プローブの警告しきい値は正常に設定されました。)
```

 **メモ:** 電圧の最小および最大警告しきい値は、PowerEdge x8xx のシステムでは設定できません。

omconfig preferences

omconfig preferences コマンドを使用して、システムのプリファランスを設定します。コマンドラインを使用して、Server Administrator をアクセスできるユーザーレベルを指定され、SNMP root パスワードを設定されます。You can also configure the Active Directory サービスおよび SNMP set 操作も設定できます。

omconfig preferences cdvformat

omconfig preferences cdvformat を使用して、レポートされたデータフィールドをカスタム区切りフォーマットで分けるデリミタを指定します。デリミタの有効な値は感嘆符、セミコロン、単価記号、ハッシュ、ドル記号、パーセント記号、脱字記号、アスタリスク、ティルダ、疑問符、コロン、コンマおよびパイプ記号です。

アスタリスクを使ってデータフィールドを分けるデリミタの設定の例は以下のとおりです。

```
omconfig preferences cdvformat delimiter=asterisk
```

omconfig preferences dirservice

omconfig preferences dirservice コマンドを使用すると、Active Directory サービスを設定できます。<製品名>oem.ini ファイルは、これらの変更を反映して修正されます。「adproductname」が<製品名>oem.ini ファイルにない場合は、<コンピュータ名>-<製品名> デフォルト値が使用されます。<コンピュータ名> は Server Administrator を実行しているシステムおよび<製品名>は omprv32.ini に定義した製品の名前を指します。Server Administrator に対する製品の名前は「omsa」です。

したがって、Server Administrator を実行している「myOmsa」という名前のコンピュータの場合、デフォルト名は「myOmsa-omsa」となります。これは、スナップインツールを使って Active Directory で定義されている Server Administrator の名前です。ユーザー特権を検索するには、この名前が Active Directory のアプリケーションオブジェクトの名前と一致する必要があります。


 **メモ:** このコマンドは、Windows オペレーティングシステムを実行しているシステムにのみ適用できます。

表 4-17 は、コマンドの有効なパラメータを表示します。


表 4-17 Active Directory サービスの設定パラメータ

「名前=値」のペア	説明
prodname=<テキスト>	Active Directory の設定変更を適用する製品を指定します。Prodname は、omprv32.ini で定義した製品の名前を指します。Server Administrator の場合、これは「omsa」です。
enable=<true false>	true: Active Directory サービスの認証サポートと Active Directory ログイン オプション をログインページで有効にします。 false: Active Directory サービスの認証サポートと Active Directory ログイン オプションをログインページで無効にします。Active Directory ログイン オプションが表示されない場合、ログインできるのはローカルマシンのアカウントのみです。
adprodname=<テキスト>	Active Directory サービスで定義されている製品の名前を指定します。この名前は、ユーザー認証のために製品を Active Directory の権限データに関連付けます。

omconfig preferences snmp

SNMP ルートパスワードを設定すると、システム管理者は重要なシステム管理介入を行うことができる SNMP 設定操作へのアクセスを制限することができます。SNMP ルートパスワードは、通常どおり（1 つのコマンドラインにすべてのパラメータを入力）か、またはインタラクティブに設定できます。

omconfig preferences snmp コマンドを使用して、SNMP set 操作も設定できます。

 **注意:** インタラクティブモードは、SNMP ルートパスワードを設定するのに一層安全な方法です。非インタラクティブモードでは、newpw と confirmnewpw オプションに入力する値は、入力したときにシステムのモニタに表示されます。インタラクティブモードでは、パスワードに入力した値は マスクされています。

SNMP ルートパスワードに設定するパラメータは、インタラクティブに設定しても非インタラクティブに設定しても同じです。


 **メモ:** setting=rootpw を指定しても、その他の「名前=値」ペアのパラメータを指定しない場合、インタラクティブモードを入力したことになり、コマンドラインは残りの値の入力を求めません。

表 4-18 は、コマンドの有効なパラメータを表示します。

表 4-18 SNMP ルートパスワードのパラメータ

「名前=値」のペア	説明
setting=rootpw	必須。
oldpw=<古いパスワード>	古い SNMP ルートパスワードを入力します。
newpw=<新しいパスワード>	新しい SNMP ルートパスワードを設定します。
confirmnewpw=<新しいパスワード>	新しい SNMP ルートパスワードを確認します。

omconfig preferences snmp setting=rootpw と入力すると、システムは、必須パラメータへの値の入力を求めます。


omconfig preferences snmp と入力する場合、初期コマンドラインのすべてのパラメータを提供する必要があります。次に、例を示します。

```
omconfig preferences snmp setting=rootpw oldpw=openmanage newpw=serveradmin confirmnewpw=serveradmin
```

「名前=値」のペア	説明
setting=snmpset	必須。
enable=true	SNMP set 操作の有効化
enable=false	SNMP set 操作の無効化

たとえば、次のコマンドを使用して SNMP set 操作を無効にします。

```
omconfig preferences snmp setting=snmpset enable=false
```

 **メモ:** SNMP set 操作の有効化または無効化を実行したあとで、変更を有効にするには、サービスを再起動します。対応 Microsoft Windows オペレーティングシステムを実行しているシステムでは、Windows SNMP サービスを再起動します。対応 Red Hat Enterprise Linux および SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステムを実行しているシステムでは、srvadmin-services.sh restart コマンドを実行して Server Administrator サービスを再起動します。

omconfig preferences useraccess

企業の方針によっては、Server Administrator に対して一部のユーザーが持つアクセスを制限した方がよい場合があります。omconfig preferences useraccess コマンドを使用すると、Server Administrator にアクセスできるユーザーまたはパワーユーザーの権利を与えたり拒否することができます。

表 4-20 は、コマンドの有効なパラメータを表示します。

表 4-20 システム管理者、パワーユーザーおよびユーザー用のユーザーアクセス有効化

コマンド	結果	説明
omconfig preferences useraccess enable=user	Server Administrator アクセスをユーザー、パワーユーザーおよびシステム管理者に与えます。	最も制限のないユーザーアクセスです。
omconfig preferences useraccess enable=poweruser	Server Administrator アクセスをパワーユーザーとシステム管理者に与えます。	ユーザーレベルのアクセスのみを除外します。
omconfig preferences useraccess enable=admin	Server Administrator アクセスをシステム管理者にのみ与えます。	最も制限的なユーザーアクセスです。

omconfig system/omconfig servermodule

omconfig system または omconfig servermodule コマンドを使って、ログのクリア、シャットダウン方法の決定、所有コストの初期値設定および編集、ハンク状態にあるオペレーティングシステムの対応方法決定などが実行できます。

omconfig system alertaction/omconfig servermodule alertaction

omconfig system alertaction または omconfig servermodule alertaction コマンドを使って、コンポーネントに警告またはエラーイベントが発生した場合の対応方法を決定します。

警告処置の定義

警告処置とは、指定した条件が満たされた場合にシステムが実行する操作です。警告処置は、イントルージョン、ファン、温度、電圧、電源装置、メモリ、および冗長に関し警告またはエラーイベントが発生した場合、どのように対処するかを事前に決定するものです。

たとえば、ファンローブの最小警告しきい値が 600 RPM である場合、システムのファンローブがファン 300 RPM を読み取ると、システムはファンローブ警告を発生します。警告処置設定によって、このイベントの通知方法が決定されます。危険範囲または故障範囲を満たさない警告処置に関する、温度、電圧、ローブの読み取り値も設定できます。

警告処置を設定する構文

警告処置を設定するには 2 つの「名前=値」のペア が必要になります。最初の「名前=値」のペアはイベントタイプです。2 番目の「名前=値」のペアはこのイベントで実行する操作です。たとえば、次のコマンドを参照してください。

```
omconfig system alertaction event=powersupply broadcast=true  
または  
omconfig servermodule alertaction event=powersupply broadcast=true
```


この場合、イベントは電源装置エラーで、操作は全ての Server Administrator ユーザーへのメッセージ送信です。

使用できる警告処置

表 4-21 は、警告処置の設定が可能なコンポーネントの警告処置を表示します。

表 4-21 警告イベントとエラーイベントに設定できる警告処置

警告処置の設定	説明
alert=true false	true: システムのソール警告を有効にします。有効になると、Server Administrator を実行しているシステムに取り付けられたモニタの画面表示上に警告メッセージが表示されます。 false: システムのソール警告を無効にします。
broadcast=true false	true: アクティブなターミナル (または リモートデスクトップ) セッション (Windows) があるすべてのユーザーまたはローカルシステム (Linux) のアクティブなシェルがあるオペレータに送信されるメッセージまたは警告を有効にします。 false: 警告ブロードキャストを有効にします。
clearall=true	このイベントの処置をすべてクリアします。
execapath=<文字列	このウィンドウに説明されるコンポーネントのイベントが発生した場合に実行するアプリケーションの完全パスとファイル名を設定します。


>	 メモ: Linux システムでは、管理または管理グループにアップグレードされたユーザーまたはユーザーグループがこの警告処置を設定できません。
execapp=false	実行可能なアプリケーションを無効にします。

警告処置を設定できるコンポーネントとイベント

表 4-22 では警告処置を設定できるコンポーネントとイベントを一覧表示します。コンポーネントはアルファベット順に表示しますが、警告イベントは常にコンポーネントのエラーイベントより先に表示します。

表 4-22 警告処置の設定可能なイベント

イベント名	説明
event=batterywarn	バッテリーが警告値を検出した場合の処置を設定します。
event=batteryfail	バッテリープローブがエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=fanwarn	バッテリーが警告値を検出した場合の処置を設定します。
event=fanfail	ファンプローブがエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=hardwarelogwarn	ハードウェアログが警告値を検出した場合の処置を設定します。
event=hardwarelogfull	ハードウェアログがいっぱいのときの処置を設定します。
event=intrusion	シャーシイントリージョンイベントを検出した場合の処置を設定します。
event=memprefail	メモリプローブがブリエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=memfail	メモリプローブがエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=systempeakpower	電源消費プローブがピーク電力値を検出した場合の処置を設定します。
event=systempowerwarn	電源消費プローブが警告値を検出した場合の処置を設定します。
event=systempowerfail	電源消費プローブがエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=powersupply	電源装置がエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=powersupplywarn	電源装置が警告値を検出した場合の処置を設定します。
event=processorwarn	プロセッサプローブが警告値を検出した場合の処置を設定します。
event=processorfail	プロセッサプローブがエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=redundegrad	冗長コンポーネントが使用できなくなり、コンポーネントの完全冗長性が失われた場合の処置を設定します。
event=redunlost	1つまたは複数の冗長コンポーネントが使用できなくなり、冗長コンポーネントの損失または冗長性不能状態になった場合の処置を設定します。
event=tempwarn	温度プローブが警告値を検出した場合の処置を設定します。
event=tempfail	温度プローブがエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=voltwarn	電圧プローブが警告値を検出した場合の処置を設定します。
event=voltfail	電圧プローブがエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=watchdogasr	ウォッチドッグ自動システム回復 (ASR) がハングしたオペレーティングシステムに対して実行された後に、次のシステムスタートアップで Server Administrator が実行する処置を設定します。
event=storagesyswarn	ストレージシステムが警告値を検出した場合の処置を設定します。
event=storagesysfail	ストレージシステムがエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=storagectrlwarn	ストレージコントローラが警告値を検出した場合の処置を設定します。
event=storagectrlfail	ストレージコントローラがエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=pdiskwarn	物理ディスクが警告値を検出した場合の処置を設定します。
event=pdiskfail	物理ディスクがエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=vdiskwarn	仮想ディスクが警告値を検出した場合の処置を設定します。
event=vdiskfail	仮想ディスクがエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=enclosurewarn	エンクロージャが警告値を検出した場合の処置を設定します。
event=enclosurefail	エンクロージャがエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=storagectrlbatterywarn	ストレージコントローラバッテリーが警告値を検出した場合の処置を設定します。
event=storagectrlbatteryfail	ストレージコントローラバッテリーがエラー値を検出した場合の処置を設定します。

 **メモ:** storagectrlbatterywarn および storagectrlbatteryfail イベントはモジュラーシステムでは使用できません。

警告処置の設定コマンドの例

以下に有効なコマンドの例を示します。各コマンドが成功すると、次のメッセージが表示されます。

```
Alert action(s) configured successfully. (警告処置は正常に設定されました。)
```

電流プローブ処置の例

電流プローブが警告イベントを検出した場合に発するシステムのコンソール警告を無効にするには、次のように入力します。

```
omconfig system alertaction event=currentwarn alert=false
または
omconfig servermodule alertaction event=currentwarn alert=false
```

電流プローブがエラーイベントを検出した場合にメッセージの送信を有効にするには、次のように入力します。

```
omconfig system alertaction event=currentfail broadcast=true
または
omconfig servermodule alertaction event=currentfail broadcast=true
```

ファンプローブ処置の例

ファンプローブがエラー値を検出した場合に警告を発生させるには、次のように入力します。

```
omconfig system alertaction event=fanfail alert=true
または
omconfig servermodule alertaction event=fanfail alert=true
```

シャーシイントルージョン処置の例

シャーシイントルージョンの警告処置の全てをクリアするには、次のように入力します。

```
omconfig system alertaction event=intrusion clearall=true
または
omconfig servermodule alertaction event=intrusion clearall=true
```


ログをクリアするコマンド

 **メモ:** 警告メッセージの詳細については、『Dell OpenManage Server Administrator メッセージリファレンスガイド』を参照してください。

`omconfig system` または `omconfig servermodule` コマンドを使用すると、警告ログ、コマンドログおよびハードウェアまたは ESM ログの 3 つのログがクリアできます。

警告ログをクリアするには、次のように入力します。

```
omconfig system alertlog action=clear
または
omconfig servermodule alertlog action=clear
```

 **メモ:** 無効な RAC ユーザー名を入力すると、コマンドログが表示できないことがあります。コマンドログをクリアするとこの状態が解決します。

コマンドログをクリアするには、次のように入力します。

```
omconfig system cmdlog action=clear
または
omconfig servermodule cmdlog action=clear
```

ESM ログをクリアするには、次のように入力します。

```
omconfig system esmlog action=clear
または
omconfig servermodule esmlog action=clear
```

omconfig system pedestinations/omconfig servermodule pedestinations

`omconfig system pedestinations` または `omconfig servermodule pedestinations` コマンドを使用すると、警告先の IP アドレスを設定できます。

[表 4-23](#) は、コマンドの有効なパラメータを表示します。


 **メモ:** インデックスと IP アドレスをパラメータとして一緒に指定するか、コミュニティ文字列だけをパラメータに設定することができます。

表 4-23 omconfig system pedestinations/omconfig servermodule pedestinations

「名前=値」のペア	説明
destenable=true false	true: 有効な IP アドレスが設定された後で、個別のプラットフォームイベントフィルタ宛先を有効にします。 false: 個別のプラットフォームイベントフィルタを無効にします。
index=number	宛先のインデックスを設定します。
ipaddress=ipv4 ipv6 address	宛先の IP アドレスを設定します。

communitystr=text	パスワードとして機能し、BMC と送信先管理ステーションの間で送信される SNMP メッセージを認証するのに使用されるテキストを設定します。
-------------------	--

omconfig system platformevents/omconfig servermodule platformevents

omconfig system platformevents または omconfig servermodule platformevents コマンドを使用して、特定のプラットフォームイベントにシャットダウン措置を設定します。また、プラットフォームイベントフィルタ警告生成を有効または無効にすることもできます。

注意: プラットフォームイベントシャットダウン処置を「none」または「電力低減」以外に設定していた場合、指定のイベントが発生するとシステムは強制終了されます。このシャットダウンはファームウェアによって開始され、最初にオペレーティングシステムや実行中のアプリケーションをシャットダウンせずに実行されます。

表 4-24 は、コマンドの有効なパラメータを表示します。

メモ: 警告設定は相互に排他的で、1 度に 1 つしか設定できません。処置設定も相互に排他的で、1 度に 1 つしか設定できません。ただし、警告設定と処置設定は互いに排他的ではありません。

表 4-24 警告処置コマンドのパラメータ

動作	説明
alert=disable	SNMP 警告を無効にします。
alert=enable	SNMP 警告の送信を有効にします。
action=none	システムがハング、またはクラッシュしたときに処置を行いません。
action=powercycle	システムの電源をオフにしてから、一時停止し、再度電源をオンにして、システムを再起動します。
action=poweroff	システムの電源をオフにします。
action=powerreduction	プロセッサのスピードを、電力消費が下がって警告しきい値の以下の値に達するまで、減らします。システムの電力消費が警告しきい値以下である場合、プロセッサのスピードを増加します。 メモ: この処理は、非モジュラーシステムの場合のみ適用できます。
action=reboot	オペレーティングシステムを強制終了し、システム起動を開始して、BIOS チェックを実行してからオペレーティングシステムを読み込み直します。

表 4-25 は、プラットフォームイベントを設定できるコンポーネントとイベントの一覧を表示します。コンポーネントはアルファベット順に表示しますが、警告イベントは常にコンポーネントのエラーイベントより先に表示します。


表 4-25 omconfig system platformevents

イベント名	説明
alertsenable=true false	true: プラットフォームイベントフィルタ警告の生成を有効にします。 false: プラットフォームイベントフィルタ警告の生成を無効にします。 メモ: この設定は個別のプラットフォームイベントフィルタ警告設定とは無関係です。プラットフォームイベントフィルタで警告を生成するには、個別の警告とグローバルイベント警告の両方を有効にする必要があります。
event=batterywarn	バッテリーがエラーの状態を保留していることをバッテリーデバイスが検出した場合の処置を設定するか警告生成を有効または無効にします。
event=batteryfail	バッテリーデバイスでバッテリーが失敗したことが検出された場合に処置を設定するか警告生成を有効または無効にします。
event=discretevolt	別々の電圧プローブで電圧が低すぎて適切な操作が行えないことが検出された場合、処置を設定するか警告生成を有効または無効にします。
event=fanfail	ファンプローブでファンの稼働が遅すぎる、または動いていないことが検出された場合、処置を設定したり警告生成を有効または無効にします。
event=hardwarelogfail	ハードウェアログでエラー値が検出された場合、警告生成を有効または無効にします。
event=intrusion	シャーシが開かれた場合に処置を設定したり、警告生成を有効または無効にします。
event=powerwarn	電源デバイスプローブで電源、電圧規制モジュール、DC から DC への変圧器がエラー条件を保留している場合に処置を設定したり警告生成を有効または無効にします。
event=powerabsent	プロセッサプローブで電源装置が不在であることが検出された場合に処置を設定するか警告生成を有効または無効にします。
event=powerfail	電源デバイスプローブで電源、電圧規制モジュール、DC から DC への変圧器が失敗した場合に処置を設定したり警告生成を有効または無効にします。
event=processorwarn	プロセッサプローブによってプロセッサがピークパフォーマンスまたは速度を下回っていることが検出された場合に処置を設定するか警告生成を有効または無効にします。
event=processorfail	プロセッサプローブでプロセッサが失敗したことが検出された場合に処置を設定するか警告生成を有効または無効にします。
event=processorabsent	プロセッサプローブでプロセッサが不在であることが検出された場合に処置を設定するか警告生成を有効または無効にします。
event=redundegrad	システムのファンまたは電源が動作不能になり、その結果そのコンポーネントの冗長性が不完全になった場合に処置を設定するか、警告生成を有効または無効にします。
event=redunlost	システムのファンまたは電源が動作不能になり、その結果そのコンポーネントの冗長性が失われたか「動作している冗長コンポーネントがない」状態になったときに処置を設定するか、警告生成を有効または無効にします。
event=systempowerwarn	電源消費プローブが警告値を検出した場合の処置を設定します。

event=systempowerfail	電源消費プローブがエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=tempwarn	温度プローブで温度が最大温度または最低温度に近づいていることが検出された場合に処置を設定するか警告生成を有効または無効にします。
event=tempfail	温度プローブで温度が高すぎ、または低すぎて適切な操作ができないことが検出された場合に処置を設定するか警告生成を有効または無効にします。
event=voltfail	電圧プローブで電圧が低すぎて適切な操作が行えないことが検出された場合、処置を設定するか警告生成を有効または無効にします。
event=watchdogasr	システムがハングした、または応答していない場合、ASR によって設定された警告生成を有効または無効にします。

omconfig system events/omconfig servermodule events

omconfig system events または omconfig servermodule events コマンドを使用すると、システム上の SNMP トラップコンポーネントを有効および無効にします。

 **メモ:** すべてのイベントの種類がシステム上にあるとは限りません。

omconfig system events コマンドの「名前=値」ペアには 4 つのパラメータがあります。

- 1 [ソース](#)
- 1 [種類](#)
- 1 [重大度](#)
- 1 [索引](#)

ソース

現在のところ、SNMP が唯一のサポートされた、システムコンポーネントイベント通知ソースなので、source=snmptraps が必要な「名前=値」のペアです。

```
omconfig system events source=snmptraps
または
omconfig servermodule events source=snmptraps
```

種類

イベントの種類は、イベントに関与するコンポーネントの名前を示しています。表 4-26 は、システムイベントの種類の有効なパラメータを表示します。

表 4-26 システムイベントタイプパラメータ

「名前=値」のペア	説明
type=accords	AC 電源コードのイベントを設定します。
type=battery	バッテリーのイベントを設定します。
type=all	すべてのデバイスの種類のイベントを設定します。
type=fanenclosures	ファンエンクロージャのイベントを設定します。
type=fans	ファンのイベントを設定します。
type=intrusion	シャーシイントルージョンのイベントを設定します。
type=log	ログのイベントを設定します。
type=memory	メモリのイベントを設定します。
type=powersupplies	電源装置のイベントを設定します。
type=redundancy	冗長性のイベントを設定します。
type=systempower	システム電源のイベントを設定します。
type=temps	温度のイベントを設定します。
type=volts	電圧のイベントを設定します。
type=systempeakpower	システムピーク電力のイベントを設定します。

重大度

イベント設定のコンテキストでは、重大度は Server Administrator がコンポーネントの種類イベントを通知する前にイベントがどれくらい重大であるかを決定します。同じシステムシャーシに同じ種類の複数のコンポーネントがある場合、index=<n> パラメータを使用して、コンポーネントの番号に従ってイベントの重大度を通知するかどうか指定することもできます。表 4-27 は、有効な重大度のパラメータを表示します。

表 4-27 システム設定重大度パラメータ

コマンド	結果	説明

omconfig system events type=<コンポーネント 名> severity=info または omconfig servermodule events type=<コンポーネント 名> severity=info	情報イベント、警告イベントおよび重要イベントの通知を有効にします。	最も制限の少ないイベント通知。
omconfig system events type=<コンポーネント 名> severity=warning または omconfig servermodule events type=<コンポーネント 名> severity=warning	警告イベントと重要イベントの通知を有効にします。	コンポーネントが通常の状態に戻ったときなどに、情報イベント通知を省略します。
omconfig system events type=<コンポーネント 名> severity=critical または omconfig servermodule events type=<コンポーネント 名> severity=critical	重要イベントのみの通知を有効にします。	制限的なイベント通知。
omconfig system events type=<コンポーネント 名> severity=none または omconfig servermodule events type=<コンポーネント 名> severity=none	イベント通知を無効にします。	イベント通知はありません。

索引

インデックスは、特定のコンポーネントのイベント番号を指します。インデックス パラメータはオプションです。インデックスパラメータを省略すると、イベントは、すべてのファンなど指定された種類のすべてのコンポーネント用に設定されます。たとえば、システムに 2 つ以上のファンが含まれる場合、特定のファンのイベント通知を有効にしたり無効にできます。コマンド例を次に示します。

```
omconfig system events type=fan index=0 severity=critical
または
omconfig servermodule events type=fan index=0 severity=critical
```

このコマンド例の結果、Server Administrator はシステムシャースの最初のファン（インデックス 0）が重大ファン RPM に達した場合にのみ SNMP トラップを送信します。

omconfig system webserver/omconfig servermodule webserver

omconfig system webserver または omconfig servermodule webserver コマンドを使用すると、ウェブサーバーを起動または停止します。表 4-28 は、コマンドの有効なパラメータを表示します。

表 4-28 Web Server 設定パラメータ

「名前=値」のペア	説明
action=start	Web Server を起動します。
action=stop	Web Server を停止します。
action=restart	Web Server を再起動します。

omconfig system recovery/omconfig servermodule recovery

omconfig system recovery または omconfig servermodule recovery コマンドを使って、オペレーティングシステムがハング状態またはクラッシュした場合に実行する操作を設定します。システムのオペレーティングシステムがハング状態にあると判断される前に、何秒間経過する必要があるかを設定することもできます。表 4-29 は、コマンドの有効なパラメータを表示します。


 **メモ:** タイマーの上限と下限はシステムのモデルと構成によって異なります。

表 4-29 回復パラメータ

「名前=値」のペア	説明
action=none	オペレーティングシステムがハングまたはクラッシュした場合に、何もしません。
action=reboot	オペレーティングシステムをシャットダウン後、システムを起動し、BIOS チェックを実行してオペレーティングシステムを再ロードします。
action=poweroff	システムの電源をオフにします。
action=powercycle	システムの電源をオフにしてから、一時停止し、再度電源をオンにして、システムを再起動します。パワーサイクルはハードドライブのようなシステム部品を再初期化する場合に役立ちます。
timer=<n>	システムでオペレーティングシステムがハングの状態にあると判断される前に経過する必要がある秒数（20 秒から 480 秒）

回復コマンド例

オペレーティングシステムのハング状態を検出してからパワーサイクルに移行させるには、次のように入力します。

```
omconfig system recovery action=powercycle
または
omconfig servermodule recovery action=powercycle
```

ハング状態が 120 秒継続してから回復操作を開始するよう設定するには、次のように入力します。

```
omconfig system recovery timer=120
または
omconfig servermodule recovery timer=120
```

omconfig system shutdown/omconfig servermodule shutdown

`omconfig system shutdown` または `omconfig servermodule shutdown` コマンドを使用すると、システムのシャットダウン方法を決定できます。デフォルト設定では、システムのシャットダウン時、電源をオフにする前にオペレーティングシステムをシャットダウンします。オペレーティングシステムをシャットダウンするとまず、システムの電源をオフにする前にファイルシステムを終了します。オペレーティングシステムを最初にシャットダウンしたくない場合は、パラメータ `osfirst=false` を使うことができます。表 4-30 は、コマンドの有効なパラメータを表示します。

表 4-30 シャットダウンパラメータ

「名前=値」のペア	説明
<code>action=reboot</code>	オペレーティングシステムをシャットダウン後、システムを起動し、BIOS チェックを実行してオペレーティングシステムを再ロードします。
<code>action=poweroff</code>	システムの電源をオフにします。
<code>action=powercycle</code>	システムの電源をオフしてから、一時停止し、再度電源をオンにして、システムを再起動します。パワーサイクルは、ハードドライブなどのシステムコンポーネントを再初期化したいときに便利です。
<code>osfirst=true false</code>	true: システムをシャットダウンする前にファイルシステムを終了して、オペレーティングシステムを終了します。 false: システムをシャットダウンする前に、オペレーティングシステムをシャットダウンしたりファイルシステムを閉じたりしません。

シャットダウンコマンド例

シャットダウン後再起動するように設定するには、次のように入力します。

```
omconfig system shutdown action=reboot
または
omconfig servermodule shutdown action=reboot
```

システムの電源をオフにする前に、オペレーティングシステムのシャットダウンを省略するには、次のように入力します。

```
omconfig system shutdown action=reboot osfirst=false
または
omconfig servermodule shutdown action=reboot osfirst=false
```

omconfig system thrmshutdown/omconfig servermodule thrmshutdown

`omconfig system thrmshutdown` または `omconfig servermodule thrmshutdown` コマンドを使用すると、サーマルシャットダウン 処置が設定できます。温度プローブが温度プローブ警告またはエラーイベントを検出する場合に、サーマルシャットダウンが発生するように設定することができます。

表 4-31 は、コマンドの有効なパラメータを表示します。

表 4-31 サーマルシャットダウンパラメーター

「名前=値」のペア	説明
<code>severity=disabled warning failure</code>	disabled: サーマルシャットダウンを無効にします。システム管理者による操作が必要です。 warning: 温度警告イベントが検出されると、シャットダウンを実行します。警告 イベントは、シャーシ内の温度プローブ（摂氏）が最大温度警告しきい値を越えた場合に発生します。 failure: 温度エラーイベントが検出されると、シャットダウンを実行します。 エラーイベントは、シャーシ内の温度プローブ（摂氏）が最大温度エラーしきい値を越えた場合に発生します。

サーマルシャットダウンコマンドの例

温度プローブがエラーイベントを検出した場合に温度シャットダウンをトリガするには、次のように入力します。

```
omconfig system thrmshutdown severity=failure
または
omconfig servermodule thrmshutdown severity=failure
```

システム管理者が **omconfig system shutdown** を手動で開始するように、サーマルシャットダウンを無効にするには、次のように入力します。

```
omconfig system thrmsshutdown severity=disabled  
または  
omconfig servermodule thrmsshutdown severity=disabled
```

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

用語集

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 6.0.1 コマンドラインインタフェース ユーザーズガイド

次のリストでは、Dell™ ユーザーマニュアルで使用される技術用語、略語、頭字語の定義を示します。

A

アンペア (ampere) の略語。

AC

交流電流 (Alternating Current) の略語。

AC 電源スイッチ

主要 AC 入力に障害が起きたときに、スタンバイの AC 入力に切り替えることによって AC 電源冗長を提供する 2 つの AC 電源入力を持つスイッチ。

ADB

割り当てデータベース (assign database) の略語。

AGP

アクセラレイテッドグラフィックポートの略語。Intel® Pentium® Pro システムで使用できる高パフォーマンスのグラフィックスインタフェース。

ASCII

情報交換用米国標準コード (American Standard Code for Information Interchange) の頭字語。ASCII 文字セットの文字だけを含むテキストファイル (通常、Microsoft® Windows® のメモ帳などのテキストエディタで作成) は、ASCII ファイルと呼ばれます。

ASIC

特定用途向け内蔵回路 (Application-Specific Integrated Circuit) の頭字語。

ASPI

アドバンス SCSI プログラムインタフェース (Advanced SCSI programming interface) 。

ASR

自動システム回復 (Automatic System Recovery) の略語。ASR は、1 つまたは複数のドメインがソフトウェアやハードウェアのエラー、または受け入れられない環境のためにシステムが非アクティブになった場合に、システムが適切に設定されたドメインを実行するよう復元する手順から構成されています。

autoexec.bat ファイル

コンピュータを起動すると、config.sys ファイル内のコマンドが実行された後で、autoexec.bat ファイルが実行されます。起動ファイルには、コンピュータに接続されている各デバイスの特定を定義するコマンドが入っており、アクティブディレクトリ以外のディレクトリにあるプログラムを検索して実行します。

BGA

システム基盤への接続にピンではなく球状のアレイを使用する内蔵回路 (IC) パッケージ、ボールグリッドアレイ (Ball Grid Array) の略語。

BIOS

基本入出力システム (Basic Input/Output System) の頭字語。コンピュータの BIOS には、フラッシュメモリチップに格納された複数のプログラムが含まれています。BIOS は、次の事項を制御します。

- 1 プロセッサと周辺デバイス (キーボード、ビデオアダプタなど) との間の通信。
- 1 システムメッセージなどの種々の機能

BMC

ベースボード管理コントローラの省略。このコントローラは IPMI 構造にインテリジェンスを提供します。

bpi

インチあたりのビット数 (bits per inch) の略語。

bps

秒あたりのビット数 (bits per second) の略語。

BTU

英国熱量単位 (British thermal unit) の略語。

C

摂氏 (Celsius) の略語。

CA

認証局 (Certificate Authority) の略語。

CDRAM

キャッシュ DRAM の略語。三菱によって開発された、小さい SRAM キャッシュを含む高速 DRAM メモリチップ。

CD-ROM

コンパクトディスク読み取り専用メモリ (compact disc read-only memory) の略語。CD ドライブは光学技術を使用して、CD からデータを読み取ります。CD は読み取り専用ストレージ デバイスです。標準 CD ドライブで新しいデータを CD に書き込むことはできません。

CI/O

完全入出力 (Comprehensive input/output) の略語。

CIM

DMTF からの管理情報について説明したモデル、Common Information Model の頭字語。CIM は実装に依存しないため、異なる管理アプリケーションでさまざまなソースから必要なデータを収集できます。CIM にはシステム、ネットワーク、アプリケーション、およびデバイスのスキーマが含まれ、新しいスキーマが追加されます。CIM には、シンプルネットワーク管理プロトコール (SNMP) エージェントからの MIB データおよび DMI 対応のシステムからの管理情報フォーマット (MIF) データを CIM データと交換するためのマッピングテクニックが提供されています。

CIMOM

Common Information Model Object Manager の略語。

cm

センチメートルの省略。

CMC

シャーシ管理 コントローラの頭字語

CMOS

相補形金属酸化膜半導体 (Complementary metal-oxide semiconductor) の略語。システムでは、CMOS メモリチップは NVRAM 記憶領域でよく使用されます。

COMn

コンピュータ上にある 1 ~ 4 番目のシリアルポートのデバイス名は、COM1、COM2、COM3、COM4 です。COM1 と COM3 のデフォルト割り込みは IRQ4、COM2 と COM4 のデフォルト割り込みは IRQ3 です。したがって、シリアルデバイスを実行するソフトウェアを設定するときには、割り込みのコンフリクトが発生しないように注意する必要があります。

config.sys ファイル

config.sys ファイルは、システム起動時に (autoexec.bat ファイルでコマンドを実行する前に) 実行されます。この起動ファイルには、インストールするデバイスや使用するドライバを指定するコマンドが含まれます。このファイルには、オペレーティング システムのメモリ使用方法とファイル管理方法を決定するコマンドが含まれます。

COO

所有コスト (Cost Of Ownership) の頭字語。

cpi

インチあたり文字 (characters per inch) の略語。

CPU

中央処理装置 (Central processing unit) の略語。「[マイクロプロセッサ](#)」も参照してください。

CRC

巡回冗長検査コード (Cyclic redundancy code) の略語。破損を検出するために、データのプロックから取り出し、保存、または転送される数値。CRC を再計算して元転送された値と比較することによって、転送エラーの種類を検出できます。

CSR

認証署名要求 (Certificate signing request) の略語。他のシステムへの接続を求めるシステムの身元を特定し認証する、ウェブサーバーによって生成された複雑なテキストファイル。各 CSR に存在するデジタル署名は、システムのセキュリティを特定するの役に立ちます。

Server Administrator を実行しているシステムに Remote Access Controller がある場合、Remote Access Controller に付属している CSR は Dell に属します。会社が独自の CSR を生成する場合、認証局から固有の CSR を要求して、Dell CSR を上書きすることができます。

DAT

デジタルオーディオテープ (Digital Audio Tape) の略語。

dB

デシベル (decibel) の略語。

dBA

補正デシベル (adjusted decibel) の略語。

DC

直流電流（Direct Current）の略語。

DHCP

ダイナミックホスト設定プロトコル (Dynamic Host Configuration Protocol) の略語。IP アドレスを各システムに静的に割り当ててではなく、サーバによって発行するネットワークの設定方法。

DIMM

デュアルインラインメモリモジュール（Dual in-line memory module）の略語。DRAMチップを持つ小さな回路基板で、システム基板に接続します。

DIN

ドイツ工業規格である Deutsche Industrie Norm の頭字語。ドイツの標準設定を行う組織。

DIN コネクタは、DIN によって定義された多くの標準に従うコネクタです。DIN コネクタは、パソコンで幅広く使用されています。たとえば、パソコンのキーボードコネクタは DIN コネクタです。

DIP

デュアルインラインパッケージ（dual in-line package）の頭字語。システム基板や拡張カードなどの回路基板には、回路基板を設定するための DIP スイッチが含まれている場合があります。DIP スイッチは常にオンとオフの切り替えスイッチです。

DMA

ダイレクトメモリアクセス（direct memory access）の略語。DMA チャンネルを使うと、RAM とデバイス間の特定の種類のデータ転送を行ってマイクロプロセッサをバイパスできます。

DMI

デスクトップ管理インタフェース（Desktop Management Interface）の略語。DMI はコンピュータシステムのソフトウェアおよびハードウェアの管理を有効にします。DMI は、オペレーティングシステム、メモリ、周辺機器、拡張カード、およびアセットタグなどのシステムコンポーネントに関する情報を収集します。システムコンポーネントに関する情報は、MIF 形式のファイルとして表示されます。

DMTF

Distributed Management Task Force の略で、デル社がメンバーとして加盟するハードウェアおよびソフトウェア プロバイダを代表する企業の国際的な資本連合。

dpi

インチあたりドット (dots per inch) の略語。

DPMS

ディスプレイ電力管理信号（Display Power Management Signaling）の略語。モニタの電力管理状態をアクティブにするために、ビデオ コントローラが送信するハードウェア信号を定義する Video Electronics Standards Association（VESA）によって作成された標準。モニタは、システムのビデオコントローラから適切な信号を受信した後で電力管理状態に入るよう設計されている場合、DPMS 準拠と呼ばれます。

DRAC

リモート管理機能（Remote Management Capability）を示します。 [RAC](#)を参照してください。

DRAM

ダイナミックランダムアクセスメモリ（Dynamic random-access memory）の頭字語。システムの RAM は通常、DRAM チップによって構成されています。DRAM チップは無限に充電状態を保存できないため、システムは各 DRAM チップを継続的にリフレッシュします。

DTE

データ端末装置 (Data terminal equipment) の略語。コンピュータシステムのように、ケーブルまたは通信回線を使ってデジタル形式でデータを送信できるデバイス。DTE は、モデムのようなデータ通信機器 (DCE) デバイス を使って、ケーブルまたは通信回線に接続されます。

ECC

誤り検出訂正 (Error checking and correction) の略語。

ECP

拡張機能ポート (Extended Capabilities Port) の略語。

EDO

拡張データ出力ダイナミックランダムアクセス メモリ (Extended data output dynamic random access memory) の略語。コンベンショナル DRAM より高速な DRAM です。EDO RAM は、前のブロックを CPU に送信すると同時に次のブロックのメモリを取得することができます。

EEPROM

電氣的消去可能な PROM (Electrically erasable programmable read-only memory) の略語。

EIDE

Enhanced Integrated Drive Electronics の略語。EIDE デバイスは、従来の IDE 標準に、1 つ以上の次の拡張機能を提供します。

- 1 最大 16 MB / 秒のデータ転送レート。
- 1 CD ドライブなど、ハードドライブ以外のドライブもサポート。
- 1 528 MB 以上の容量を持つハードドライブをサポート。
- 1 2 つのデバイスを接続したコントローラを最大 2 つまでサポート。

EISA

32 ビット拡張バスデザインである拡張業界標準アーキテクチャ (Extended Industry-Standard Architecture) の略語。EISA システムの拡張カード コネクタは、8 ビットまたは 16 ビットの ISA 拡張カードとも互換性があります。

EISA 拡張カードをインストールするときに設定コンフリクトを回避するには、EISA コンフィグレーションユーティリティを使用する必要があります。このユーティリティは、どの拡張スロットにカードを入れるか指定し、対応する EISA 設定ファイルからカードの必要システムリソース情報を取得します。

EMC

電磁環境適合性 (Electromagnetic Compatibility) の略語。

EMI

電磁妨害 (Electromagnetic interference) の略語。

EMM

拡張メモリマネージャ (Expanded memory manager) の略語。Intel 386? 以降のマイクロプロセッサでシステムの拡張メモリをエミュレートする拡張メモリを使用するユーティリティ。

EMS

拡張メモリ仕様 (Expanded Memory Specification) の略語。

EPP

双方向データ転送を向上させる拡張パラレルポート (Enhanced Parallel Port) の略語。ネットワークや SCSI アダプタなど、ノートブックコンピュータのパラレルポートに接続する多くのデバイスはこの EPP 標準を利用するように設計されています。

EPROM

消去可能 PROM (erasable programmable read-only memory) の略語。

ERA

埋め込みリモートアクセス (Embedded Remote Access) の略語。

ERA/O

埋め込みリモートアクセスオプション (Embedded Remote Access Option) の略語。

ESD

静電気放電 (Electrostatic discharge) の略語。

ESM

埋め込みサーバ管理 (Embedded Server Management) の略語。

F

華氏の省略。

FAT

ファイル割り当てテーブル (File allocation table) の頭字語。FAT はファイル保存の記録と管理のために MS-DOS で使用されるファイルシステム構造です。Windows NT オペレーティングシステム (および以降の Windows バージョン) は、オプションとして FAT ファイルシステム構造を使用できます。

FCC

連邦通信委員会 (Federal Communications Commission) の略語。

FEPROM

フラッシュ消去可能 PROM (Flash Erasable Programmable Read-Only Memory) の略語。フラッシュメモリは EEPROM に似た非揮発性ストレージデバイスの一種ですが、消去がブロックまたはチップ全体単位で行われます。

FIFO

first-in, first-out の略語。コンピュータプログラミングで FIFO (first-in, first-out) は、キューまたはスタックからのプログラム作業要求を扱う方法です。これで最も古い要求順に取り出すことができます。

FPBGA

高密度のゲートを持つプログラム可能ロジックチップ (PLD) である、フィールドプログラム可能ゲートアレイ (Field programmable gate array) の頭字語。

FRU

フィールド置換ユニット (Field replaceable unit) の頭字語。

FTP

ファイル転送プロトコル (File transfer protocol) の略語。

G

重力の略語。

GB

ギガバイト (Gigabyte) の略語。1 ギガバイトは 1,024 メガバイトまたは 1,073,741,824 バイトに相当します。

GUI

グラフィカルユーザインタフェース (Graphical user interface) の頭字語

h

16 進法 (Hexadecimal) の略語。基本の 16 進数システムは、システムの RAM やデバイスの I/O メモリのアドレスを識別するためにプログラミングでよく使用されます。たとえば、0 ~ 16 の 10 進数のシーケンスは、16 進数では 0、1、2、3、4、5、6、7、8、9、A、B、C、D、E、F、10 という表記で表します。テキストでは 16 進数には *h* がつくことがよくあります。

HIP

Dell™ OpenManage™ Hardware Instrumentation Package の略語。

HMA

ハイメモリ領域 (high memory area) の略語。1 MB を超える拡張メモリの最初の 64 KB を指します。XMS に準拠するメモリマネージャは、コンベンショナルメモリの直接的な拡張領域として HMA を使用することができます。 [上位メモリ領域](#)および[XMM](#) も参照してください。

HPFS

Windows NT]以降のオペレーティングシステムの高性能ファイルシステム (High Performance File System) オプションの略語。

HTTPS

ハイパーテキスト転送プロトコル、セキュリティ (HyperText Transmission Protocol, Secure) の略語。HTTPS は HTTP のセキュリティ強化版で、ウェブブラウザがセキュリティ保護されたトランザクションを処理するのに使用されます。HTTPS は、SSL が HTTP 下にある固有のプロトコルです。HTTP URL で SSL を持つものには "https://" を、SSL のない HTTP URL には引き続き "http://" を使用する必要があります。

Hz

ヘルツ (Hertz) の略語。

I/O

入出力 (input/output) の略語。キーボードは入力デバイスで、プリンタは出力デバイスです。一般に、I/O 処理は計算処理とは区別されます。たとえばプログラムが文書をプリンタに送信すると、プリンタは出力作業を行います。一方、プログラムが用語を並べ替える作業はコンピュータ計算作業と考えられます。

ICES

カナダ規格、Interference Causing Equipment Standard の略語。

ICU

ISA Configuration Utility (ISA コンフィグレーションユーティリティ) の略語。

ID

身分証明 (Identification) の略語。

IDE

Integrated Drive Electronics の略語。IDE は、ハードドライブや CD で主に使用されているコンピュータシステムインタフェースです。

IDRAC6

内蔵 Dell Remote Access Controller の頭字語。

IHV

独立ハードウェアベンダ (Independent hardware vendor) の略語。IHV はしばしば、製造するコンポーネント用に独自の MIB を開発します。

IP

インターネットプロトコル (IP) は、データをインターネット上で 1 つのコンピュータから別のコンピュータに送信する方法、またはプロトコルです。インターネット上の各コンピュータ (ホストと呼ばれる) には、最低 1 つの IP アドレスが付いており、インターネットの他のすべてのコンピュータから一意に識別します。

IPMI

Intel アーキテクチャに基づいた企業用コンピュータの周辺機器管理の業界標準であるインテリジェントプラットフォーム管理インタフェース (Intelligent Platform Management Interface) の略語。IPMI の主な特徴は、インベントリ、モニター、ログおよび回復制御機能が、メインのプロセッサ、BIOS、およびオペレーティングシステムと関係なく提供されていることです。

IPX

インターネットワークパケット交換 (Internetwork packet exchange) の略語。

IRQ

割り込み信号 (Interrupt request) の略語。周辺デバイスによってデータ送受信される信号は、IRQ 回線を通じてマイクロプロセッサに送られます。各周辺機器の接続に IRQ 番号を割り当てる必要があります。たとえば、システムの最初のシリアルポート (COM1) はデフォルトで IRQ4 に割り当てられます。2 つのデバイスで同じ IRQ 割り当てを共有することはできますが、両方のデバイスを同時に実行することはできません。

ISA

業界標準アーキテクチャ (Industry-Standard Architecture) の頭字語。16 ビット拡張バスのデザイン。ISA コンピュータの拡張カードコネクタは 8 ビット ISA 拡張カードとも互換性があります。

iSCSI

インターネット SCSI の頭字語。データストレージ機能にリンクする IP ベースストレージネットワーク標準。IP ネットワーク上に SCSI コマンドを実行すると、iSCSI を使用して、インターネット上のデータ転送および離れた場所のストレージの管理が行われます。

ITE

情報技術機器 (Information technology equipment) の略語。

JVM

Java Virtual Machine の頭字語。

K

キロ、1,000 の単位。

KB

キロバイトの略語。1,024 バイト。

KB/sec

秒あたりのキロバイト (kilobytes per second) の略語。

Kbit(s)

キロビットの略語。1,024 ビット。

Kbit(s)/sec

秒あたりのキロビット (kilobits per second) の略語。

Kerberos

ネットワーク認証プロトコルであり、秘密キー暗号化で、クライアント・サーバーアプリケーションの強い認証を提供するように設計されています。

kg

キログラム。1 kg は 1,000 グラムに相当します。

kHz

キロヘルツ (kilohertz)。1 kHz は 1,000 ヘルツに相当します。

LAN

ローカルエリアネットワーク (local area network) の頭字語。LAN システムは、LAN 専用回線によってすべての機器をつなぐため、通常、同じ建物か近くのいくつかの建物間に限られています。

lb

ポンドの略語。

LCC

リーディッドまたはリードレスチップキャリア (Leaded or leadless chip carrier) の略語。

LDAP

軽量ディレクトリアクセスプロトコル (Lightweight Directory Access Protocol) の略語。TCP/IP 上で実行しているディレクトリサービスを検索したり、変更したりするためのネットワークプロトコル。

LED

発光ダイオード (light-emitting diode) の略語。電流が流れると点灯する電子部品です。

LIF

Low insertion force の略語。システムの中には、LIF ソケットとコネクタを使用して、マイクロプロセッサ チップなどのデバイスを、デバイスになるべく負担をかけないようにして設置または取り外すものがあります。

LOM

マザーボード上の LAN (LAN on Motherboard) の頭字語。

LPTn

システムの 1 番目から 3 番目のパラレルプリンタポートのデバイス名は、LPT1、LPT2、および LPT3 です。

LRA

ローカルレスポンスエージェント (local response agent) の頭字語

LSドライブ

レーザーサーボテクノロジーを使って、標準 3.5 インチディスクとともに 120 MB までのデータを格納できる LS 120 ディスケットを読み込むドライブ。

LSI

Large-Scale Integration の頭字語。

LUN

Logical Unit Number の略語。SCSI ID を共有する複数のデバイスの中から特定のデバイスを選択するために使われるコード。

mA

ミリアンペアの略語。

mAh

ミリアンペア時 (milliampere-hour) の略語。

Mb

メガビット (megabit) の略語。

MB

メガバイト (megabyte) の略語。1 メガバイトは 1,048,576 バイトです。ただし、ハードディスクドライブの容量を表すときには、1 MB = 1,000,000 バイトを意味する場合があります。

MB/sec

1秒あたりのメガバイト数 (megabyte (s) per second) の略語。

Mbps

1 秒あたりのメガビット数 (megabits per second) の略語。

MBR

マスタートレコード (master boot record) の略語。

MCA

マルチプロセッシング用に設計されたマイクロチャネルアーキテクチャ (Micro Channel Architecture) の略語。MCA は新しい周辺デバイスを取り付けるときに発生する可能性のあるコンフリクトをなくします。MCA は EISA または XT バス アーキテクチャとは互換性がないため、古いカードと一緒に使用することはできません。

MHz

メガヘルツ (megahertz) の略語。

MIB

管理情報ベース (management information base) の頭字語。MIB を使用して、SNMP 管理デバイスとの間で状態 / コマンドの詳細を送受信します。

MIDI

musical instrument digital interface の略語。

MIF

管理情報フォーマット (management information format) の頭字語。MIF ファイルには、情報、状態、コンポーネント計装へのリンクが入っています。MIF ファイルが、DMI サービスレイヤによって MIF データベースにインストールされます。MIF の内容は DTMF 作業委員会によって定義されており、MIF 定義ドキュメントとして公開されています。このマニュアルでは、DMI 管理可能コンポーネントに関するグループや属性を識別しています。

mm

ミリメートルの省略。

MOF

Managed Object Format の頭字語。これは ASCII ファイルで、CIM スキーマの正式な定義が含まれます。

MPEG

Motion Picture Experts Group の頭字語。MPEG はデジタルビデオファイルのフォーマットです。

ms

ミリ秒 (millisecond) の略語。

MTBF

平均故障間隔 (mean time between failures) の略語。

mV

ミリボルト (millivolt) の略語。

NDIS

Network Driver Interface Specification の略語。

NIC

network interface controller の頭字語。

NIF

network interface function の頭字語。この用語は NIC と同義です。

NIS

network Information system の略語。NIS は、小規模ネットワーク用のネットワーク命名および管理システムです。すべてのホストのユーザーが、1 つのユーザー ID およびパスワードで、ネットワーク内にあるすべてのホスト上のファイルまたはアプリケーションにアクセスすることができます。

NMI

マスク不可能割り込み (nonmaskable interrupt) の略語。デバイスは NMI を送信して、ハードウェアエラー (パリティエラーなど) をマイクロプロセッサに知らせます。

ns

ナノ秒 (nanosecond) の略語。1 ナノ秒は、10 億分の 1 秒です。

NTFS

Windows NT と以降のオペレーティングシステムの NT ファイルシステムオプションの略語。

NuBus

Apple Macintosh パーソナルコンピュータで使用する専用拡張バス。

NVRAM

non-volatile random-access memory の略語。NVRAM は、コンピュータの電源を切っても情報が保持されるメモリです。NVRAM は、日付、時刻、システム設定情報の保持に使用されません。

OEM

Original Equipment Manufacturer の略語。OEM は、再販業者のブランド名を使って、再販または別の製品を製造するために、設備を他のメーカーに供給する会社。

OID

object identifier の略語。オブジェクトを一意に識別する、実装固有の整数またはポインタ。

OSWDT

Operating System Watchdog Timer の略語。watch dog timer は、システムのハードウェアのタイミングデバイスであり、オペレーティングシステムは応答しない場合、システムをリセットするようにトリガーします。

OTP

一回限りプログラム可能 (one-time programmable) の略語。

PCI

周辺機器相互接続 (Peripheral Component Interconnect) の略語。PCI は、Intel Corporation が開発したローカルバス規格です。

PCMCIA

Personal Computer Memory Card International Association の略語。ノートブックコンピュータに接続できるモデムや外付けハードドライブなどのデバイスの規格を作成した国際通商協会。

PERC

Expandable RAID controller の頭字語。

PGA

pin grid array の略語。マイクロプロセッサチップの取り外しが可能なマイクロプロセッサソケット。

PIC

プログラム可能割り込み信号コントローラ (programmable interrupt controller) の頭字語。

PIP

周辺交換プログラム (peripheral interchange program) の頭字語。ファイルをコピーするために使用した CP/M ユーティリティプログラム。

PLCC

プラスチックリーデッドチップキャリア (plastic leaded chip carrier) の頭字語。

PME

電力管理イベント (Power Management Event) の略語。PME は、PCI デバイスがウェイク イベントを判断できるようにする周辺機器相互接続上のピンです。

POST

電源投入時自己診断 (power-on self-test) の頭字語。コンピュータの電源を入ると、オペレーティングシステムがロードされる前に、POST によってさまざまなシステムコンポーネント (RAM、ディスクドライブ、キーボードなど) がテストされます。

ppm

1分あたりのページ数 (pages per minute) の略語。

PQFP

plastic quad flat pack の略語。マイクロプロセッサチップが固定されて取り外しできないマイクロプロセッサソケット。

PS

電源装置 (power supply) の略語。

PS/2

Personal System/2 の略語。

PXE

Preboot eXecution Environment の略語。

QFP

クワッドフラットパック (quad flat pack) の略語。

RAC

Remote Access Controller の頭字語。Dell OpenManage Server Administrator は、すべての RAC をサポートします。これには、DRAC II、DRAC III、DRAC III/XT、ERA、および

び ERA/O が含まれています。

RAID

Redundant array of independent drives の頭字語。

RAM

ランダムアクセスメモリ (Random-Access Memory) の略語。プログラムの命令やデータの保存に使用される主要な一時記憶領域。RAM 内部の各領域は、メモリアドレスと呼ばれる数値によって識別されます。コンピュータの電源を切ると、RAM に格納されたすべての情報が失われます。

RAMBUS

Rambus[®] DRAM の略語。Rambus, Inc. が開発したメモリ (DRAM) の種類。

RAMDAC

ランダムアクセスメモリデジタルアナログコンバータ (random-access memory digital-to-analog converter) の頭字語。

Raw

未処理。この用語は、I/O デバイスに未解釈で渡されるデータを指します。逆にクックド (cooked) は、I/O デバイスに渡される前に処理されたデータを指します。

しばしば、専用のフォーマットに保存されていない非圧縮テキストを指すこともあります。この用語は、端末へのデータ出力のクックドモードとローモードをサポートする UNIX から来ています。

RDRAM

Rambus DRAM の頭字語。Rambus, Inc. のダイナミック RAM チップ テクノロジー、ダイレクト RDRAM がコンピュータで使用されています。ダイレクト RDRAM チップは RIMM モジュールにあります。これは DIMM に似ていますが、ピン設定が異なります。チップをデュアルチャネルで作成して、転送レートを 2 倍の 3.2 GB/秒にすることができます。

readme ファイル

ソフトウェアパッケージまたはハードウェア製品に付属しているテキストファイル。そのソフトウェアまたはハードウェアに関する補足情報やマニュアルのアップデートが入っています。通常、readme ファイルには、インストール情報、新製品の拡張機能、マニュアルに記載されていない訂正事項、確認されている問題点など、その製品を使用する際に必要な情報が入っています。

RFI

無線周波数干渉 (radio frequency interference) の略語。

RGB

赤 / 緑 / 青 (red/green/blue) の略語。

RIMM

Rambus In-line Memory Module の略語。Rambus の DIMM モジュールに相当します。

ROM

読み取り専用メモリ (read-only memory) の頭字語。コンピュータのプログラムの中には、ROM コードで実行しなければならないものがあります。RAMとは違って、コンピュータの電源を切っても、ROM チップの内容は保持されます。ROM コードの例として、コンピュータのブートルーチンと POST を起動するプログラムなどが挙げられます。

ROMB

マザーボード上の RAID (RAID on Motherboard) の頭字語。RAID コントローラがシステムの基板に統合されている場合、このシステムは ROMB テクノロジーを搭載しています。

RPM

1分あたりの回転数 (revolutions per minute) の略語。

RTC

リアルタイムクロック (real-time clock) の略語。RTC はコンピュータに内蔵されたバッテリー方式のクロック回路で、コンピュータの電源を切っても日付と時刻の情報が保持されます。

SAS

serial attached SCSI の頭字語。

SCA

単一コネクタ接続 (single connector attachment) の略語。

SCSI

小型コンピュータシステムインタフェース (small computer system interface) の頭字語。通常のポートよりも速いデータ転送レートを持つ I/O バスインタフェース。1つの SCSI インタフェースに最大 7 個 (新しい SCSI タイプによっては15個) のデバイスを接続できます。

SDMS

SCSI デバイス管理システム (SCSI device management system) の略語。

sec

秒 (second) の略語。

SEC

単一エッジコンタクト (single-edge contact) の略語。

SGRAM

synchronous graphics RAM の頭字語。

SIMD

Single Instruction Multiple Data の略語。

SIMM

single in-line memory module の頭字語。DRAMチップを持つ小さな回路基板で、システム基板に接続します。

SIP

single in-line package の頭字語。接続ピンが一方から突き出た電子コンポーネントのハウジングの一種。SIP は、シングルインライ ピンパッケージ (Single In-line Pin Package-SIPP) とも呼ばれます。

SKU

stock keeping unit の頭字語。

SMART

Self-Monitoring Analysis and Reporting Technology の頭字語。ハードディスクドライブにエラーや障害があった場合に、システム BIOS が報告し、画面にエラーメッセージを表示するための技術です。この技術を利用するには、SMART 準拠のハードディスクドライブおよびシステム BIOS のサポートが必要です。

SMBIOS

system management BIOS の頭字語。

SMD

surface mount device の略語。

SMTTP

Simple Mail Transfer Protocol の略語。インターネットを介して電子メールを通信する方法。

SNMP

シンプルネットワーク管理プロトコル (Simple Network Management Protocol) の略語。SNMPは、ネットワークマネージャがワークステーションをリモートで監視および管理するための業界標準のインタフェースです。

SODIMM

small outline-DIMM の頭字語。TSOP チップパッケージの使用により、薄型プロファイルを持つ DIMM モジュール。SODIMM は一般にノートブックコンピュータで使用されます。

SRAM

静的ランダムアクセスメモリ (static random-access memory) の略語。SRAM チップは定期的なリフレッシュを必要としないため、DRAM チップよりかなり高速です。

SVGA

super video graphics array の略語。VGA と SVGA は、従来の規格よりも優れた解像度と色表示機能を持つビデオアダプタに関するビデオ規格です。

特定の解像度でプログラムを表示するには、適切なビデオドライバとその解像度をサポートしているモニターが必要です。同様に、プログラムが表示可能な表示色数は、モニターの性能、ビデオドライバ、およびビデオメモリの量によって決まります。

system.ini ファイル

Windows オペレーティングシステム用の起動ファイル。Windows を起動すると、system.ini ファイルが参照されて、Windows 動作環境の各種オプションが設定されます。system.ini ファイルには、Windows 用にインストールされているビデオ、マウス、キーボードのドライバの種類に関する情報などが記録されています。

コントロールパネルまたは Windows セットアッププログラムを実行すると、system.ini ファイルのオプションを変更できます。それ以外の場合は、メモ帳などのテキストエディタを使用して、手作業で system.ini ファイルのオプションの変更や追加を行う必要があります。

tpi

1 インチあたりのトラック数 (tracks per inch) の略語。

TPM

Trusted Platform Module の頭字語

TQFP

薄型クワッドフラットパック (thin quad flat pack) の略語。

TSR

メモリ常駐 (terminate-and-stay-resident) の略語。TSR プログラムは、「背景」で実行します。ほとんどの TSR プログラムには、定義済みのキーコンビネーション (「ホットキー」とも呼ばれる) が組み込まれており、別のプログラムを実行している間に TSR プログラムのインタフェイスを起動することができます。TSR プログラムを使い終わったら、元のアプリケーションプログラムに戻り、TSR プログラムをメモリに常駐させて後で再使用することができます。

TSR プログラムは、メモリ コンフリクトを引き起こす場合があります。トラブルシューティングを行うときは、TSR プログラムを起動しない状態でコンピュータをリブートして、このようなメモリコンフリクトの可能性を除外してください。

UART

Universal asynchronous receiver transmitter の頭字語。シリアルポートを構成する電子回路。

UDP

ユーザーデータグラムプロトコル (user datagram protocol) の頭字語。

UL

Underwriters Laboratories の略語。

UMB

上位メモリブロック (upper memory block) の略語。

unicode

固定幅の 16 ビットの世界共通文字コードで、Unicode Consortium によって開発され、管理されています。

UPS

無停電電源装置 (Uninterruptible power supply) の略語。停電が発生するとコンピュータに自動的に電力を供給する バッテリ内蔵の電源装置のことです。

USB

Universal Serial Bus の略語。USB コネクタは、マウス、キーボード、プリンタ、スピーカなど、USB 準拠の複数のデバイスに対応しています。また、USB デバイスはシステムの実行中に取り付けたり取り外したりすることができます。

UTP

unshielded twisted pair (シールドなしツイストペア) の略語。

UUID

ユニバーサル固有識別 (Universal Unique Identification) の略語。

V

ボルトの略語。

VAC

ボルト交流 (volt(s) alternating current) の略語。

varbind

オブジェクト識別子 (OID) の割り当てに使用されるアルゴリズム。varbind は、企業を一意に識別する 10 進数接頭辞に到達する規則を提供するとともに、その企業の MIB で定義されるオブジ

エクトの一意 ID を指定する数式も提供します。

VCCI

Voluntary Control Council for Interference の略語。

VDC

ボルト直流 (volts direct current) の略語。

VESA

ビデオ電子規格協会 (Video Electronics Standards Association) の頭字語。

VGA

video graphics array の略語。VGA と SVGA は、従来の規格よりも高解像度の色表示機能を持つビデオアダプタに関するビデオ規格です。特定の解像度でプログラムを表示するには、適切なビデオドライバとその解像度をサポートしているモニターが必要です。また、プログラムで表示できるカラーの数は、モニターやビデオドライバの機能と、ビデオアダプタに搭載されたビデオメモリの容量に応じて異なります。

VGA 対応コネクタ

VGA ビデオアダプタが内蔵された一部のシステム上では、VGA 対応コネクタを使用すると、ビデオアクセラレータなどの拡張アダプタをコンピュータに追加することができます。VGA 対応コネクタは、VGA バスルーコネクタとも呼ばれます。

VLSI

超大規模集積回路 (very-large-scale integration) の略語。

VLVESA

very low voltage enterprise system architecture の頭字語。

vpp

ピーク時電圧 (peak-point voltage) の略語。

VRAM

ビデオランダムアクセスメモリ (video random-access memory) の略語。ビデオアダプタの中には、VRAM チップ (または VRAM と DRAM の組み合わせ) を使用してビデオ性能の向上を図っているものがあります。VRAM はデュアルポートであるため、ビデオアダプタを通じて、画面の更新と新しい画像データの受信を同時に行うことができます。

VRM

電圧調整モジュール (Voltage Regulator Module) の略語。

W

ワット (watt) の略語。

Wakeup on LAN

ネットワークによってクライアントステーションの電源をオンにできる機能。リモート ウェイクアップを使うと、就労日が終わってからユーザーのマシン上でソフトウェアのアップグレードやその他の管理タスクを実行することができます。また、リモート ユーザーがオフになっているマシンにアクセスすることもできます。Intel ではリモート ウェイクアップを「Wake-on-LAN」と呼びます。

WH

watt-hour (s) (1 時間当たりのワット数) の略語。

win.ini ファイル

Windows オペレーティングシステム用の起動ファイル。Windows を起動すると、win.ini ファイルが参照されて、Windows の操作環境のさまざまなオプションが設定されます。win.ini ファイルにはおもに、Windows にインストールされているプリンタとフォントが記録されています。また、win.ini ファイルには通常、ハードディスクドライブにインストールされている Windows アプリケーションプログラムのオプションを設定するセクションも含まれています。

コントロール パネルか Windows セットアッププログラムを実行すると、win.ini ファイルのオプション変更する可能性があります。それ以外の場合は、メモ帳などのテキストエディタを使用して、手作業で win.ini ファイルのオプションの変更や追加を行う必要があります。

Winbind

異種機環境のネットワーク内のユーザーが、UNIX オペレーティングシステムを実行しているワークステーションからでもログインできるようにするプログラム。このプログラムは、Windows を各 UNIX ワークステーションに対し UNIX のように見せかけることで、Windows ドメインで UNIX ワークステーションを機能させます。

XMM

拡張メモリマネージャ (eXtended Memory Manager) の略語。XMM は、アプリケーションプログラムやオペレーティングシステムで、XMS に準拠する拡張メモリを使用できるようにするユーティリティです。

XMS

拡張メモリ仕様 (eXtended Memory Specification) の略語。

ZIF

ゼロ圧力 (zero insertion force) の頭字語。一部のコンピュータでは、ZIF ソケットや ZIF コネクタを使用して、デバイス (マイクロプロセッサチップなど) の取り付けや取り外しを行うときにデバイスに圧力がかからないようにします。

ZIP

Iomega の 3.5 インチのリムーバブルディスクドライブ。従来は取り外し可能な 100-MB カートリッジを提供していました。ドライブは、ディスクをカタログ化してセキュリティのためにファイルをロックするソフトウェアとバンドルされています。

250 MB バージョンの Zip ドライブも 100 MB の Zip カートリッジに読み書きします。

アクセス

変数値に対してユーザーが行うことのできる動作。例として、読み取り専用や読み取り/書き込みなどがあります。

アセットタグコード

通常はシステム管理者によって、セキュリティやトラッキング目的でコンピュータごとに割り当てられるコード。

アダプタカード

コンピュータのシステム基板上の拡張カードコネクタに差し込む拡張カード。アダプタカードは、拡張バスと周辺デバイス間のインタフェースを提供することによって、コンピュータに特殊な機能を追加します。アダプタカードの例として、ネットワークカード、サウンドカード、SCSI アダプタなどが挙げられます。

インタレース

画面の代替走査線をアップデートすることによりビデオ解像度を向上させる技術。インタレースを行うと画面のちらつきが出るため、ほとんどのユーザーはインタレース処理をしないビデオアダプタ解像度を使用します。

ウイルス

システムに損害を与えるように設計された自己起動型プログラム。ウィルスプログラムは、ハードディスクドライブに格納されたファイルを破壊したり、システムやネットワークのメモリが一杯になるまで自己増殖したりすることが知られています。

一般的に、ウイルスプログラムは「感染した」ディスクから自分自身をハードディスクドライブにコピーすることによって、数多くのシステムに感染していきます。ウイルスからシステムを保護するために、次のような対策を講じてください。

- 1 コンピュータのハードディスクドライブに対して定期的にウイルス検査ユーティリティを実行します。
- 1 ディスク（市販のソフトウェアも含みます）を使用する前に、そのディスクに必ずウイルス検査ユーティリティを実行します。

オンラインアクセスサービス

インターネット、電子メール、掲示板、チャットルームおよびファイルライブラリなどへのアクセスを提供するサービス。

カーソル

ブロック、アンダースコア、ポイントなど、次のキーボードまたはマウス動作が起きる場所を表すマーカ。

書き込み防止

読み取り専用ファイルは、書き込み防止されていると言われます。 3.5 インチのディスクを書き込み防止するには、ディスクの書き込み防止タブをスライドさせて開くか、セットアップユーティリティで書き込み禁止機能を設定します。

拡張カードコネクタ

拡張カードを接続するための、システムのシステム基板またはライザボードのコネクタ。

拡張バス

システムには、ネットワークカードや内部モデムなど、周辺デバイスのコントローラと通信できる拡張バスが含まれています。

拡張メモリ

1 MB を超える RAM。Windows オペレーティング システムなど、これを使用するほとんどのソフトウェアでは、拡張メモリがXMM の制御下にある必要があります。

拡張メモリ (expanded memory)

1 MB を超える RAM にアクセスする技術。コンピュータで拡張メモリを有効にするには、EMM を使用する必要があります。拡張メモリを使用する（または必要とする）アプリケーション プログラムを実行している場合のみ、EMS メモリをサポートするようにシステムを設定する必要があります。

仮想メモリ

ハードディスクドライブを使用して、アドレッシング可能な RAM を増加させる技法。たとえば、16 MB の RAM を装備したコンピュータのハードディスクドライブ上で 16 MB の仮想メモリをセットアップした場合、オペレーティングシステムでは、32 MB の物理 RAM が存在する場合と同様の方法でシステムメモリが管理されます。

機能

オブジェクトが実行できる動作、または管理オブジェクトで実行できる動作を示します。たとえば、カードがホットプラグ対応の場合、システム電源がオンの状態でカードを取り替えることができます。

キャッシュ

データのコピーまたはデータをすばやく取得するための手順を保管しておく記憶領域。たとえば、システムの BIOS は、ROM コードを高速 RAM にキャッシュする場合があります。または、ディスクキャッシュユーティリティで RAM を予約して、システムのディスクドライブからアクセス頻度の高い情報を保存することができます。プログラムがキャッシュにあるデータをディスクドライブに要求すると、ディスクキャッシュユーティリティはディスクドライブより速く RAM からデータを取得することができます。

グラフィックコプロセッサ

[コプロセッサ](#) を参照してください。

グループ

DMI 関連では、グループは管理可能なコンポーネントについての共通の情報または属性を定義するデータ構造です。

コプロセッサ

システムのマイクロプロセッサから特定の処理タスクを開放するチップ。たとえば、数値演算コプロセッサは数値演算処理を行います。グラフィック コプロセッサはビデオ レンダリングを処理します。たとえば、Intel Pentium マイクロプロセッサには、数値演算コプロセッサが組み込まれています。

コントローラ

マイクロプロセッサとメモリ間やマイクロプロセッサと周辺デバイス（ディスクドライブやキーボードなど）間のデータ転送を管理するチップ。

コントロールパネル

電源スイッチ、ハードドライブアクセスインジケータ、および電源インジケータなど、インジケータとコントロールを含むシステムの一部。

コンベンショナルメモリ

RAM の最初の 640 KB の部分。コンベンショナルメモリはすべてのシステムにあります。MS-DOS プログラムは、特別に設計されていない限り、コンベンショナルメモリ内でのみ実行されます。

コンポーネント

DMI 関連では、管理可能なコンポーネントとは、オペレーティングシステム、コンピュータシステム、拡張カード、または DMI と互換性のある周辺機器を指します。各 コンポーネントは、そのコンポーネントに関連して定義されるグループおよび属性で構成されます。

サービスタグナンバー

コンピュータ上のバーコードラベルはお客様が デル社のカスタマー サポートやテクニカル サポートへ問い合わせる際の識別番号が記載されています。

しきい値

温度、電圧、電流およびファン速度などを監視するセンサーを備えたシステム。センサーのしきい値は、センサーが通常、非重要、重要または危険状態で稼働しているかを決定する範囲（最小値と最大値）を指定します。Dell がサポートするしきい値:

- 1 UpperThresholdFatal (致命的しきい値上限)
- 1 UpperThresholdCritical (重要しきい値上限)
- 1 UpperThresholdNon-critical (非重要しきい値上限)
- 1 Normal (標準)
- 1 LowerThresholdNon-critical (非重要しきい値下限)
- 1 LowerThresholdCritical (重要しきい値下限)
- 1 LowerThresholdFatal (致命的しきい値下限)

システム基板

コンピュータの主要な回路ボードであるシステム基板には、次に示すような、ほとんどの集積コンポーネントが搭載されています。

- 1 マイクロプロセッサ
- 1 RAM
- 1 標準的な周辺機器（キーボードなど）のコントローラ
- 1 さまざまな ROM チップ

システム基板は、マザーボード および論理ボード と呼ばれることもあります。

システム設定情報

コンピュータに対して、取り付けられているハードウェアの種類とコンピュータの動作環境の構成を指示するデータ。メモリ内に保存されます。

システムディスク

ブート用ディスク の同義語。

システムメモリ

RAM の同義語。

シャドウイング

通常、コンピュータのシステムとビデオの BIOS コードは、ROM チップに格納されます。シャドウイングとは、ブートルーチンの実行中に（640 KB 以降の）上位メモリ領域の高速 RAM チップに BIOS コードをコピーして性能を向上させる技法を指します。

ジャンパ

ジャンパは 2 本以上のピンがある、回路基板上の小さなブロックです。ピンにはワイヤを格納したプラスチック製のプラグが被せてあります。ワイヤはピンを接続し、回路を作成します。ジャンパはプリント回路基板の回路を変更する、簡単に両方向の方法を提供します。

周辺デバイス

プリンタ、ディスクドライブまたはキーボードなど、コンピュータに接続されている内部または外部デバイス。

上位メモリ領域

640 KB ~ 1 MB の間に位置する 384 KB の RAM。システムが Intel 386 以降のマイクロプロセッサを搭載している場合、メモリマネージャと呼ばれるユーティリティが上位メモリ領域に UMB を作成し、ここにデバイスドライバやメモリ常驻プログラムをロードできます。

状況（状態）

1 つ以上の条件を持つオブジェクトの状況を指します。たとえば、オブジェクトは「準備中」状況である場合があります。

シリアル ポート

一般的には、モデムをコンピュータに接続するのに使用される I/O ポート。通常、コンピュータのシリアルポートは、9 ピンのコネクタで識別できます。

シンタックス（構文）

コンピュータによって正しく認識されるように、コマンドや命令を入力する方法を指示する規則。変数のシンタックスはそのデータタイプを示します。

スイッチ

コンポーネントのシステム基板のスイッチは、コンピュータシステムでのさまざまな回路機能を制御します。これらのスイッチは DIP スイッチ として知られています。通常、DIP スイッチは 2 つ以上のスイッチがパッケージ化されており、プラスチックのケースに入っています。システム基板には、スライド スイッチとロッカー スイッチの 2 つの DIP スイッチが使われています。スイッチの名前は、設定（オン/オフ）の変更方法に基づいています。

数値演算コプロセッサ

[コプロセッサ](#) を参照してください。

スキーマ

特定環境における管理オブジェクトを説明したクラス定義の集まり。CIM スキーマは各管理環境に共通した管理オブジェクトを表すのに使用するクラス定義の集まりです。CIM が共通情報モデル（Common Information Model）と呼ばれるのはこのためです。

ステータス

オブジェクトの健康や機能の状態を指します。たとえば、プローブが許容温度内の場合には、温度プローブは正常状態です。ユーザーが設定した制限温度をこえた値がプローブによって読み取られると、重要ステータスが報告されます。

設定

設定は、コンポーネントに特定の値が検出されたときにどうするかを決定する、管理可能オブジェクトヘルプの条件です。たとえばユーザーは、温度プローブの上限しきい値を摂氏 75 度に設定できます。プローブがその温度に達すると、ユーザーが介入できるように管理システムに警告が送られます。設定の中には、値に達するとシステムのシャットダウンやシステム損傷を防ぐその他の反応を引き起こすものがあります。

セットアップユーティリティ

コンピュータのハードウェアを構成し、パスワード保護機能や省電力設定などを設定することでコンピュータの動作をカスタマイズするための BIOS プログラム。セットアップユーティリティのオプションの中には、コンピュータをリブートしない（自動的にリブートする場合があります）ハードウェア設定の変更が有効にならないものがあります。セットアップユーティリティは NVRAM に保存されるため、設定は再度変更しない限り有効に維持されます。

属性

属性またはプロパティのこと。管理可能なコンポーネントに関する特定な情報を含みます。属性を組み合わせて、グループにすることができます。属性が読み込み / 書き込みとして定義されている場合、管理アプリケーションで定義することができます。

外付けキャッシュメモリ

RAM キャッシュで、SRAM チップを使用するもの。SRAM チップは DRAM チップの数倍の速さで動作するため、マイクロプロセッサは RAM より外付けキャッシュメモリからの方がデータと手順を速く取得できます。

ターミネータ

一部のデバイス（SCSI ケーブルの終端に接続されるデバイスなど）では、過剰な電流の吸収や発散を行うための終端処理が必要です。このようなデバイスを連結する場合は、ジャンパまたはスイッチを変更するか、デバイスの設定ソフトウェアで設定を変更して、ターミネータを有効または無効にする必要があります。

タイムアウト

省電力機能が起動されるまでのシステムのアイドル時間。

チップ

システムでプロセッサおよびメモリとして使用するために設計された超小型電子回路。小さいチップは、何万ものトランジスタを収納できます。1/16 平方インチで厚みが 1/30 の小さいアルミニウムのチップのように見えるため、「チップ」と呼ばれています。1/2 インチ以上の大きいチップには、数百万のトランジスタを収納できます。回路を収納しているのは、実際にはチップの 1 インチの最初の 1000 分の 1 の部分です。残りは基底部分です。

ディスプレイアダプタ

[ビデオアダプタ](#) を参照してください。

テーブル

SNMP MIB では、テーブルは管理オブジェクトを構成する変数について説明した 2D の配列です。

テキストエディタ

ASCII 文字だけを含むテキストファイルを編集するためのアプリケーションプログラム。たとえば、Windows のメモ帳などはテキストエディタです。ワードプロセッサの中には、テキストファイルの読み取りと書き込みができるものもありますが、大部分のプログラムはバイナリ文字を含む固有のファイル形式を使用しています。

テキストモード

X 列 × Y 行の文字で定義されるビデオモード。

デバイスドライバ

オペレーティングシステムまたは他のプログラムが、プリンタなどの周辺デバイスと正しく相互作用できるようにするプログラム。ネットワークドライバなどのデバイスドライバは、`config.sys` ファイル（**デバイス**= ステートメント）またはメモリ常驻プログラム（通常は `autoexec.bat` ファイル）からロードする必要があります。ビデオドライバなどその他のドライバは、対象のプログラムを起動したときにロードする必要があります。

電源ユニット

壁コンセントの AC 電流をシステム回路に必要な DC 電流に変換する電気システム。パーソナル コンピュータの電源装置は通常、いくつもの電圧を生成します。

電力装置

システムシャーシ内の電源装置。

ドライブタイプ番号

システムは特定のハードドライブの数を認識できます。各システムにはドライブタイプ番号が割り当てられ、NVRAM に保存されます。システムのセットアップユーティリティに指定されるハードドライブは、システムにインストールされている実際のドライブと一致する必要があります。セットアップ ユーティリティでは、NVRAM に保存されていないドライブタイプのテーブルに含まれていないドライブの物理パラメータ（論理シリンダ、論理ヘッド、シリンダ番号およびバックごとの論理セクタ）を指定できます。

内蔵されたハイパーバイザ

内蔵されたハイパーバイザ (Embedded Hypervisor) は、Dell システムの仮想化機能を向上します。

内蔵の USB

内蔵 USB フラッシュドライブは、追加ストレージデバイスです。内蔵 USB は、仮想化機能を向上します。

内蔵マイクロプロセッサキャッシュ

マイクロプロセッサに組み込まれた命令とデータのキャッシュ。Intel Pentium マイクロプロセッサには 16 KB の内部キャッシュがあり、8 KB の読み取り専用命令キャッシュと、8 KB の読み書きデータ キャッシュに設定されています。

名前

オブジェクトまたは変数の名前は SNMP Management Information Base (MIB) ファイル、DMI Management Information Format (MIF) ファイル、または CIM Management Object File (MOF) で識別する文字列です。

認証 (authentication)

Server Administrator remote access (RAC) コントローラには、ユーザーへのアクセスを認証する 方法として、RAC 認証およびローカルオペレーティングシステム認証の 2 つの方法があります。RAC 認証は常に有効 になっています。システム管理者は、RAC へのアクセスを許可する、特定のユーザーアカウントおよびパスワードを設定することができます。

オペレーティングシステムでは、システム管理者は異なるレベルのユーザーおよびユーザーアカウントを定義する必要があります。ユーザーの各レベルには、それぞれの異なる特権があります。RAC のローカルオペレーティングシステム認証は、オペレーティングシステム用の各ユーザー特権のセットを定義し、RAC には別個のユーザーおよびアカウントのセットを定義する方法を希望しないシステム管理者のためのオプションです。RAC のローカルオペレーティングシステム認証を有効にすると、オペレーティングシステム上でシステム管理者特権を持つすべてのユーザーの RAC へのログインすることができます。

認証局

認証局は、業界に認識されたエンティティーのことです。認証局は、組織の識別の認証し、ネットワークまたはインターネット上のほかのシステムが識別するように証明書を要求します。応募者に証明書を発行する前に、認証局は身分を証明する情報とその他のセキュリティ情報を要求します。

ノンインタレース

画面上の水平線を逐次リフレッシュして、画面のちらつきを抑える技法。

パーティション

fdisk コマンドを使用すると、パーティションと呼ばれる複数の物理セクションにハードディスクドライブを分割できます。各パーティションには、複数の論理ドライブを設定することができます。

ハードディスクドライブをパーティションに分割した場合は、format コマンドを使用して個々の論理ドライブをフォーマットする必要があります。

バイト

8個の連続した情報ビット（コンピュータで使用される基本データ単位）。

バイナリ

0と1を使って情報を表す2進法。コンピュータは、2進法による数字の順序と計算に基づいて処理を実行します。

バス

バスはコンピュータのコンポーネント間の情報経路を形成します。コンピュータに装備されている拡張バスは、マイクロプロセッサが、コンピュータに接続されたさまざまな周辺機器用のコントローラと通信する経路を提供します。また、アドレスバスとデータバスは、マイクロプロセッサとRAMとの間の通信に使用されます。

バックアップ

プログラムやデータファイルのコピー 安全対策として、コンピュータのハードディスクドライブは定期的にバックアップしてください。コンピュータの設定を変更する前に、オペレーティングシステムで必要な起動ファイルをバックアップしてください。

パラメータ

プログラムに対して指定する値またはオプション。パラメータは、スイッチまたは引数と呼ばれることもあります。

パラレルポート

一般的には、パラレルプリンタをコンピュータに接続するのに使用される I/O ポート。コンピュータのパラレルポートは、25 穴コネクタで識別 できます。

ヒートシンク

熱を消散させるための金属釘または金属リブが付いた金属板。ほとんどのマイクロプロセッサは、このヒートシンクを装備しています。

ビット

コンピュータによって解釈される情報の最小単位。

ビデオアダプタ

モニター（ディスプレイ）と連携してコンピュータのビデオ機能を実現するための論理回路。ビデオアダプタは、特定のモニターが提供する機能よりも多い機能または少ない機能をサポートします。通常、ビデオアダプタには、一般的なアプリケーションプログラムやオペレーティング システムをさまざまなビデオモードで表示するためのビデオドライバが付属しています。

通常、ビデオアダプタには、一般的なアプリケーションプログラムやオペレーティング システムをさまざまなビデオモードで表示するためのビデオドライバが付属しています。また、拡張カードコネクタに差し込む数多くのビデオアダプタカードが利用できます。

通常、ビデオアダプタには、システム基板上の RAM とは別個のメモリが割り当てられます。同時に表示できるカラーの数は、ビデオメモリの容量とアダプタのビデオドライバに応じて異なります。高速のグラフィック描画を実現するために、ビデオアダプタには独自のコプロセッサが内蔵される場合もあります。

ビデオ解像度

ビデオ解像度（800 x 600 など）は、「横方向のピクセル数×縦方向のピクセル数」で表されます。特定の解像度でプログラムの画面を表示するには、ディスプレイがその解像度をサポートしていて、適切なビデオドライバがインストールされていなければなりません。

ビデオドライバ

特定の数のカラーを希望の解像度で、グラフィックモードのアプリケーションプログラムやオペレーティングシステムを表示するためのプログラム。一部のソフトウェアパッケージには汎用的なビデオドライバが組み込まれています。ビデオアダプタに適合する追加のビデオドライバが必要になる場合もあります。

ビデオメモリ

ほとんどの VGA ビデオアダプタと SVGA ビデオアダプタには、コンピュータの RAM とは別にメモリチップが内蔵されています。プログラムで同時に表示できるカラーの数はおもに、インストールされたビデオメモリの容量によって決まります（他の要因としては、ビデオドライバやモニターの機能があります）。

ビデオモード

通常、ビデオアダプタでは複数のテキスト / グラフィック表示モードがサポートされます。文字ベースのソフトウェアは、「x 列 x y 行の文字」で定義されるテキストモードで表示されます。グラフィックベースのソフトウェアは、「x 個の横ピクセル x y 個の縦ピクセル x z 種類のカラー」で定義されるグラフィックモードで表示されます。

ブート可能ディスク

ディスクからシステムを起動することができます。ブート可能ディスクを作成するには、ディスクドライブにディスクを入れて、コマンドラインプロンプトで sys a: と入力し、<Enter> を押します。ハードドライブから起動できない場合、このブート可能ディスクを使用します。

ブート（起動）ルーチン

コンピュータを起動すると、すべてのメモリのクリア、デバイスの初期化、およびオペレーティングシステムのロードが行われます。オペレーティングシステムが正常に応答する場合は、<Ctrl><Alt> キーを押してコンピュータを再起動できます（ウォームブートとも呼ばれます）。オペレーティングシステムが応答しない場合は、リセットボタンを押すか、コンピュータの電源を一度切ってから入れ直すことによって、コンピュータを再起動（コールドブート）しなければなりません。

フォーマット

ファイルを保存できるようにハードドライブやディスクを準備すること。無条件の形式では、ディスクに保存されているすべてのデータが削除されます。

複合キー

複数のキーを同時に押すコマンド。たとえば、<Ctrl><Alt> キーと一緒に押すと、システムを再起動できます。

物理メモリアレイ

物理メモリアレイは、システムの全物理メモリ配列です。物理メモリアレイの変数には、最大サイズ、マザーボード上の合計メモリスロット数、および使用中の合計スロット数などがあります。

プラグアンドプレイ

ハードウェアデバイスをパーソナルコンピュータに追加しやすくするための業界標準仕様。プラグアンドプレイによって、自動インストールと設定、既存ハードウェアとの互換性、およびモバイルコンピューティング環境のダイナミックサポートが提供されます。

フラッシュメモリ

システムにインストールされたままでディスクのユーティリティからプログラミングし直すことができる EEPROM チップ。ほとんどの EEPROM チップは特別なプログラミング機器を使わなければ書き込み直すことはできません。

フラッシュ BIOS

ROM でなくフラッシュメモリに保存される PC BIOS。ROM BIOS が新しいチップと交換しなければならないのに対し、フラッシュ BIOS チップは設置したままでアップデートすることができます。

プローブ

システムのある一定の時点で、量的測定をしたり、システムの状態を決定する電気センサー。Server Administrator は温度、電圧、ファン、メモリ、電流、およびシャシーントルーショナルプローブなどを監視します。プローブは測定（特定の場所および時間での温度など）、あるいは状態（シャシーントルーショナルが発生した、またはなかった場合など）をスナップショットで表示します。

プログラムディスクセット

オペレーティングシステムまたはアプリケーションプログラムを完全にインストールできるディスクのセット。プログラムを再設定するときには、通常、プログラムディスクセットが必要になります。

プロテクトモード

80286 以降のマイクロプロセッサによってサポートされる動作モード。プロテクトモードでは、オペレーティングシステムを通じて次のことが実現されます。

- 1 16 MB (80286 プロセッサの場合) ~ 4 GB (Intel 386 以降のプロセッサの場合) のメモリアドレススペース
- 1 マルチタスク
- 1 仮想メモリ (ハードディスクドライブを使用して、アドレッシング可能なメモリを増加させる技法)

Windows NT、Windows 2000、Windows XP、OS/2、および UNIX 32-bit オペレーティングシステムは、プロテクトモードで実行されます。ただし、MS-DOS は、プロテクトモードで実行できませんが、MS-DOS から起動できる一部のプログラム（Windows など）は、コンピュータをプロテクトモードに移行することができます。

プロバイダ

プロバイダは管理オブジェクトと通信してさまざまなソースからデータとイベント通知にアクセスする CIM スキーマの拡張機能です。プロバイダはこの情報を CIM オブジェクト マネージャに転送して統合と解釈を行います。

変数

管理オブジェクトの一部。たとえば温度プローブには、機能、正常性または状態、および正しい温度プローブを見つけるのに役立つ特定の指標などの変数があります。

ボーレート

データ伝送速度の尺度。たとえば、モデムはコンピュータの COM（シリアル）ポートを通じて、1 つ以上の特定のボーレートでデータを伝送するように設計されています。

ホストアダプタ

ホストアダプタはシステムのバスと周辺デバイスのコントローラ間の通信を行います。（ハードドライブコントローラサブシステムには、内蔵ホストアダプタ回路が含まれています。）システムに SCSI 拡張バスを追加するには、適切なホストアダプタをインストールまたは接続する必要があります。

ホットプラグ

システム稼動中に冗長部分を削除して置換する機能。「ホット スペア」とも呼ばれます。

マイクロプロセッサ

コンピュータ内にある主要コンピュータチップで、演算および論理機能の解釈と実行を制御します。1 つのマイクロプロセッサに書き込まれたソフトウェアは、別のマイクロプロセッサで実行するためには改訂する必要があります。CPU はプロセッサの同義語です。

マウス

画面上でのカーソルの動きを制御するポインティングデバイス。マウス対応のソフトウェアを使用すると、画面に表示されたオブジェクトを指してマウスボタンをクリックすることにより、特定のコマンドを起動できます。

マップされた物理メモリアレイ

マップされた物理メモリアレイ（physical memory array mapped）は、物理メモリの分割方法を示します。たとえば、マップされた 1 つの領域に 640 KB、別の領域に 1 MB ~ 127 MB を割り当てることができます。

マルチスキャンモニター

いくつかのビデオ規格をサポートするモニター。マルチスキャンモニターはさまざまなビデオ アダプタの周波数範囲に合わせて調整できます。

メモリ

システムには、複数のタイプのメモリ（RAM、ROM、およびビデオメモリなど）を搭載できます。通常、メモリという用語は RAM と同じ意味で使用されます。たとえば、「16 MB のメモリを搭載したコンピュータ」というような無修飾の文は、「16 MB の RAM を搭載したコンピュータ」を意味します。

メモリアドレス

コンピュータの RAM 内部にある特定の位置。通常、メモリアドレスは 16 進数で表されます。

メモリマネージャ

コンベンショナルメモリ以外のメモリ（EMS メモリや 拡張 メモリなど）の実装を管理するユーティリティ。

メモリモジュール

DRAMチップを持つ小さな回路基板で、システム基板に接続します。

モデム

コンピュータが電話回線を使って他のコンピュータと通信するための機器。

リアルモード

80286以降のマイクロプロセッサによってサポートされる動作モード。リアルモードは、8086マイクロプロセッサのアーキテクチャをシミュレートする動作モードです。

リフレッシュレート

モニター画面上のビデオ画像を、モニターが再描画する速度。画面の水平線が再充電される周期（単位はHz）。モニターのリフレッシュレートは、垂直周波数とも呼ばれます。リフレッシュレートが高いほど、人間の目にはちらつきが感じられなくなります。このような高いリフレッシュレートはノンインタレースとも呼ばれます。

冷却ユニット

システムシャーシにあるファンまたはその他の冷却デバイス。

ローカルバス

ローカルバス拡張機能を持つシステムでは、ビデオアダプタ回路など特定の周辺デバイスを、従来の拡張バスを使ったときより高速に実行されるように設計することができます。ローカルバスのデザインの中には、システムのマイクロプロセッサと同じ速度、同じ幅のデータバスで周辺機器を実行できるものがあります。

ユーティリティ

システム資源（メモリ、ディスクドライブ、プリンタなど）を管理するためのプログラム。

読み取り専用ファイル

編集や削除が禁止されているファイル。次のいずれかの条件が満たされる場合、ファイルは読み取り専用になります。

- 1 ファイルの読み取り専用属性が設定されている。
- 1 物理的に書き込みが禁止されているディスク内、または書き込みが禁止されているドライブ内にファイルが存在する。
- 1 システム管理者がユーザーに読み取り権限だけを付与したネットワークディレクトリ内にファイルが存在する。

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

omhelp コマンドの使用

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 6.0.1 コマンドラインインタフェース ユーザーズガイド

ヘルプコマンドの例

omhelp コマンドと、それに同等の <コマンド> -? を使用すると、CLI の詳しいヘルプテキストのインタフェースにアクセスします。ヘルプには複数の詳細レベルがあります。

各完全修飾 CLI コマンドは、さまざまなパーツの変数番号があります。たとえば、コマンド (コマンド レベル 1)、1 つまたは複数のサブコマンド (コマンド レベル 2、存在する場合はコマンド レベル 3、) および 1 つまたは複数の「名前=値」のペア。

-?(スペース - ダッシュ - 疑問符)をコマンドの後に入力すると、そのコマンド に関するヘルプを表示できます。

ヘルプコマンドの例

omconfig -? と入力すると、omconfig コマンドについてのヘルプが表示されます。このレベルでのヘルプは omconfig で使用できるサブコマンドを一覧表示します。

- 1 説明
- 1 プリファランス
- 1 シャーシ
- 1 システム

omconfig system -? と入力すると、CLI ヘルプに omconfig system で使用できるすべてのサブコマンドが一覧表示されます。

- 1 alertaction
- 1 alertlog
- 1 assetinfo
- 1 cmdlog
- 1 esmlog
- 1 events
- 1 platformevents
- 1 pedestinations
- 1 recovery
- 1 shutdown
- 1 thrmshutdown
- 1 webserver

[図 2-1](#) は、コマンドのヘルプのレベルを示します。

図 2-1 コマンドの各レベルのヘルプ



次のように omconfig system assetinfo コマンドを解析することもできます。

<コマンドレベル 1 コマンドレベル 2 コマンドレベル 3> <名前=値ペア 1> [名前=値ペア 2]

コマンドレベル 1、2 および 3 は omconfig system assetinfo で、「名前=値」のペア 1 は info=depreciationで、および「名前=値」のペア 2 は method=straightline で表します。

減価償却方法を直線に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=depreciation method=straightline
```

CLI から次のメッセージが返されます。

```
Asset information set successfully. (資産情報は正常に設定されました。)
```

omconfig system assetinfo -? と入力すると5名前フィールドとオプションフィールドの値の割り当てに関する情報がヘルプに表示されます。omconfig system assetinfo -? 要求の部分的な結果は、次のようになります。

```
assetinfo Set asset information.
```

1 つの情報値につき、オプションのパラメータを 1 つまたは複数、次のように指定します。[表 2-1](#) info=acquisition のオプションパラメータを 表示します。

表 2-1 オプションパラメータ

情報値	オプションパラメータ
Info=acquisition	purchasecost=<数字> waybill=<数字> installdate=<月日年> purchasedate=<月日年> ponum=<数字> signauth=<テキスト> expensed=<はい いいえ> costcenter=<テキスト> info=depreciation method=<テキスト> duration=<数字> percent=<パーセント> unit=<月 年 不明>

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

はじめに

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 6.0.1 コマンドラインインタフェース ユーザーズガイド

- [バージョン 6.0.1 の新機能](#)
- [Windows コマンド プロンプトからの CLI コマンドの使用](#)
- [プライマリ CLI コマンド](#)
- [CLI エラーチェックおよびエラーメッセージ](#)
- [CLI を使ったスクリプトと比較](#)
- [コマンド 構文の概要](#)

Dell™ OpenManage™ Server Administrator のグラフィカルユーザーインターフェイス(GUI)またはコマンドラインインタフェース(CLI)を使って、主要なシステム管理タスクを行うことができます。

報告と表示の機能を使うと、ネットワーク上のシステムの全般的な正常性の状態を把握することができます。コンポーネントレベルでは、電圧、温度、電流、ファンの分あたりの回転数 (RPM)、メモリ機能、その他多くの重要コンポーネントの詳細が表示されます。概要表示では、システムに関連する所有コスト(COO)の詳細が報告されます。BIOS、ファームウェア、オペレーティング システムや、インストールされているソフトウェアすべてのバージョン情報も簡単に確認できます。

Server Administrator の設定機能を使うと、以下の項で詳しく説明する主要タスクを実行できます。



メモ: セキュリティに関する不安がある場合は、Server Administrator のホームページの代わりに CLI を使用して、Server Administrator Web サーバーをオフにすることもできます。CLI は Web サーバーを使用しません。 `omconfig system webservice action=stop` コマンドは、Web サーバーを終了する場合に使用します。再起動後、自動的に Web サーバーが起動するので、このコマンドはシステムが起動するたびに発行する必要があります。詳細については、[omconfig system webservice/omconfig servermodule webservice](#)を参照してください。

バージョン 6.0.1 の新機能

Server Administrator のこのリリースの新しい特徴は以下のとおりです。

- 1 3 つの新しい xx1x システムのサポート。
- 1 以下のシステムコンポーネントのサポート:
 - 1 オプションの iDRAC6 Enterprise カードの存在の報告
 - 1 フロント パネルの LCD にその他の属性を表示するオプションを提供します。
 - 1 iDRAC6 Enterprise の存在、および存在する場合はストレージサイズの報告
 - 1 xx1x システムの一部である新しい PCI デバイスの報告
 - 1 CPU ターボモードの表示
 - 1 新しいメモリアイプの表示 (DDR3 登録済み、DDR3 未登録)
 - 1 新しいスロットタイプの表示 (PCIe Gen1/2)
 - 1 導入時に Non-Uniform Memory Architecture (ノードの インターリーブ) を有効 / 無効にする
 - 1 すべての LOM に対し個別にネットワークコントローラ - サイドバンドインタフェースのサポートを有効にする
 - 1 メモリ動作モードの表示 (オプティマイザ、ミラー、アドバンスド ECC)
 - 1 NICS 送受信の統計情報のサポート。
 - 1 AC 電源回復遅延時間の設定
 - 1 シリアルアドレス選択の設定と報告のサポート
- 1 強化された電源監視のサポート:
 - 1 電力消費量の BTU (英サーマルユニット) とワット数の報告
 - 1 ピーク電力ヘッドルームと瞬時ヘッドルームのサポート
 - 1 ユーザー定義可能電力バジェットキャップのサポート
 - 1 最大と最小潜在電力消費量の表示をサポート
 - 1 電源装置の定格入力電力の表示をサポート
 - 1 電源プロファイル設定のサポート
 - 1 ピーク電力消費量の警告イベント機能のサポート
- 1 Internet Protocol Version 6 を含む
 - 1 このリリースは IPv4 と IPv6 をサポートします。

Windows コマンド プロンプトからの CLI コマンドの使用

Microsoft Windows オペレーティングシステムを実行中の場合、32 ビットコマンドプロンプトを使用して Server Administrator CLI コマンドを発行します。32-ビットのコマンドプロンプトにアクセ

スするには、**スタート**ボタンをクリックして**プログラム**→**アクセサリ** → **コマンドプロンプト**のショートカットを使用するか、**スタート**ボタンをクリックして**ファイル名を指定して実行**を選択し、**ファイル名を指定して実行** ダイアログボックスに `cmd.exe` と入力します。

コマンドラインウィンドウを起動する場合、**ファイルを指定して実行** ダイアログボックスに「`command`」と入力しないでください。この操作は、MS-DOS のエミュレータ `command.com` をアクティブにするので、その環境変数の制限によって CLI に問題が発生する可能性があります。

プライマリ CLI コマンド

Server Administrator の機能を実行するコマンドを以下に表示します。


- 1 `omconfig`
- 1 `omhelp`
- 1 `omreport`

`omconfig` コマンドはオブジェクトのプロパティに割り当てる値を書き込みます。コンポーネントの警告しきい値を指定したり、警告やエラーイベントが発生した場合にシステムが実行する操作を指定できます。また、`omconfig` コマンドを使って、システムに関する資産情報パラメータに、システムの購入価格や管理タグ、設置場所などの特定の値を割り当てることもできます。

`omhelp` コマンドは CLI コマンドの簡潔なテキストヘルプを表示します。`omhelp`は、ヘルプを必要とするコマンドの後に `-?` を入力する場合と同じです。たとえば、`omreport` コマンドのヘルプを表示する場合、次のどちらかのコマンドを入力します。

```
omhelp omreport
omreport -?
```


`omreport` コマンドは、システムの管理情報のレポートを生成します。

 **メモ:** CLI コマンドの概要を見るには、`omhelp` と入力します。

[表 1-1](#) は、Server Administrator が使用するプライマリ CLI コマンドを一覧表示します。この マニュアルでは、主要なコマンドについて各項で説明します。

表 1-1 CLI コマンドとこのマニュアルの項

主要な CLI コマンド	項の見出し	関連する項
<code>omconfig</code>	「Instrumentation Service(計装サービス)を使ったomconfig: コンポーネントの管理」	「omconfig システムまたは servermodule assetinfo: 所有コスト(Cost of Ownership)の編集」
<code>omhelp</code>	「omhelp コマンドの使用」	
<code>omreport</code>	「omreport: Instrumentation Service(計装サービス)を使用したシステム状態の表示」	

 **メモ:** `omupdate` コマンドは Server Administrator ではサポートされなくなり、Dell Update Package または Server Update Utility のコマンドに置き換えられました。各種コンポーネントをアップデートするには、the Dell Update Packageをダウンロードして、`<パッケージ名> /s [/f]` を実行してください。対応する CLI 構文の詳細については、『Microsoft Windows オペレーティングシステム用 Dell Update Packages ユーザーズガイド』、『Linux 用 Dell Update Packages ユーザーズガイド』、または『Server Update Utility ユーザーズガイド』を参照してください。

さらに、CLI に関する役立つトピックは以下でも参照できます。

- 1 [「CLI コマンド結果の使用方法」](#)
- 1 [「用語集」](#)

CLI エラーチェックおよびエラーメッセージ

CLI コマンドを入力すると、CLI によってコマンドの構文が確認されます。コマンドを入力して そのコマンドが正常に実行されると、コマンドに 成功したというメッセージが表示されます。

成功のメッセージ

`omconfig` コマンドを入力すると、そのコンポーネントに対するデータが 表示されます。

以下に、`omconfig` コマンドの例として、有効な CLI コマンドと、コマンドに成功した場合の メッセージを示します。

コマンド:

```
omconfig chassis temps index=0 warnthresh=default
```

メッセージ:

```
Temperature probe warning threshold value(s) set successfully. (温度プローブの警告しきい値が正常に設定されました。)
```

コマンド:

```
omconfig chassis biossetup attribute=speaker setting=on
```

メッセージ:

```
BIOS setup configured successfully. (BIOS が正常に設定されました。)
```

コマンド:

```
omconfig system assetinfo info=depreciation duration=6
```

メッセージ:

```
Asset information set successfully. (資産情報は正常に設定されました。)
```

失敗のメッセージ

CLI の失敗を知らせるメッセージによって、コマンドに成功しなかった理由がわかります。コマンドに失敗する一般的な理由として、構文エラーや、コンポーネントが存在しないことが挙げられます。多くの場合、エラーメッセージで提供された構文情報を利用して、コマンドを正常に実行できます。

システム構成に存在しないコンポーネントや機能のコマンドを実行しようとすると、コンポーネントが見つからないというエラーメッセージが表示されます。

コマンド:

```
omconfig chassis volts index=3 minwarnthresh=3.3000
```

メッセージ例:

```
Error! Number with up to 3 digits after decimal point expected, read 3.3000 (エラー! 数字の期待値は小数点以下 3 桁までです。読み取り値: 3.3000)
```

```
The value given by the command specifies more than 3 digits after the decimal point. A valid minimum warning threshold value for volts contains up to 3 digits after the decimal point. (コマンドで指定された値は、小数点以下 3 桁を超えています。電圧の有効な最小警告しきい値は、小数点 以下 3 桁までです。)
```

次のように入力します。

```
omconfig chassis volts index=3 minwarnthresh=3.300
```

小数点以下 3 桁を使ってもう一度入力すると、別のエラーメッセージが表示されます。

```
エラー! 電圧プローブの最小警告しきい値は 11.400~12.480 でなければなりません。
```

変更後のコマンド:

```
omconfig chassis volts index=3 minwarnthresh=11.500
```

メッセージ:

```
Voltage probe warning threshold(s) set successfully. (電圧プローブの警告しきい値は正常に設定されました。)
```

CLI を使ったスクリプトと比較

システム管理者は Server Administrator CLI を使って、バッチプログラムやオペレーティングシステムに実行させるスクリプトを作成できます。多くのシステムを有する企業では、システム管理者が設定スクリプトを使用して、システムの主要コンポーネントの警告しきい値を指定したり、警告やエラーイベントが発生した場合にシステムに実行させる一連の操作を指定します。最悪の場合は、システム管理者がスクリプトを作成してシステムをシャットダウンすると、被害を防ぐことができます。その後で、スクリプトを多数の管理システムに同時に配信して実行することができます。このシナリオでは、会社が大量のシステムを購入した場合でも円滑に設定でき、再設定が必要な既存のシステムに新しいシステム管理ポリシーを実装する場合も容易にできます。

同様のシナリオを使って、新しく購入した多数のシステムに詳細な資産情報を自動入力することも可能です。システムの製造元やリース会社、サポートの外部委託の有無、システムの保険会社名、減価償却方法などの情報の大半は同じです。全システムに共通する変数をスクリプト化し、管理したシステムのすべてに送信して実行します。システムに固有の資産情報はグループとしてスクリプト化し、その管理ノードに送信して実行します。たとえば、スクリプトを使うと、所有者、主要ユーザーの電話番号、管理タグなどの固有の変数をすべて指定できます。固有の値を自動入力するためのスクリプトは、システムのコマンドラインから 1 つずつ設定するのではなく、すべての固有変数を一度に設定します。

多くの場合、CLI は、特定のタスクを念頭に置いたユーザーがシステム情報を迅速に取得するのに役立ちます。CLI は、システムコンポーネントすべての包括的な概要を確認したい場合や、その情報を今後のシステム状態と比較する目的でファイルに保存する場合に理想的です。

CLI コマンドを使うと、システム管理者はバッチ プログラムやスクリプトを作成して、特定の時間に実行することができます。このようなプログラムが実行されると、システム高使用時とシステム最低使用時のファン RPM の比較など、特定コンポーネントに関するレポートをキャプチャできます。コマンド結果はファイルに転送して、あとで分析できます。システム管理者は、レポートを利用して、使用パターンを調整したり、新規システムリソースの購入を正当化したり、問題のあるコンポーネントの状態を監視するための情報を入手できます。

コマンド 構文の概要

コマンドの複雑性はさまざまです。最も単純なコマンドは、コマンドレベルが 1 だけです。たとえば、`omhelp` コマンドは単純なコマンドです。`omhelp` と入力すると、主要 CLI コマンドのリストが表示されます。

次に複雑なコマンドレベルには、コマンドレベルの 1 と 2 があります。`about` コマンドはすべてコマンドレベル 2 の複雑性を表します。`omconfig about` および `omreport about` のコマンドは概要を表示します。概要には、システムにインストールされているシステム管理ソフトウェアのバージョン情報(たとえば `Server Administrator 1.x`)が表示されます。

一部のコマンドには、コマンドレベル 1 とコマンドレベル 2 があり、「名前=値」のペアがあります。次のコマンドは、Server Administrator の環境詳細に関して Server Administrator を指し示している例です。

```
omreport about details=true
```

コマンドレベル 1 が `omreport`、コマンドレベル 2 は `about` で、「名前=値」のペアは `details=true` です。

多くのコマンドではコマンドレベル 1、コマンドレベル 2、およびコマンドレベル 3 を使いますが、任意のパラメータ（「名前=値」のペア）を必要としません。`omreport` コマンドはこのタイプに属します。
例:

```
omreport system alertaction
```

上の例では、システムのコンポーネントに設定されている警告処置のリストが表示されます。

最も複雑なコマンドには 3 つのコマンドレベルがあり、複数の「名前=値」のペアを持つことができます。2 つの「名前=値」ペアの例を次に示します。

```
omconfig system assetinfo info=depreciation duration=3
```

9 つの「名前=値」ペアの例を次に示します。

```
omconfig system assetinfo info=acquisition  
purchasecost=<n> waybill=<n> installdate=<月日年> purchasedate=<月日年> ponum=<n> signauth=<テキスト>  
expensed=<yes | no> costcenter=<テキスト>
```

各セクションでは、コマンド構文とコマンドに関する他の情報は、以下の該当フィールドを使用してフォーマットされます。

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前=値」のペア 1	「名前=値」のペア 2
-----------	-----------	-----------	-------------	-------------

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

omreport: Instrumentation Service(計装サービス)を使用したシステム状態の表示

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 6.0.1 コマンドラインインタフェース ユーザーズガイド

- [omreport コマンドのコマンド概要](#)
- [omreport コマンドのヘルプ](#)
- [omreport modularencllosure](#)
- [omreport about](#)
- [omreport chassis/omreport mainsystem コマンド](#)
- [omreport system コマンドまたはomreport servermodule コマンド](#)

omreport コマンドを使用すると、システムコンポーネントの詳細が表示されます。一度に多数のシステムコンポーネントの概要を取得したり、特定のコンポーネントの詳細を取得することができます。この章では必要な詳細レベルを備えたレポートの取得方法について説明します。

この章に記述したコマンドは、特定 omreport コマンドの結果に表示されるフィールドを定義するかどうかで異なります。フィールドは特別な用法や、あまり知られていない用法がある場合にのみ定義されています。

他のすべてのコンポーネントについては、omreport を使ってコンポーネントの状態を表示し、omconfig を使ってコンポーネントを管理できます。管理するコンポーネントの設定方法については、「[Instrumentation Service\(計装サービス\)を使ったomconfig: コンポーネントの管理](#)」を参照してください。

omreport コマンドは、omconfig コマンドの実行に必要な情報を得るために使用できる場合があります。たとえば、温度プローブの警告イベントの最低温度を編集する場合は、設定するプローブのインデックスを知っておく必要があります。そのような場合は、omreport chassis temps を使って、プローブの一覧とそのインデックスを表示することができます。

表 3-1 omreport コマンドに対するシステムの 使用可能状況

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	適用可能
omreport	modularencllosure	モジュラーシステム
	servermodule	モジュラーシステム
	mainsystem	モジュラーシステム
	システム	非モジュラーシステム
	シャーシ	非モジュラーシステム

パラメータ表の規則

コマンドに使えるパラメータをリストにする場合、パラメータはコマンドラインインタフェースに表示される順ではなくアルファベット順に並んでいます。

記号「|」はパイプと呼ばれることがあり、排他的論理和または演算子を表します。たとえば、「有効 | 無効」はコンポーネントや機能を有効または無効にできますが、同時に有効と無効にすることはできません。

omreport コマンドのコマンド概要

メモ: この章では、可能なすべての omreport コマンドを一覧にしますが、お使いのシステムで使用できるコマンドはシステム構成によって異なります。omreport コマンドの結果の表示は、システムによって異なります。インストールされているコンポーネントのみのデータが表示されます。

メモ: システムに外部シャーシがある場合、表示される結果はオペレーティングシステムによって異なります。SUSE® Linux Enterprise Server および Red Hat® Enterprise Linux® のシステムでは、omreport コマンドは、メインシャーシ情報の後の別の項に外部シャーシ情報を表示します。Microsoft® Windows® システムの場合は、外部シャーシのデータは omreport 出力には表示されません。

[表 3-2](#) は omreport コマンドの高レベルの概要です。「コマンドレベル 1」列には、一般的な omreport コマンドを示します。「コマンドレベル 2」には、omreport を使って表示できる主要オブジェクトやコンポーネント(バージョン情報、シャーシ、ストレージ、および システム)を示します。「コマンドレベル 3」には、レポートを表示できる特定のオブジェクトとコンポーネントを一覧にします。「ユーザー特権が必要」とは、コマンドを実行するのに必要な特権の種類を表し、U=ユーザー、P=パワユーザー、A=アドミニストレータを表します。「用途」は omreport を使って実行できる操作に関する一般的な説明です。コマンドの構文と使い方の詳細については、この項で後述します。

[表 3-2](#) は、「バージョン情報」、「システム」、および「メインシステムシャーシ」に使用可能な omreport コマンドを示しています。ストレージコンポーネントの表示については、「[omreport: Instrumentation Service\(計装サービス\)を使用したシステム状態の表示](#)」を参照してください。

表 3-2 omreport コマンドレベル 1、2、3

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	必要なユーザー権限	用途
omreport				
	modularencllosure		U、P、A	すべてのモジュラーシャーシの情報を表示します。
	about		U、P、A	Server Administrator のバージョン番号とプロパティを表示します。
		details=true	U、P、A	インストールされているすべての Server Administrator プログラムの情報を表示します。
	chassis/mainsystem		U、P、A	すべてのメインコンポーネントの一般的な状態を表示します。

	acswhitch	U、P、A	冗長 AC 電力線がシステムでサポートされているフェールオーバー設定を表示します。
	batteries	U、P、A	バッテリーのプロパティ設定を表示します。
	bios	U、P、A	製造元、バージョン、および最後にアップデートされた日付けなど BIOS 関連情報を表示します。
	biossetup	A	システム起動中に設定された BIOS 設定プロパティを表示します。
	fancontrol	U、P、A	ファン速度のプロパティ設定を表示します。
	fans	U、P、A	システムファンの状態としきい値を表示します。
	firmware	U、P、A	バージョン、最終更新日、アップデート可能性などのファームウェアのプロパティを表示します。
	frontpanel	U、P、A	電源ボタン や マスク不可能割り込み (NMI) ボタン (システムに存在する場合)などのフロントパネルボタン設定が有効になっているか無効になっているかを表示します。
	fru	U、P、A	フィールドで交換可能なパーツ(FRU)の情報を表示します。
	hwperformance	U、P、A	システムの性能低下の状態および原因を表示します。
	info	U、P、A	メインシステムのシャーシコンポーネントの状態の概要を表示します。
	intrusion	U、P、A	システムのイントルージョンセンサーの状態を表示します。
	leds	U、P、A	色々な警告状況に従って LED が点滅するように設定したプロパティを表示します。
	memory	U、P、A	システムのメモリ配列のプロパティを表示します。
	nics	U、P、A	システムに設置されている NIC の台数、およびコントローラとインタフェース関連の詳細を表示します。
	ports	U、P、A	I/O アドレス、IRQ レベル、コネクタの種類、最大速度など、システムのパラレルポートとシリアルポートのプロパティを表示します。
	processors	U、P、A	速度、製造元、プロセッサ ファミリなど、システムのプロセッサのプロパティを表示します。
	pwrmanagement	U、P、A	電源使用を制御する電源管理プロファイルを表示します。
	pwrmonitoring	U、P、A	電源消費のプロパティを表示します。
	pwrsupplies	U、P、A	電源装置のプロパティを表示します。
	remoteaccess	U、P、A	リモートアクセスの一般情報を表示します。
	slots	U、P、A	システムの拡張スロットやその他のスロットタイプのプロパティを表示します。
	temps	U、P、A	システムの温度センサーの状態としきい値を表示します。
	volts	U、P、A	システムの電圧センサーの状態としきい値を表示します。
	storage	U、P、A	「Storage Management Service(ストレージ管理サービス)の使用を参照してください。
	system/servermodule	U、P、A	システムコンポーネントの高レベルな概要を表示します。
	alertaction	U、P、A	警告と失敗のしきい値、および不可欠なコンポーネントが警告や失敗状況を検出した場合に設定されている処置を表示します。
	alertlog	U、P、A	システム管理者がアラートログを表示できます。
	assetinfo	U、P、A	システムの所有コスト情報を表示します。
	cmdlog	U、P、A	システム管理者がコマンド ログを表示できます。
	esmllog	U、P、A	システム管理者がハードウェア ログを表示できます。
	events	U、P、A	システムの Simple Network Management Protocol(SNMP) イベント設定を表示します。
	operatingsystem	U、P、A	オペレーティングシステム名とバージョンを表示します。
	pedestinations	U、P、A	プラットフォームイベント警告に対して設定された送信先を表示します。
	platformevents	U、P、A	リストの各プラットフォームイベントについてシステムの反応を表示します。
	recovery	P、A	ハング状態にあるオペレーティングシステムにシステムが応答する方法の設定を表示します。
	shutdown	P、A	シャットダウン操作の実行方法を表示します。
	summary	U、P、A	メインシステムシャーシ、ソフトウェア、ストレージなど、すべてのシステムコンポーネントの鍵となる事実を表示します。
	thrshutdown	P、A	温度警告または失敗の状態が検出された場合に、実行されるシャットダウン操作を表示します。
	version	U、P、A	システム上のアップデート可能なコンポーネントすべての概要を表示します。

omreport コマンドのヘルプ

omreport -? コマンドを使用すると、omreport に使用可能なコマンドの一覧が表示されます。

omreport <コマンドレベル 2> -?を使ってレベル 2 のコマンドのバージョン情報、シャーシ、およびシステムのコマンドを表示します。 omreport system -? に関する次の情報は、omreport chassis コマンドのヘルプの場合利用できます。


omreport システムの有効なコマンドを一覧にするには、次のように入力します。

```
omreport system -?| more
```


omreport modularenclousure

モジュラーシステムの詳細を表示するには omreport modularenclousure コマンドを使用します。次のように入力します。

```
omreport modularenclousure
```

 **メモ:** この CLI コマンドは、Dell OpenManage Server Administrator が Dell モジュラーシステムにインストールされている場合に利用可能です。

Server Administrator はモジュラーエンクロージャとシャーシ管理コントローラ CMC に関連する情報を表示します (利用可能であるなら):

 **メモ:** このマニュアルで表示するすべての出力例と同様に、以下は 1 例にすぎず、実際の出力はシステム構成によって異なります。

```
Modular Chassis Information
Chassis Information
Attribute : Model
Value    : Modular Server Enclosure
Attribute : Lock
Value    : true
Attribute : Service Tag
Value    : 8RLNBL5
CMC Information
Attribute : Product
Value    : Chassis Management Controller (CMC)
Attribute : Description
Value    : The system component provides a complete set of remote management functions for Dell systems.
Attribute : Version
Value    : 1.0 (100)
Attribute : IP Address
Value    : 101.102.103.104
Attribute : IP Address Source
Value    : Dynamic
Attribute : IP Address Type
Value    : IPv4
Attribute : Remote Connect Interface
Value    : Launch CMC Web Interface
```

omreport about

omreport about コマンドを使用すると、システムにインストールされているシステム管理アプリケーションの製品名とバージョン番号を確認できます。以下は、**omreport about** コマンドの出力例です。

```
Product name: : Dell OpenManage Server Administrator
Version      : 6.x.x
Copyright    : Copyright (C) Dell Inc. 1995-2009. All rights reserved.
Company      : Dell Inc.
```

Server Administrator 環境に関する詳細を知るには、以下のように入力します。

```
omreport about details=true
```

Server Administrator には多くのサービスが含まれており、それぞれ独自のバージョン番号を持っています。**内容** フィールドはサービスのバージョン番号やその他の役立つ詳細を報告します。以下の出力はその例です。システムにインストールされている Server Administrator の設定とバージョンによって出力が異なる場合があります。

```
Contains: Instrumentation Service 6.x.x
          Storage Management Service 2.x.x
          Sun JRE - OEM Installed Version 1.x.x
          Secure Port Server 3.x.x
          Core Service 1.x.x
          Instrumentation Service Integration Layer 1.x.x
          Storage Management Service Integration Layer 1.x.x
          Server Administrator 6.x.x
```

omreport chassis/omreport mainsystem コマンド


omreport chassis または **omreport mainsystem** コマンドを使用すると、シャーシ全体または特定のコンポーネントの詳細が表示されます。

omreport chassis/omreport mainsystem コマンド

次のように入力します。

```
omreport chassis
または
omreport mainsystem
```

メインシステムのシャーシまたはコンポーネントの一般的な状態が表示されます。

 **メモ:** このマニュアルで表示するすべての出力例と同様に、以下は 1 例にすぎず、実際の出力はシステム構成によって異なります。

```
SEVERITY (重大度) : COMPONENT (コンポーネント)
Ok                : Fans (ファン)
Critical (重要)   : Intrusion (イントルージョン)
Ok                : Memory (メモリ)
Ok                : Power Supplies (電源ユニット)
Ok                : Temperatures (温度)
Ok                : Voltages (電圧)
```

omreport chassis acswitch/ omreport mainsystem acswitch

フェールオーバー設定された冗長電 AC 電力線がシステムに含まれる場合は、**omreport chassis acswitch** **または** **omreport mainsystem acswitch** コマンドを使用します。次のように入力します。

```
omreport chassis acswitch
または
omreport mainsystem acswitch
```

Server Administrator によって次のよう出力されます。

```
AC Failover Switch
AC Switch Redundancy
Redundancy Status                : Full
Number of devices required for full redundancy : 2
Redundancy Mode                  :
Redundancy Configuration        : Input Source Line 1, upon redundancy restoration, return to Line 1
AC Power Lines
Status                            : Ok
Location                          : AC Power Line 1
AC Present                        : Power Present
Active Source                     : Active
Status                            : Ok
Location                          : AC Power Line 2
AC Present                        : Power Present
Active Source                     : Not Active
```

Server Administrator で **冗長性状態** と **冗長性モード** フィールドの値が報告されます。

omreport chassis batteries/omreport mainsystem batteries

バッテリーのプロパティを表示するには **omreport chassis batteries** または **omreport mainsystem batteries** コマンドを使用します。以下のように入力します。

```
omreport chassis batteries
または
omreport mainsystem batteries
```

Server Administrator によってお使いのシステムのバッテリー情報の概要が表示されます。

omreport chassis bios/omreport mainsystem bios

現在の BIOS 情報を表示するために **omreport chassis bios/omreport mainsystem bios** コマンドを使用します。次のように入力します。

```
omreport chassis bios
または
omreport mainsystem bios
```

Server Administrator によってお使いのシステムの BIOS 情報の概要が表示されます。

omreport chassis biossetup/omreport mainsystem biossetup

omreport chassis biossetup または omreport mainsystem biossetup コマンドを使用すると、通常はシステム起動時にのみ使用可能な BIOS セットアップパラメータが表示されます。

次のように入力します。

```
omreport chassis biossetup
または
omreport mainsystem biossetup
```

表 3-3 使用可能な BIOS セットアップパラメータを表示します。


 **メモ:** BIOS セットアップパラメータがすべて表示されません。システムの起動中に設定された BIOS 設定プロパティのみが表示されます。

表 3-3 BIOS 設定パラメータ

パラメータ	説明
属性	
Bootsequence	システムのブートに使用するデバイスを表示します。
Numlock	キーパッドを数字キーとして使用できるかどうかを表示します。
User accessible USB	ユーザーアクセス可能 USB ポートが有効または無効になっているかを表示します。
CPU Virtualization Technology	仮想化テクノロジーによって提供された追加のハードウェア機能を表示します。
AC Power Recovery Mode	停電後に入力電力が復元したときのシステム状態を表示します。
Embedded SATA Controller	内蔵 SATA コントローラが ATA モード、RAID モード、または無効かを表示します。
SATA port 0	SATAポート 0 の状態を表示します。
SATA Port 1	SATAポート 1 の状態を表示します。
Dual NIC(1/2)	PXE が付いた NIC 1 および NIC 2 が有効または無効になっているかを表示します。
Dual NIC(3/4)	PXE/iSCSI が付いた NIC 3 および NIC 4 が有効になっているか無効になっているかを表示します。
NIC 1	システムの起動中に最初の NIC が有効 (PXE/iSCSI のあるなしにかかわらず) または無効になっているかを表示します。
NIC 2	システムの起動中に二番目の NIC が有効 (PXE/iSCSI のあるなしにかかわらず) または無効になっているかを表示します。
NIC 3	システムの起動中に三番目の NIC が有効 (PXE/iSCSI のあるなしにかかわらず) または無効になっているかを表示します。
NIC 4	システムの起動中に四番目の NIC が有効 (PXE/iSCSI のあるなしにかかわらず) または無効になっているかを表示します。
Trusted Platform Module (TPM) Security	信頼済みプラットフォームモジュールがオフか、起動前の測定付きでオンになっているか、起動前の測定なしで有効になっているかを表示します。
Internal USB	内蔵の USB が有効または無効になっているかを表示します。
Operating System Watchdog Timer	オペレーティングシステムウォッチドッグタイマーが有効になっているか、無効になっているかを表示します。
Internal SD Card	内蔵 SD カードが有効になっているか、無効になっているかを表示します。
Bezel	システムブート中にベゼルの削除イントルージョンが有効または無効になっているかを表示します。
Console Redirection	BIOS 画面が特定のシリアルポートにリダイレクト、またはオフになっているかを表示します。
Diskette	ディスクが有効、自動有効、または読み取り専用になっているかを表示します。
Demand Based Power Management (DBS)	DBS がシステムで有効または無効になっているかを表示します。
Embedded Hypervisor	内蔵されたハイパーバイザが有効または無効になっているかを表示します。
IDE	ドライブが有効または無効になっているかを表示します。
IDE Primary Drive 0	デバイスが自動検知され有効になっている、または無効になっているかを表示します。
IDE Primary Drive 1	デバイスが自動検知され有効になっている、または無効になっているかを表示します。
Intrusion	システムブート中にイントルージョンチェックが有効または無効になっているかを表示します。
Mouse	マウスが有効または無効になっているかを表示します。
Optical Drive Controller	オプティカルドライブが有効または無効になっているかを表示します。
Parallel port address	アドレスが LPT1、LPT2、LPT3 に存在するか、または無効になっているかを表示します。
Parallel port mode	パラレルポートに関連した設定を表示します。
Primary SCSI	デバイスがオンまたはオフになっているかを表示します。
RAID on motherboard	マザーボード RAID が RAID デバイスまたは SCSI デバイスとして検知されている、またはデバイスがシステムブート中に無効になっているかを表示します。
RAID Channel A	マザーボード RAID チャネル A が RAID デバイスまたは SCSI デバイスとして検知されているかを表示します。
RAID Channel B	マザーボード RAID チャネル B が RAID デバイスまたは SCSI デバイスとして検知されているかを表示します。
SATA	
Serial Port 1	シリアルポート 1 が COM ポート、COM ポート 1、COM ポート 3、COM1 BMC、BMC シリアル、BMC NIC、BMC RAC にマップされている、または無効になっているかを表示します。
Serial Port 2	シリアルポート 2 が COM ポート、COM ポート 2、COM ポート 4 にマップされている、または無効になっているかを表示します。
Speaker	スピーカーがオンまたはオフになっているかを表示します。
USB または USB B	USB ポートが有効または無効になっているかを表示します。
Secondary SCSI	デバイスが有効または無効になっているかを表示します。
シリアル通信	

Serial Communications	COM ポート 1 と COM ポート 2 が有効か無効か、またコンソールリダイレクトの有無を表示します。
Console Redirection After Boot	システム起動後のコンソールリダイレクトが有効か無効かを表示します。
External Serial Connector	外部シリアルコネクタがシリアルデバイス 1、シリアルデバイス 2、リモートアクセスデバイスのうち、どれにマップされているかを表示します。
Console Redirection Failsafe Baud Rate	コンソールリダイレクト Failsafe ポーレートの設定を表示します。
Serial Address Select	シリアルデバイスのポートアドレスを表示します。

omreport chassis bmc/omreport mainsystem bmc

このコマンドはこのリリースに廃止されています。 [omreport chassis remoteaccess/omreport mainsystem remoteaccess](#) コマンドに置換されました。

omreport chassis currents/omreport mainsystem currents

現在、Server Administrator ではこのコマンドは使用できません。

omreport chassis fans/omreport mainsystem fans

omreport chassis fans または omreport mainsystem fans コマンドを使用してファンブロープの状態および設定を表示します。次のように入力します。

```
omreport chassis fans index=n
または
omreport mainsystem fans index=n
```

index パラメータはオプションです。インデックスを指定しない場合は、Server Administrator によってシステムに存在する可能性のあるファンブロープに設定されている状態、読み取り値、しきい値の概要が表示されます。インデックスを指定する場合は、Server Administrator によって特定のファンブロープの概要が表示されます。

omreport chassis fancontrol/omreport mainsystem fancontrol

omreport chassis fancontrol または omreport mainsystem fancontrol コマンドを使用してシステムのファン速度設定を表示します。ファン速度は、冷却または静かな操作に最適化して設定できます。表 3-4 に、使用可能な設定を示します。

表 3-4 ファンコントロール 設定

「名前=値」のペア	説明
speed=quiet	音が小さくなるようにファン速度を設定します。
speed=maxcool	冷却が最大化されるようにファン速度を設定します。

omreport chassis firmware/omreport mainsystem firmware

omreport chassis firmware または omreport mainsystem firmware cコマンドを使用すると、現在のファームウェアのプロパティが表示されます。次のように入力します。

```
omreport chassis firmware
または
omreport mainsystem firmware
```

Server Administrator はシステムのファームウェアのプロパティの概要を表示します。

omreport chassis frontpanel/omreport mainsystem frontpanel

omreport chassis frontpanel または omreport mainsystem frontpanel コマンドを使用すると、電源ボタンや**マスク不可能割り込み** (NMI) (システムに存在する場合)などのフロントパネルボタンの制御設定が有効か無効かを確認できます。

お使いのシステムに**電源**ボタンのオーバーライドが存在する場合に、**電源**ボタン オーバーライドが有効かどうかを確認できます。有効になっていると、**電源**ボタンはシステムの電源を**オン**および**オフ**に切り替えます。

システムに **NMI** ボタンが存在する場合に、**NMI** ボタンが有効かどうかを確認できます。**NMI** ボタンは一部のオペレーティング システムでは、ソフトウェアとデバイスのエラーのトラブルシューティングに利用できます。

omreport chassis fru/omreport mainsystem fru

omreport chassis fru または omreport mainsystem fru cコマンドを使用すると、FRU 情報を表示することができます。以下 のように入力すると、

```
omreport chassis fru
または
omreport mainsystem fru
```


Server Administrator でシステムの FRU 情報の要約が表示されます。この情報は Server Administrator GUI、SNMP、Common Information Model を経由して入手でき、主にトラブルシューティングアクティビティのサポートに使用します。

omreport chassis hwperformance/omreport mainsystem hwperformance

omreport chassis hwperformance または **omreport mainsystem hwperformance** コマンドを使用すると、システムのパフォーマンス低下の状態および原因を分かります。以下のように入力すると、

```
omreport chassis hwperformance
または
omreport mainsystem hwperformance
```

Server Administrator でシステムのハードウェアパフォーマンスの低下情報の要約が表示されます。

 **メモ:** このコマンドはPMBusをサポートするいくつかの Dell xx0x システムにのみ適用できます。

設定にもよりますが、出力は以下の例のようになります。

```
Hardware Performance

Index                : 0

Probe Name           : System Board Power Optimized

Status               : Normal

Cause                : [N/A]
```

omreport chassis info/omreport mainsystem info

omreport chassis info または **omreport mainsystem info** コマンドを使用すると、インストールされているコンポーネントのバージョンの概要が表示されます。

```
omreport chassis info index=n
または
omreport mainsystem info index=n
```

index パラメータはシャーシ番号を指定し、オプションになっています。インデックスを指定しない場合は、Server Administratorによって各シャーシの概要が表示されます。インデックスを指定する場合は、Server Administrator によって特定のシャーシの概要が表示されます。

設定にもよりますが、出力は以下の例のようになります。

```
Index                : 0

Chassis Name         : Main System Chassis

Host Name            : everglades

Baseboard Management Controller Version : 1.80

Primary Backplane Version : 1.01

Sensor Data Record Version : SDR Version 0.33

Chassis Model        : PowerEdge 1750

System Revision Name : Triathlon MLK II

Chassis Lock         : Present

Chassis Service Tag  : 8RLNB1S

Chassis Asset Tag    :

Flash chassis indentify LED state : Off

Flash chassis indentify LED timeout value : 300
```

omreport chassis intrusion

omreport chassis intrusion コマンドを使用すると、システムのカバーが開いているかどうかを確認できます。イントルージョンは、システムのコンポーネントを盗んだり、システムを無断で保守しようとする者がいる可能性を示している場合があるため、Server Administrator ではシャーシイントルージョンを記録します。次のように入力します。

```
omreport chassis intrusion
```

次のようなメッセージが表示されます。

```
Status              : Ok

Probe Name          : Main chassis intrusion

State               : Chassis is closed
```

omreport chassis leds/omreport mainsystem leds

omreport chassis leds または **omreport mainsystem leds** コマンドを使用すると、ハードドライブフォルトのクリアがサポートされているかどうかと、どの重大度レベルで LED が点滅するかを確認できます。次のように入力します。

```
omreport chassis leds index=n
または
omreport mainsystem leds index=n
```

index パラメータはオプションです。インデックスを指定しない場合は、Server Administrator によってシャーン 0 の LED 情報の概要が表示されます。インデックスを指定する場合は、Server Administrator によって特定のシャーンの概要が表示されます。

次に出力例を示します。

```
Flash chassis indentify LED state           : Off

Flash chassis indentify LED timeout value   : 300
```

omreport chassis memory/omreport mainsystem memory

omreport chassis memory or **omreport mainsystem memory** コマンドを使用するとシステムの各メモリモジュールスロットの詳細を表示できます。システムが冗長メモリをサポートしている場合は、システムに実装されているメモリ冗長のステータス、状態、種類も表示されます。次のように入力します。

```
omreport chassis memory index=n
または
omreport mainsystem index=n
```

index パラメータはオプションです。インデックスを指定しない場合は、Server Administrator によってシステムのすべてのメモリモジュール情報が表示されます。インデックスを指定する場合は、Server Administrator によって特定のメモリモジュールの概要が表示されます。

以下は、使用中のメモリスロットの出力例です。

```
Index           : 1
Status          : OK
Connector Name  : DIMM_B
Type            : SDRAM-SYNCHRONOUS
Size            : 256 MB
```

使用されていないメモリスロットには、まだコネクタ名が付いています。以下は、使用されていないメモリスロットの出力例です。

```
Index           : 2
Status          : Unknown
Connector Name  : DIMM_D
Type            : Not Occupied
Size            : Unknown
```

システムが冗長メモリをサポートしている場合は、冗長出力が次のように表示されます。

```
Memory Redundancy
Redundancy Status      : Full
Fail Over State        : Inactive
Redundancy Configuration : SpareBank
Attributes              : Location
Memory Array 1         : Proprietary Add-on Card
Attributes              : Use
Memory Array 1         : Unknown
Attributes              : Installed Capacity
Memory Array 1         : 1536 MB
Attributes              : Maximum Capacity
Memory Array 1         : 12288 MB
Attributes              : Slots Available
Memory Array 1         : 12
```

omreport chassis nics/omreport mainsystem nics

NIC のプロパティを表示するには **omreport chassis nics** または **omreport mainsystem nics** コマンドを使用します。次のように入力します。

```
omreport chassis nics index=n
または
omreport mainsystem nics index=n
```

index パラメータはオプションです。インデックスを指定しない場合は、Server Administrator によってシステムのすべての NICS に関するプロパティが表示されます。インデックスを指定する場合は、Server Administrator によって特定の NIC のプロパティが表示されます。

フィールドの値: **インデックス** (NIC カードの番号)、**IP アドレス**、**ベンダ**、**説明**、および **接続 ステータス** の値が表示されます。

omreport chassis ports/omreport mainsystem ports

omreport chassis ports または **omreport mainsystem ports** コマンドを使用すると、システムのパラレルポートとシリアルポートのプロパティが表示されます。

ポート タイプ、**外部名**、**ベース I/O アドレス**、**IRQ レベル**、**コネクタタイプ**、および **最大速度** フィールドの値が表示されます。

- 1 **ポートのタイプ** は各システムポートタイプの詳細で、シリアル、パラレル、USB などのポートや、ポインティングデバイス、キーボードなどポートに接続されるデバイス種類ごとのポート名が示されます。
- 1 **外部名** はシリアルまたはパラレル、USB、マウス、キーボードなどのポート名です。
- 1 **ベース I/O アドレス** は 16 進数で表される開始 I/O アドレスです。
- 1 **IRQ レベル** はシステムのハードウェア割り込みです。ハードウェア割り込みはイベントがモデムまたはプリンタのような周辺機器で開始または終了したことをシステムの CPU に通知します。周辺機器内部接続カードで通信する場合、IRQ レベルは、割り込み要求を送信しているデバイスの種類を識別する一般的な方法です。
- 1 **コネクタタイプ** はプラグまたはケーブルの種類と 2 つのデバイスを接続するプラグを指し、この場合は外付けデバイスをシステムに取り付けるコネクタの種類を指します。コネクタタイプは数多く、それぞれ異なる種類をシステムに接続するように設計されています。例としては DB-9 Male、AT、アクセスバス、PS/2 などが挙げられます。
- 1 **最大速度** はポート速度です。ポート速度は入力/出力チャネルのデータ転送レートを指し、1 秒あたりのビット数で測定されます。通常、シリアルポートの最大速度は 115 Kbps で、USB ハーブ 1 x ポートの最大速度は 12 Kbps です。

omreport chassis processors/omreport mainsystem processors

omreport chassis processors または omreport mainsystem processors コマンドを使用してシステムのプロセッサのプロパティを表示できます。

コネクタ名、製造元、プロセッサシリーズ、プロセッサバージョン、現在のスピード、外部クロック速度、および状態 フィールドの値が表示されます。

- 1 **コネクタ名** はシステムのプロセッサ スロットを占有するデバイス名またはデバイス番号を指します。
- 1 **メーカー** はプロセッサを販売する企業団体を指します。
- 1 **プロセッサシリーズ** は Intel® Itanium® または Pentium® III または AMD™ タイプ Opteron™ などのメーカーによって造られたプロセッサのタイプを指します。
- 1 **プロセッサバージョン** はプロセッサのモデルとステッピング番号を指します。
- 1 **現在のスピード** はシステム起動時の実際のプロセッサの速度を MHz で表したものです。
- 1 **外部クロック速度** はプロセッサの外部クロック速度を MHz で表したものです。
- 1 **状況** はプロセッサスロットが有効か無効かを示します。
- 1 **コアカウント** は 1 つのチップに内蔵されたプロセッサ数を表したものです。

特定のプロセッサの機能およびキャッシュプロパティ

特定のコネクタ上のプロセッサのキャッシュプロパティを調べるには、次のように入力します。

```
omreport chassis processors index=n
または
omreport mainsystem processors index=n
```

index パラメータはオプションです。インデックスを指定しない場合は、すべてのプロセッサのプロパティが表示されます。インデックスを指定する場合は、特定のプロセッサのプロパティが表示されます。

以下のフィールドは特定のマイクロプロセッサの現在の能力のために定義されます。

Intel プロセッサの場合

- 1 64-bit サポート
- 1 ハイパースレディング (HT)
- 1 Virtualization Technology (VT)
- 1 Demand-Based Switching (DBS)
- 1 Execute Disable (XD)

AMD プロセッサの場合

- 1 64-bit サポート
- 1 AMD-V™
- 1 AMD PowerNow!™
- 1 No Execute (NX)

特定のマイクロプロセッサ上のキャッシュには、以下のフィールドが定義されます。そのキャッシュがプロセッサの内部にある場合、キャッシュレポートにフィールドは表示されません。

- 1 速度
- 1 キャッシュデバイスがサポートしている種類
- 1 キャッシュデバイス現在の種類
- 1 外部ソケット名

特定プロセッサ上のキャッシュごとに報告されるフィールド

特定プロセッサ上のキャッシュごとに対して以下のフィールドが表示されます。

- 1 **状態** は、そのプロセッサ上のキャッシュの状態が有効か無効かを報告します。
- 1 **レベル** は、それが 1 次キャッシュか 2 次キャッシュかを示します。1 次キャッシュは、プロセッサに内蔵されたメモリバンクです。2 次キャッシュは、1 次キャッシュに転送されるデータのステージ領域です。2 次キャッシュは、プロセッサ内に内蔵される場合とプロセッサ外部のメモリチップに搭載される場合があります。内部プロセッサキャッシュはレベル 1 (または L1) と呼びます。L2 キャッシュは Intel Pentium プロセッサ システムの外部キャッシュで、2 次的にアクセスされるキャッシュです。L1 または L2 という呼び名は、そのキャッシュの物理的な場所 (内部または外部) を示すものではなく、どちらのキャッシュが最初にアクセスされるかを示しています (L1、つまり内部)。
- 1 **速度** はキャッシュがメインメモリからプロセッサへデータを転送するときの速度レートを示します。
- 1 **最大サイズ** はそのキャッシュの最大メモリ容量を KB で表します。

- 1 **インストールサイズ** はそのキャッシュの実サイズです。
- 1 **種類** はそれが 1 次キャッシュか 2 次キャッシュかを示します。
- 1 **場所** はプロセッサ上、またはプロセッサ外のチップセット上のキャッシュの場所です。

書き込みポリシー はキャッシュの書き込みサイクル方法を示します。書き戻しポリシーでは、キャッシュはバッファとして機能します。プロセッサが書き込みサイクルを開始すると、キャッシュはデータを受け取ってサイクルを停止します。その後、システムバスが利用可能になると、キャッシュはそのデータをメインメモリに書き戻します。

ライトスルーポリシーでは、プロセッサがキャッシュ経由でメインメモリに書き込みます。データがメインメモリに格納されるまで書き込みサイクルは完了しません。

結合性はメインメモリの内容をキャッシュに格納するときの方法を示します。

- 1 フルアソシエティブキャッシュ方式では、メインメモリのラインはキャッシュのどの場所にも格納できます。
- 1 4 ウェイセットアソシエティブキャッシュ方式では、メモリ内の特定の 4 ラインをキャッシュ内の同一の 4 ラインに直接マップします。
- 1 3 ウェイセットアソシエティブキャッシュ方式では、メモリ内の特定の 3 ラインをキャッシュ内の同一の 3 ラインに直接マップします。
- 1 2 ウェイセットアソシエティブキャッシュ方式では、メモリ内の特定の 2 ラインをキャッシュ内の同一の 2 ラインに直接マップします。
- 1 1 ウェイセットアソシエティブキャッシュ方式では、メモリ内の特定ラインをキャッシュ内の同一ラインに直接マップします。

たとえば、メモリ内のページのライン 0 はキャッシュメモリ内のライン 0 に格納されます。

キャッシュデバイス対応の種類 は、そのデバイスがサポートできる SRAM(Static Random Access Memory)の種類を示します。

キャッシュデバイス現在の種類は、現在搭載済みで、そのキャッシュがサポートしている SRAM の種類を示します。

外部ソケットシルクスクリン名は、ソケットの隣りのシステムボードに刻印される名前です。

エラー修正の種類 は、このメモリで実行される ECC(エラー検査と訂正)の種類を示します。たとえば、訂正可能な ECC または訂正不可能な ECC が挙げられます。

この報告には、マイクロプロセッサ上に存在する各キャッシュ情報が示されます。

omreport chassis pwrmanagement/omreport mainsystem pwrmanagement

omreport chassis pwrmanagement または omreport mainsystem pwrmanagement コマンドを使うと、システムの電力バジェットキャップと電源管理プロファイルを表示できます。次のように入力します。


```
omreport chassis pwrmanagement
または
omreport mainsystem pwrmanagement
```

システムの各電源装置の以下のフィールドの値が表示されます。

最大性能、アクティブ電源コントローラ、OS 制御、カスタム

カスタム属性には次のようなものがあります。

CPU 電源と性能管理、メモリ電源と性能管理、ファン電源と性能管理

 **メモ:** omreport chassis pwrmanagement と omreport mainsystem pwrmanagement コマンドは、電源管理バス(PMBus)をサポートするいくつかの Dell xx1x システムにのみ適用されます。

Power Inventory

Power Consumption

Attribute : System Idle Power

Value : 153 W

Attribute : System Maximum Potential Power

Value : 597 W

Power Budget

Attribute : Enable Power Cap

Values : Enabled

Attribute : Power Cap

Values : 400 W (56%)

omreport chassis pwrmonitoring/omreport mainsystem pwrmonitoring

omreport chassis pwrmonitoring または omreport mainsystem pwrmonitoring コマンドを使用してシステムの電力消費のプロバティを表示できます。次のように入力します。

```
omreport chassis pwrmonitoring
または
omreport mainsystem pwrmonitoring
```

システムの各電源監視プロファイルの以下のフィールドの値が表示されます。

- 1 電力消費量状態
- 1 プローブ名
- 1 読み取り値
- 1 警告しきい値
- 1 エラー警告しきい値
- 1 アンペア数:場所と読み値
- 1 電源トラッキング統計
- 1 エネルギー消費量
- 1 測定開始時刻
- 1 測定終了時刻
- 1 読み取り値
- 1 システムピーク電力
- 1 システムピークアンペア数

 **メモ:** omreport chassis pwrmonitoring または omreport mainsystem pwrmonitoring コマンドは PMBus をサポートするいくつかの Dell xx0x と xx1x システムにのみ適用できます。

表 3-5 omreport chassis pwrmonitoring/omreport mainsystem pwrmonitoring

「名前=値」のペア	説明
config=stats	電力統計をワット数で表示します。

```

Power Consumption Information
Power Consumption

    Index                : 2

    Status               : Ok

    Probe Name           : System Board System Level

    Reading              : 539 W

    Warning Threshold    : 994 W

    Failure Threshold    : 1400 W

Power Headroom

    Name                 : System Instantaneous Headroom

    Reading              : 300 W

    Name                 : System Peak Headroom

    Reading              : 340 W

Amperage

    Location             : PS 1 Current 1

    Reading              : 1.2 A

    Location             : PS 2 Current 2

    Reading              : 1.0 A

Power Tracking Statistics

    Statistics           : Energy consumption

    Measurement Start Time : Thu Jun 28 11:03:20 2007

    Measurement Finish Time : FRI Jun 28 11:05:46 2007

    Reading              : 5.9 KWH
  
```



```

Statistics          : System Peak Power

Measurement Start Time : Mon Jun 18 16:03:20 2007

Peak Time          : Wed Jun 27 00:23:46 2007

Peak Reading       : 630 W

Statistics          : System Peak Amperage

Measured Since     : Mon Jun 18 16:03:20 2007

Read Time          : Tue Jun 19 04:06:32 2007

Peak Reading       : 2.5 A

```

omreport chassis pwrsupplies/omreport mainsystem pwrsupplies

omreport chassis processors または omreport mainsystem processors コマンドを使用してシステムの電源装置のプロパティを表示できます。次のように入力します。

```

omreport chassis pwrsupplies
または
omreport mainsystem pwrsupplies

```

システムの各電源監視プロファイルの以下のフィールドの値が表示されます。

- 1 状態
- 1 場所
- 1 タイプ
- 1 定格入力ワット数
- 1 最大出力ワット数
- 1 オンライン状態
- 1 電源監視対応

omreport chassis remoteaccess/omreport mainsystem remoteaccess


DRAC がインストールされている場合、omreport chassis remoteaccess または omreport mainsystem remoteaccess コマンドを使って、ベースボード管理コントローラまたは Integrated Dell Remote Access Controller (BMC/iDRAC) および Remote Access Controller の一般情報を表示できます。

次のように入力します。

```

omreport chassis remoteaccess
または
omreport mainsystem remoteaccess

```

 **メモ:** このコマンドは、PowerEdge x8xx、x9x、xx0x、xx1x システムにのみ適用できます。

omreport chassis remoteaccess/omreport mainsystem remoteaccess コマンドの出力では各有効なパラメータをリストします。表 3-6 に、使用可能な設定を示します。

表 3-6 omreport chassis remoteaccess/omreport mainsystem remoteaccess

「名前=値」のペア	説明
config=additional	iDRAC6 上での IPv4 と IPv6 アドレスの現在の状態を報告します。
config=advsol	シリアルオーバーローカルエリアネットワーク(LAN)接続の BMC/iDRAC6 または リモートアクセスの詳細情報を報告します。
config=nic	LAN 接続に対する BMC/iDRAC6 または リモートアクセスの情報を報告します。
config=serial	BMC または リモートアクセスのシリアルポート情報を報告します。
config=serialoverlan	シリアルオーバー LAN 接続の BMC/iDRAC6 または リモートアクセスの詳細情報を報告します。
config=terminalmode	シリアルポートのターミナルモード設定を報告します。
config=user	BMC/iDRAC6 または リモートアクセスユーザーの情報を報告します。

omreport chassis slots/omreport mainsystem slots

omreport chassis slots または omreport mainsystem slots コマンドを使用してシステムのスロットのプロパティを表示できます。

次のように入力します。

```
omreport chassis slots index=n  
または  
omreport mainsystem slots index=n
```

index パラメータはオプションです。インデックスを指定しない場合は、システムのすべてのスロットのプロパティが表示されます。インデックスを指定する場合は、特定のスロットのプロパティが表示されます。

システムの各スロットの: **索引**、**スロット ID**、**アダプタ**、および **データバス幅** フィールドの値が表示されます。

- 1 **索引** はシステムにあるスロットの数です。
- 1 **スロット ID** は、スロットの隣のシステムのマザーボードに印刷されたシルクスクリーン名です。英数字テキストはシステムの各スロットを独自に識別します。
- 1 **アダプタ** はスロットに合ったカード名とタイプを指し、たとえばストレージアレイコントローラ、SCSI アダプタ、iDRAC6 Enterprise、HBA などが含まれます。
- 1 **データバスの幅** は、システムのコンポーネント間の情報経路の幅をビットで表したものです。データバスの幅の範囲は16~64 ビットです。

omreport chassis temps/omreport mainsystem temps

omreport chassis temps または omreport mainsystem temps コマンドを使用してシステムの温度プローブのプロパティを表示できます。次のように入力します。

```
omreport chassis temps index=n  
または  
omreport mainsystem temps index=n
```

index パラメータはオプションです。インデックスを指定しない場合は、システムにある可能性のある温度プローブ用に設定された状態、読み取り値、しきい値などの概要が表示されます。インデックスを指定する場合は、特定の温度プローブの概要が表示されます。

omreport chassis volts/omreport mainsystem volts

omreport chassis volts または omreport mainsystem volts コマンドを使用してシステムの温度プローブのプロパティを表示できます。次のように入力します。

```
omreport chassis volts index=n  
または  
omreport mainsystem volts index=n
```

index パラメータはオプションです。インデックスを指定しない場合は、システムにある可能性のある電圧プローブ用に設定された状態、読み取り値、しきい値などの概要が表示されます。インデックスを指定する場合は、特定の電圧プローブの概要が表示されます。

omreport system コマンドまたはomreport servermodule コマンド

omreport system または omreport servermodule コマンドを使用してログ、しきい値、所有コスト情報、およびシャットダウン処置と回復処理の設定方法の情報を表示できます。

omreport system/omreport servermodule

omreport system または omreport servermodule c コマンドを使用してシステムのコンポーネントの一般ステータスを表示できます。omreport system shutdown/omreport servermodule shutdown のようなレベル 3 コマンドを指定すると omreport system または omreport servermodule で取得できる高レベルステータスの代わりに 1 つのコンポーネントの詳細な情報を取得できます。'

次のように入力します。

```
omreport system  
または  
omreport servermodule
```


システムに、メインシステムシャーシと直接接続している 最低 1 つのストレージデバイスの両方がある場合は、Server Administrator は以下の例に示すような概要が表示されます。

```
SEVERITY : COMPONENT  
Ok       : Main System Chassis  
Critical : Storage
```

 **メモ:** このマニュアルで表示するすべての出力例と同様に、以下は 1 例にすぎず、実際の出力はシステム構成によって異なります。

ログ表示のコマンド

omreport system または omreport servermodule コマンドを使用して警告ログ、コマンドログおよびハードウェアまたは ESM ログのログを表示できます。

 **メモ:** 警告ログまたはコマンドログで無効な XML データ(選択対象で生成された XML データがうまくできていなかった場合など)、omconfig system alertlog action=clear または omconfig system cmdlog action=clear とタイプしてログをクリアすると問題を解決できます。今後のためにログ情報を保管しておきたい場合は、ログをクリアする前にログのコピーを保存しておくといでしょう。ログのクリアの詳細については、「[ログをクリアするコマンド](#)」を参照してください。

アラートログの内容を表示するには、次のように入力します。

```
omreport system alertlog  
または  
omreport servermodule alertlog
```

コマンドログのコンテンツを表示するには、次のように入力します。

```
omreport system cmdlog  
または  
omreport servermodule cmdlog
```

ESM ログのコンテンツを表示するには、次のように入力します。

```
omreport system esmlog  
または  
omreport servermodule esmlog
```

ESM ログの全般的な正常性の状態

`omreport system esmlog` または `omreport servermodule esmlog` を入力すると the Embedded Systems Management (ESM) レポートが表示されます。報告の 1 行目はシステムハードウェアの総合的な正常性を反映しています。たとえば、正常性: ok となっていたら、ESM ログ 割り当てスペースにおけるメッセージの占有率がまだ 80 % 未満という意味です。これが 80 % 以上になると、次の警告が表示されます。

```
Health: (Non-Critical (正常性: 非重要)
```

警告が表示されたら、警告と重要な重大度の要因をすべて解決してから、ログをクリアします。

omreport system alertaction/omreport servermodule alertaction

`omreport system alertaction` または `omreport servermodule alertaction` コマンドを使用すると、システムコンポーネントでの警告やエラーイベントに対して設定されている警告処置の概要が表示されます。警告処置はコンポーネントに警告またはエラー イベントがある場合に、Server Administrator の応答方法を決定します。


`omreport system alertaction` または `omreport servermodule alertaction` コマンドは、コンポーネントに指定された警告処置を表示するのに役立ちます。コンポーネントの警告処置を設定するには **omconfig system alertaction** または **omconfig servermodule alertaction** コマンドを使用します。詳細については、[「Instrumentation Service\(計装サービス\)を使ったomconfig: コンポーネントの管理」](#)を参照してください。


警告処置を表示できるコンポーネントとイベント

システムにコンポーネントまたはイベントが存在する場合、次のようなコンポーネントやイベントに関して警告処置のプロパティを表示できます。

1	バッテリー警告	1	電源装置エラー	1	ストレージシステム失敗
1	バッテリーエラー	1	冗長の低下	1	ストレージコントローラ警告
1	シャーシントルージョン	1	冗長の喪失	1	ストレージコントローラ失敗
1	電流プローブ警告	1	温度警告	1	物理デバイス

		ク警告
1 電流プローブエラー	1 不適切な温度	1 物理ディスク失敗
1 ファン警告	1 電圧警告	1 仮想ディスク警告
1 ファン障害	1 不適切な電圧	1 仮想ディスク失敗
1 メモリブリエラー	1 プロセッサ警告	1 エンクロージャ警告
1 メモリエラー	1 プロセッサエラー	1 エンクロージャ失敗
1 システム電源プローブ警告	1 プロセッサエラー	1 ストレージコントローラバッテリー警告
1 システム電源プローブはエラーを検出します	1 ハードウェアログが一杯です	1 ストレージコントローラバッテリー失敗
1 システムピーク電力	1 ウォッチドッグ asr	
1 電源装置警告	1 ストレージシステム警告	

 **メモ:** ストレージコントローラバッテリー 警告 および ストレージコントローラバッテリー 失敗 イベントはモジュラーシステムで利用できません。

 **メモ:** システム電源プローブ警告はモジュラーシステムには適用されません。

omreport system assetinfo/omreport servermodule assetinfo

omreport system assetinfo または omreport servermodule assetinfo コマンドを使用すると、取得、減価償却、および保証情報などのシステムの所有コストデータが表示されます。このフィールドを設定するには、omconfig system assetinfo または omconfig servermodule assetinfo コマンドを使用します。詳細については、「[omconfig システムまたは servermodule assetinfo: 所有コスト\(Cost of Ownership\)の編集](#)」を参照してください。

omreport system events/omreport servermodule events

omreport system events または omreport servermodule events コマンドを使用すると、現在有効または無効の SNMP トラップが表示されます。このコマンドは、イベントが生成される各コンポーネントの概要を表示します。各コンポーネントについて、報告するように設定されている重大度と、報告されないように設定されている重大度がレポートに示されます。いくつかのコンポーネントの出力例を次に示します。

```
omreport system events
または
omreport servermodule events

Current SNMP Trap Configuration
-----
System
-----
Settings
Enable: Informational, Warning and Critical
Disable: None

-----
Power Supplies
-----
Settings
Enable: Informational, Warning and Critical
Disable: None

-----
Fans
-----
Settings
Enable: Critical
Disable: Informational and Warning
```

完全なレポートには、イベントを生成できるシステムのすべてのコンポーネントの設定が一覧になります。

特定タイプのコンポーネントを表示するには omreport system events type=<コンポーネント名> または omreport servermodule event type=<コンポーネント名> コマンドを使用します。このコマンドは、イベントが生成される各コンポーネントの概要を表示します。[表 3-7](#) は、さまざまな種類のコンポーネントのイベントを表示します。


 **メモ:** 一部のコンポーネントの種類は、システムで使用できないものもあります。

表 3-7 コンポーネントの種類別のシステムイベント

「名前=値」のペア	説明
type=accords	AC 電源コードのイベントを報告します。
type=battery	バッテリーのイベントを報告します。
type=fanenclosures	ファンエンクロージャのイベントをレポートします。
type=fans	ファンのイベントを設定します。
type=intrusion	シャーシ侵入のイベントをレポートします。
type=log	ログのイベントを設定します。
type=memory	メモリのイベントを設定します。
type=powersupplies	電源装置のイベントをレポートします。
type=redundancy	冗長性のイベントを設定します。
type=systempower	電源装置のイベントをレポートします。
type=temps	温度のイベントを設定します。
type=volts	電圧のイベントを設定します。

イベントの種類のコマンド例

次のように入力します。

```
omreport system events type=fans
または
omreport servermodule events type=fans
```

次に出力例を示します。

```
-----
Fans
-----
Settings
```

Enable: Critical
Disable: Informational and Warning

omreport system operatingsystem/omreport servermodule operatingsystem

omreport system operatingsystem または omreport servermodule operatingsystem コマンドを使用してオペレーティング システムの情報を表示できます。


omreport system pedestinations/omreport servermodule pedestinations

omreport system pedestinations または omreport servermodule pedestinations コマンドを使用すると、プラットフォームイベントの警告に対して設定された送信先が表示されます。表示される送信先の数によっては、各送信先アドレスに個別の IP アドレスを設定できます。

次のように入力します。

```
omreport system pedestinations  
または  
omreport servermodule pedestinations
```

omreport system pedestinations または omreport servermodule pedestinations コマンドの出力では各有効な パラメータをリストします。

 **メモ:** システム上で設定できる実際の宛先数は、システムによって異なります。

[表 3-8](#) に、使用可能な設定を示します。

表 3-8 omreport system pedestinations/omreport servermodule pedestinations の設定

出力	属性	説明
送信先リスト		
	Destination Number: Destination1 Destination IP Address: 101.102.103.104	宛先 1: 最初の宛先を表示します。 101.102.103.104: 最初の宛先の IP アドレス
	Destination Number: Destination 2 Destination IP Address: 110.120.130.140	宛先 2: 二番目の宛先を表示します。 110.120.130.140: 二番目の宛先の IP アドレス
	Destination Number: Destination 3 Destination IP Address: 201.202.203.204	宛先 3: 三番目の宛先を表示します。 201.202.203.204: 三番目の宛先の IP アドレス
	Destination Number: Destination 4 Destination IP Address: 210.211.212.213	宛先 4: 四番目の宛先を表示します。 210.211.212.213: 四番目の宛先の IP アドレス
送信先設定		
	attribute=communitystring	communitystring: パスワードとして機能し、BMC と送信先管理ステーションの間で送信される SNMP メッセージを認証するのに使用されるテキストを設定します。

omreport system platformevents/omreport servermodule platformevents

omreport system platformevents または omreport servermodule platformevents コマンドを使用すると、リストの各プラットフォームイベントにシステムがどのように反応するかが表示されます。

omreport system recovery/omreport servermodule recovery

omreport system recovery または omreport servermodule recovery コマンドを使用すると、オペレーティングシステムがハング状態になった場合の対応方法が設定されているかどうかを確認できます。何秒経ったらオペレーティングシステムがハング状態にあると判断するかを表示することもできます。

omreport system shutdown/omreport servermodule shutdown

omreport system shutdown または omreport servermodule shutdown コマンドを使用すると、システムで保留中のシャットダウン処理が表示されます。シャットダウンのプロパティが設定されている場合は、このコマンドを実行するとプロパティが表示されます。

omreport system summary/omreport servermodule summary

omreport system summary または omreport servermodule summary コマンドを使用すると、現在システムにインストールされているソフトウェアとハードウェアコンポーネントの包括的な概要が表示されます。

コマンド出力例

次のように入力します。

```
omreport system summary
または
omreport servermodule summary
```

CLI ウィンドウに表示される出力は、システムにインストールされているシステム管理ソフトウェア、オペレーティングシステム、およびハードウェアコンポーネントとオプションによって異なります。次の部分的コマンド結果は特有のもので、ご使用のシステムのハードウェア構成とソフトウェア 設定とは異なる場合があります。

```
System Summary
-----
Software Profile
-----
System Management
Name           : Dell OpenManage Server Administrator
Version        : 6.x.x
Description    : System Management Software
Contains      : Instrumentation Service 6.x.x
               : Storage Management Service 3.x.x
               : Sun JRE - OEM Installed Version 3.x.x
               : Secure Port Server 1.x.x
               : Dell OpenManage Core Service 1.x.x
               : Instrumentation Service Integration Layer 1.x.x
               : Storage Management Service Integration Layer 1.x.x

Operating System
Name           : Microsoft Windows 2000 Server
Version        : Service Pack 3 (Build 2XXX)
System Time    : Fri Sep 20 18:02:52 2XXX
System Bootup Time : Wed Sep 18 18:37:58 2XXX
```

システム概要ハードウェア情報には、システムに存在するインストール済みの次の種類のコンポーネントに関するデータ値が含まれます。

システムの属性

- 1 Host name
- 1 System location

メインシステムシャーシ/メインシステム

Chassis

- 1 シャーシモデル
- 1 シャーシサービスタグ
- 1 シャーシロック
- 1 シャーシ管理タグ

プロセッサ

システムの各プロセッサにつき、次の情報が一覧になります。

- 1 プロセッサメーカー
- 1 プロセッサシリーズ
- 1 プロセッサバージョン
- 1 現在の速度
- 1 最大速度
- 1 外部クロック速度

- 1 電圧

メモリ

- 1 インストール合計容量
- 1 オペレーティングシステムで使用可能なメモリ
- 1 最大容量
- 1 メモリアレイカウント

メモリアレイ

システムの各メモリボードやモジュールについて、以下の詳細が一覧になります(たとえば、指定のスロット 番号のシステムボードやメモリモジュール)。

- 1 場所
- 1 用途
- 1 インストール済み容量
- 1 最大容量
- 1 使用できるスロット
- 1 使用中のスロット
- 1 ECC の種類

BIOS

- 1 メーカー
- 1 BIOS バージョン
- 1 リリース日
- 1 BIOS ファームウェア情報
- 1 名前
- 1 BIOS ファームウェアバージョン

ファームウェア

- 1 名前
- 1 バージョン

ネットワークインタフェースカード

システムの各 NIC について、次の詳細が表示されます。

- 1 IP アドレス
- 1 サブネットマスク
- 1 デフォルトゲートウェイ
- 1 MAC アドレス

ストレージエンクロージャ

システムに接続されている各ストレージエンクロージャについて、次の詳細が一覧表示されます。

- 1 名前
- 1 プロダクト ID

omreport system thrmshutdown/omreport servermodule thrmshutdown

omreport system thrmshutdown または omreport servermodule thrmshutdown コマンドを使用すると、サーマルシャットダウン処置に対して設定されているプロパティを表示できま

す。

サーマルシャットダウンで表示される 3 つのプロパティには、**無効**、**警告**、**エラー**があります。CLI が次のメッセージを表示する場合、サーマルシャットダウン機能は無効になっています。

```
Thermal protect shutdown severity: disabled (サーマル保護シャットダウン重大度: 無効)
```

温度プローブが警告またはエラーイベントを検出したときにシャットダウンするようにシステムが設定されている場合は、次のどちらかのメッセージが表示されます。

```
Thermal protect shutdown severity: warning (サーマル保護シャットダウン重大度: 警告)  
Thermal protect shutdown severity: failure (サーマル保護シャットダウン重大度: エラー)
```

omreport system version/omreport servermodule version

`omreport system version` または `omreport servermodule version` コマンドを使用すると、システムにインストールされている BIOS、ファームウェア、システム管理ソフトウェア、およびオペレーティングシステムのバージョン番号が表示されます。

コマンド出力例

次のように入力します。

```
omreport system version  
または  
omreport servermodule version
```

CLI ウィンドウに表示される出力は、システムにインストールされている BIOS、RAID コントローラ、およびファームウェアのバージョンによって異なります。次の部分的コマンド結果は特有の結果で、ご使用のシステムの設定結果と異なる場合があります。

```
Version Report  
  
-----  
Main System Chassis  
-----  
  
Name : BIOS  
Version : 0.2.16  
  
Name : BMC  
Version : 0.26  
  
Name : Primary Backplane  
Version : 1.01  
  
-----  
Software  
-----  
  
Name : Microsoft Windows Server 2003,Enterprise Edition  
Version : 5.4 <Build 3790 : Service Pack 1> <x86>  
  
Name : Dell Server Administrator  
Version : 6.0.1
```

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

CLI コマンド結果の使用方法

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 6.0.1 コマンドラインインタフェース ユーザーズガイド

Server Administrator コマンドラインインタフェース(CLI)のユーザーはさまざまな方法でコマンド出力を利用できます。この項では、コマンド出力をファイルに保存する方法と、コマンド結果のフォーマットを目的に合わせて選択する方法について説明します。

表 7-1 omreport コマンドに対するシステムの 使用可能状況

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	適用可能
omreport	modularenclosure	モジュラーシステム
	servermodule	モジュラーシステム
	mainsystem	モジュラーシステム
	システム	非モジュラーシステム
	シャーシ	非モジュラーシステム

コマンド結果の出力オプション

CLI コマンド出力はオペレーティングシステムのタイプによって、コマンドウィンドウ、X-ターミナル、または画面上でシステムの標準出力に表示されます。

コマンド結果を標準出力に表示する代わりに、ファイルにリダイレクトすることができます。コマンド出力をファイルに保存するとあとで分析または比較に使用することができます。

コマンド結果を標準出力に表示する場合もファイルに書き込む場合も、結果をフォーマットできます。選択するフォーマットによって、コマンド出力の表示形式やファイルへの書き込み方法が決まります。

管理コマンド 出力の表示

各オペレーティングシステムには、コマンド結果の標準出力表示方法を管理する手段が備わっています。次のコマンドは、コマンド結果を確認する前に、スクロールして消えてしまわないようにする場合に使用します。Microsoft Windows コマンドプロンプト、Red Hat Enterprise Linux ターミナル、およびSUSE Linux Enterprise Server ターミナルで、同じコマンド構文を使用できます。スクロール制御機能を備えたコマンド出力を表示するには、CLI コマンドを入力してパイプ記号の後に `more` を付加します。たとえば、次のように入力します。

```
omreport system summary | more
または
omreport servermodule summary | more
```

マルチスクリーンシステムの概要では、最初の画面が表示されます。コマンド出力の次の画面を表示するには、スペースバーを押します。

書き込み コマンド 出力のファイルへの書き込み

コマンド結果をファイルにリダイレクトする場合は、コマンド結果の書き込み先のファイル名と、必要に応じてディレクトリパスを指定できます。ファイルの書き込み先のパスを指定する場合は、オペレーティングシステムに適した構文を使用してください。

コマンド結果の保存には 2 つの方法があります。指定する出力ファイルと同じ名前の任意のファイルを上書きするか、コマンド結果を同じ名前のファイルに追加し続けることができます。

上書き可能なファイルへのコマンド結果の保存

`-outc` オプションは、以前に書き込まれたファイルに保存されているデータを上書きする場合に使用します。例えば、午前 11:00 時にシステム上のファンブローブ 0 のファンブローブ RPM 読み取り値をキャプチャして `fans.txt` というファイルに結果を書き込みます。この場合、次のように入力します。

```
omreport chassis fans index=0 -outc fans.txt
または
omreport chassis fans index=0 -outc fans.txt
```

以下は、ファイルに書き込まれた結果の一部です。

```
Index          : 0
Status         : OK
Probe Name     : System Board Fan 1 RPM
Reading        : 2380RPM
Minimum Warning Threshold : 600RPM
Maximum Warning Threshold : 5700RPM
Minimum Failure Threshold : 500RPM
Maximum Failure Threshold : 6000RPM
```

4 時間後、コマンドを繰り返します。午前 11:00 時の `fans.txt` に書き込まれたスナップショットは必要ないと思います。同じコマンドを次のように入力します。

```
omreport chassis fans index=0 -outc fans.txt
```

または

```
omreport chassis fans index=0 -outc fans.txt
```

午後 3:00 時のデータによって午前 11:00 時のデータが上書きされます。fans.txt ファイルのデータ

Fans.txt の内容が今度は以下ようになります。

```
Index          : 0
Status         : OK
Probe Name     : System Board Fan 1 RPM
Reading        : 3001RPM
Minimum Warning Threshold : 700RPM
Maximum Warning Threshold : 5500RPM
Minimum Failure Threshold : 500RPM
Maximum Failure Threshold : 6000RPM
```

前のコマンド結果を参照して、前のファンブロープ 0 の出力を現在の出力と比較することはできません。-outc オプションを使って fans.txt ファイルを上書きしたからです。

既存のファイルへのコマンド結果の追加

-outa オプションは、以前に書き込まれたファイルに保存されているデータに新しいコマンド結果を追加する場合に使用します。例えば、午前 11:00 時にシステム上のファンブロープ 0 のファンブロープ RPM 読み取り値をキャプチャして fans.txt というファイルに結果を書き込みます。この結果を 4 時間後に得た同じブロープの出力と比較する場合、-outa コマンドを使って新しい出力を fans.txt に追加できます。

次のように入力します。

```
omreport chassis fans index=0 -outa fans.txt
または
omreport mainsystem fans index=0 -outa fans.txt
```

Fans.txt の内容が今度は以下ようになります。


```
Index          : 0
Status         : OK
Probe Name     : System Board Fan 1 RPM
Reading        : 2380RPM
Minimum Warning Threshold : 600RPM
Maximum Warning Threshold : 5700RPM
Minimum Failure Threshold : 500RPM
Maximum Failure Threshold : 6000RPM
```

```
Index          : 0
Status         : OK
Probe Name     : System Board Fan 1 RPM
Reading        : 3001RPM
Minimum Warning Threshold : 700RPM
Maximum Warning Threshold : 5500RPM
Minimum Failure Threshold : 500RPM
Maximum Failure Threshold : 6000RPM
```

テキストエディタを使用すると、各データブロックがキャプチャされた時間を挿入できます。ファンブロープ 0 の 2 つのスナップショットを比較すると、2 回目の報告で数か所に変更があります。ファン RPM の読み取り値は 621 RPM 増加しましたが、まだ標準範囲内にあります。最小警告しきい値が 200 RPM に上げられ、最大警告しきい値が 2000 RPM に下げられました。

CLI コマンド出力のフォーマットの選択

CLI コマンド結果のフォーマットを指定できます。フォーマットはコマンド出力の表示形式を決定します。コマンド結果がファイルに転送されると、コマンド結果の書き込み先ファイルによってフォーマットがキャプチャされます。

 **メモ:** omconfig コマンドは、ほとんどの出力形式オプションを無視して、標準テキストのメッセージを返します。しかし、XML フォーマットで表示を選択すると、omconfig コマンドは XML コードを返します。

以下のようなフォーマットを使用できます。

- 1 リスト (lst)
- 1 セミコロン区切りの値 (ssv)
- 1 テーブル (tbl)
- 1 生の XML (xml)

1 カスタム区切りの形式 (cdv)

フォーマットオプションの構文は次のようになります。

```
<コマンド> -fmt <フォーマットオプション>
```

たとえば、次のように入力します。

```
omreport system summary -fmt tbl
または
omreport servermodule summary -fmt tbl
```

-fmt tbl はテーブル形式を指定します。

フォーマットオプションを、出力をファイルに転送するオプションと組み合わせることができます。たとえば、次のように入力します。

```
omreport system summary -fmt tbl -outa summary.txt
または
omreport servermodule summary -fmt tbl -outa summary.txt
```

-fmt tbl はテーブル形式を指定し、**-outa** はコマンド結果を **summary.txt** という名前ファイルに追加することを指定します。

リスト (lst)

デフォルトのフォーマットは **lst** (リスト形式) です。出力の読みやすさを最適化する場合に、この形式を使います。 **lst** 以外のフォーマットが必要であれば、コマンド出力のフォーマットを指定する必要があります。

次のコマンド出力例を **lst** 形式で表示するには、次のように入力します。

```
omreport system summary
または
omreport servermodule summary
```

リスト形式はデフォルトの表示形式なので、特別なフォーマットオプションは不要です。例のシステム概要例のネットワークデータの一部は、以下のように表示されます。

```
-----
Network Data
-----

Network Interface Card 0 Data
IP Address : 143.166.152.108
Subnet Mask : 255.255.255.0
Default Gateway : 143.166.152.1
MAC Address : 00-02-b3-23-d2-ca
```

テーブル (tbl)

tbl (テーブル) フォーマットオプションを使うと、データがテーブルの行と列でフォーマットされます。次のコマンド出力例をテーブル形式で表示するには、次のように入力します。

```
omreport system summary -fmt tbl
または
omreport servermodule summary -fmt tbl
```

出力例は以下のように表示されます。

```
-----
Network Interface Card 0 Data
-----

| ATTRIBUTE | VALUE
| IP Address | 143.166.152.108
| Subnet Mask | 255.255.255.0
| Default Gateway | 143.166.152.1
| MAC Address | 00-02-b3-23-d2-ca
```

セミコロン区切りの値 (ssv)

ssv フォーマットオプションを使うと、出力がセミコロンで区切った値の形式にフォーマットされます。この形式は、コマンド出力結果を Microsoft Excel などの表計算プログラムやデータベースプログラムにインポートすることもできます。次のコマンド出力例をセミコロンで区切った値の形式で表示するには、次のように入力します。

```
omreport system summary -fmt ssv
または
omreport servermodule summary -fmt ssv
```

出力例は以下のように表示されます。

```
-----
```

Network Data

```
Network Interface Card 0 Data
IP Address : 143.166.152.108
Subnet Mask : 255.255.255.0
Default Gateway : 143.166.152.1
MAC Address : 00-02-b3-23-d2-ca
```

生の XML(xml)

xml フォーマットオプションを使うと、システム管理アプリケーションでの使用や、xml を使う他のアプリケーションへの入力に適した出力が生成されます。次のコマンド出力例を raw xml 形式で表示するには、次のように入力します。

```
omreport system summary -fmt xml
または
omreport servermodule summary -fmt xml
```

出力例は以下のように表示されます。

```
<NICStatus>1</NICStatus><IPAddress>143.166.152.108</IPAddress><SubnetMask>255.255.255.0</SubnetMask><DefaultGateway>143.166.152.1</DefaultG
-02-b3-23-d2-ca</MACAddr>
```

カスタム区切りの形式(cdv)

cdv フォーマットオプションを使うと、エクスポートされたデータがカスタム区切りの形式でレポートされます。このオプションは他の **omreport** コマンドと一緒に指定できます。たとえば、カスタム区切り形式でシステム概要を生成するには、次のように入力します。

```
omreport system summary -fmt cdv
または
omreport servermodule summary -fmt cdv
```

omconfig コマンドを使うと、カスタム区切り形式のプリファランスを設定できます。デリミタのための有効値は以下の通りです。: 感嘆符、セミコロン、アット、細切れ肉料理、ドル、パーセント、脱字記号、アスタリスク、ティルド、質問、コロソ、コンマ、およびパイプ

アスタリスクを使ってデータフィールドを分けるデリミタの設定の例は以下のとおりです。

```
omconfig preferences cdvformat delimiter=asterisk
```

[目次ページに戻る](#)

[目次ページに戻る](#)

Storage Management Service (ストレージ管理サービス) の使用

Dell™ OpenManage™ Server Administrator バージョン 6.0.1 コマンドラインインタフェース ユーザーズガイド

- [CLI のコマンド構文](#)
 - [必須、オプション、変数のコマンド 要素の 構文](#)
 - [omreport storage と omconfig storage のユー ザー特権](#)
 - [omreport コマンド](#)
 - [omreport ストレージヘルプ](#)
 - [omconfig グローバルのコマンド](#)
- [omconfig コントローラの コマンド](#)
 - [omconfig 仮想ディスク のコマンド](#)
 - [omconfig 物理ディスク のコマンド](#)
 - [omconfig バッテリーの コマンド](#)
 - [omconfig コネクタコマン ド](#)
 - [omconfig エンクロージャ のコマンド](#)

Storage Management の CLI では、オペレーティングシステムのコマンドシェルからの Storage Management の報告、設定および管理機能すべての実行も可能です。また、Storage Management CLI を使用すると、コマンド シーケンスのスクリプトを作成することもできます。

Storage Management CLI は、Dell OpenManage™ Server Administrator の **omreport** コマンドと **omconfig** コマンドのオプションを拡張するものです。本章では、Storage Management に適用する **omreport** と **omconfig** コマンドについてのみ述べられています。詳細については、「Dell OpenManage インストールとセキュリティユーザーズガイド」を参照してください。Storage Management の詳細に関しては、Storage Management オンラインヘルプおよび「Dell OpenManage Server Administrator Storage Management ユーザーズガイド」を参照してください。

CLI のコマンド構文

すべての Server Administrator コマンドと同様、**omreport** および **omconfig** のコマンド構文は、コマンド「レベル」を指定することで成り立ちます。最初のコマンドレベルは、**omreport** または **omconfig** のコマンド名です。次のコマンドレベルでは、コマンドの対象となるオブジェクトの種類や、コマンドで表示される情報をより細かく特定します。

たとえば、次の **omconfig** コマンド構文には 3 つのレベルがあります。

```
omconfig storage pdisk
```

[表 6-1](#) では、これらのコマンドレベルについて説明します。

表 6-1 コマンドレベルの例

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	用途
omconfig			コマンドを指定します。
	ストレージ		コマンドを実装する Server Administrator のサービス（この場合は Storage Management）を示します。
		pdisk	コマンドの対象となるオブジェクトの種類を指定します。

omreport と **omconfig** のコマンド構文では、コマンドレベルに続いて、「名前=値」のペアが 1 つまたは複数必要になることがあります。「名前=値」のペアは、オブジェクト自体（特定の物理ディスクなど）またはコマンドが実装するオプション（「blink」または「unblink」）を指定します。

たとえば、物理ディスクを点滅させる次の **omconfig** コマンド構文には、3 つのレベルと 3 つの「名前=値」のペアがあります。

```
omconfig storage pdisk action=blink controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

ここで、PDISKID=<connector:enclosureID:portID | connector:targetID>

この例では、controller=id の id はコントローラ番号のことで、たとえばコントローラ 1 は controller=1 と指定されます。

必須、オプション、変数のコマンド 要素の構文

omreport および **omconfig** コマンドには、複数の「名前=値」のペアがあります。これらの「名前=値」ペアには、必須、オプション、および変数のパラメータが含まれる場合があります。[表 6-2](#) では、これらのパラメータを指示する構文を説明しています。

表 6-2 パラメータの「名前=値」ペアの構文

構文	説明
controller=id	omreport storage controller コマンドによって報告されるコントローラ ID を示します。これらの値を得るには、 omreport storage controller と入力してコン

	<p>トローラ ID を表示してから、<code>omreport storage pdisk controller=id</code> と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。</p> <p>たとえば、<code>controller=id</code> パラメータは <code>controller=1</code> と指定します。</p>
<code>connector=id</code>	<p><code>omreport</code> コマンドによって報告されるコネクタ ID を示します。これらの値を得るには、<code>omreport storage controller</code> と入力してコントローラ ID を表示してから、<code>omreport storage connector controller=id</code> と入力し、コントローラに接続されているコネクタの ID を表示します。</p> <p>たとえば、<code>connector=id</code> パラメータは <code>connector=2</code> と指定します。</p>
<code>vdisk=id</code>	<p><code>omreport</code> コマンドによって報告される仮想ディスク ID を示します。これらの値を得るには、<code>omreport storage controller</code> と入力してコントローラ ID を表示してから、<code>omreport storage vdisk controller=id</code> と入力し、コントローラ上の仮想ディスクの ID を表示します。</p> <p>たとえば、<code>vdisk=id</code> パラメータは <code>vdisk=3</code> と指定します。</p>
<code>enclosure=<エンクロージャ ID></code>	<p><code>enclosure=connector</code> または <code>enclosure=connector:enclosureID</code> のどちらかを指定することで、特定のエンクロージャを示します。</p> <p>これらの値を得るには、<code>omreport storage controller</code> と入力してコントローラ ID を表示してから、<code>omreport storage enclosure controller=id</code> と入力し、コントローラに接続しているエンクロージャの ID を表示します。</p>
<code>pdisk=<物理ディスク ID></code>	<p><code>connector:targetID</code> または <code>connector:enclosureID:portID</code> のどちらかを指定することで、特定の物理ディスクを示します。</p> <p>コネクタ、エンクロージャ、および物理ディスクの値（ターゲット ID またはポート ID）を得るには、<code>omreport storage controller</code> を入力してコントローラ ID を表示し、次に <code>omreport storage pdisk controller=id</code> を入力して、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。</p>
<code>battery=id</code>	<p><code>omreport</code> コマンドによって報告されるバッテリー ID を示します。この値を得るには、<code>omreport storage controller</code> と入力してコントローラ ID を表示してから、<code>omreport storage battery controller=id</code> と入力しコントローラのバッテリーの ID を表示します。</p>
<code>< ></code>	<p>キャレット記号（<code>< ></code>）は、指定すべき変数要素を囲みます。</p> <p>たとえば、<code>name=<文字列></code> パラメータは <code>name=VirtualDisk1</code> のように指定します。</p>
<code>[]</code>	<p>ブラケット記号（<code>[]</code>）は指定するかしないかを選択できるオプションの要素を示します。</p> <p>たとえば、仮想ディスクを作成する場合、<code>[name=<文字列>]</code> パラメータは仮想ディスク名を指定するかどうかを選択できるという意味です。このパラメータを構文から省略すると、仮想ディスクのデフォルト名が選択されます。</p>
<code> </code>	<p>パイプ記号（<code> </code>）は、複数のオプションから 1 つだけを選択する必要がある場合に、オプションを区切ります。</p> <p>たとえば、仮想ディスクを作成する場合、<code>cachepolicy=d c</code> はキャッシュポリシーを <code>cachepolicy=d</code> か <code>cachepolicy=c</code> のどちらかに指定しなければならないという意味です。</p>

omreport storage と omconfig storage のユーザー特権

Storage Management で `omconfig storage` コマンドを使用するには、システム管理者権限が必要です。`omreport storage` コマンドを使用するには、ユーザー権限とパワーユーザー権限で十分です。

omreport コマンド

以下の項では、各種ストレージコンポーネントを表示するために必要な `omreport` コマンド構文について説明します。

omreport ストレージヘルプ

表 6-3 では、`omreport storage` コマンド構文を提供しています。

表 6-3 omreport ストレージヘルプ

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	用途
<code>omreport</code>			
	ストレージ		<code>omreport</code> コマンドを使用できるストレージコンポーネントのリストを表示します。
		<code>pdisk</code>	<code>omreport storage pdisk</code> パラメータのリストを表示し、物理ディスク情報を表示します。
		<code>vdisk</code>	<code>omreport storage vdisk</code> パラメータのリストを表示し、仮想ディスク情報を表示します。
		<code>controller</code>	<code>omreport storage controller</code> パラメータのリストを表示し、コントローラ情報を表示します。
		<code>enclosure</code>	<code>omreport storage enclosure</code> パラメータのリストを表示し、エンクロージャ情報を表示します。
		<code>connector</code>	<code>omreport storage connector</code> パラメータのリストを表示し、コネクタ情報を表示します。
		<code>battery</code>	<code>omreport storage battery</code> パラメータのリストを表示し、バッテリー情報を表示します。
		<code>globalinfo</code>	<code>omreport storage globalinfo</code> パラメータのリストを表示し、グローバルストレージ情報を表示します。

omreport コントローラ状態

表 6-4 では、omreport Controller コマンドの構文について説明します。

表 6-4 omreport コントローラのコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプション「名前=値」のペア	用途
omreport ストレージコントローラ		システムに接続されたすべてのコントローラのプロパティ情報を表示します。
	controller=id id はコントローラ番号です。例: controller=0	指定したコントローラと、それに接続しているエンクロージャ、仮想ディスク、物理ディスクなどのコンポーネントすべてを表示します。

omreport グローバル情報 (Smart サーマルシャットダウン状態)

表 6-5 では、omreport Controller コマンドの構文について説明します。

表 6-5 omreport グローバル情報のコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプション「名前=値」のペア	用途
omreport storage globalinfo		Smart サーマルシャットダウンが有効か無効かを表示します。詳細については、「 omconfig グローバル Smart サーマルシャットダウンを有効にする 」コマンドを参照してください。

omreport バッテリー状態

表 6-6 では、omreport Battery コマンドの構文について説明します。

表 6-6 omreport バッテリーのコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプション「名前=値」のペア	用途
omreport ストレージバッテリー		システム上のすべてのコントローラに存在するあらゆるバッテリーを表示します (一部のコントローラにはバッテリーがありません)。
	controller=id id はコントローラ番号です。例: controller=0	指定したコントローラのバッテリーを表示します。

omreport コネクタ状態

表 6-7 では、omreport Connector コマンドの構文について説明します。

表 6-7 omreport コネクタコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプション「名前=値」のペア	用途
omreport ストレージコネクタ		システム上のすべてのコントローラに存在するあらゆるコネクタを表示します。 メモ: このコマンドはコントローラ ID が指定されている場合のみ有効です。
	controller=id id はコントローラ番号です。例: controller=0	指定したコントローラのコネクタを表示します。
	controller=id id はコントローラ番号です。例: controller=0	コントローラ上の指定したコネクタの情報を表示します。

	connector=id id はコネクタ番号です。例: connector=0	メモ: 冗長バスモードでコネクタをエンクロージャに接続すると、コネクタの 名前 が 論理コネクタ として表示されます。
--	---	--

omreport エンクロージャ状態

表 6-8 では、omreport Enclosure コマンドの構文について説明します。

表 6-8 omreport エンクロージャのコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプション「名前=値」のペア	用途
omreport ストレージ エンクロージャ		システムに接続されたすべてのエンクロージャのプロパティ情報を表示します。
	controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> id はコントローラ番号で、<エンクロージャ ID> はエンクロージャ番号です。SCSI コントローラの例: controller=0 enclosure=2.SAS コントローラの例: controller=0 enclosure=1;2.	指定したエンクロージャとそのコンポーネントを表示します。

omreport 温度プローブ状態

表 6-9 では、omreport Probe コマンドの構文について説明します。

表 6-9 omreport 温度プローブのコマンド

必須なコマンドレベル (1、2、3) および「名前=値」のペア	オプション「名前=値」のペア	用途
omreport ストレージ エンクロージャ		システムに接続されたすべてのエンクロージャのプロパティ情報を表示します。
	controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> info=temps id はコントローラ番号で、<エンクロージャ ID> はエンクロージャ番号です。SCSI コントローラの例: controller=0 enclosure=2 info=temps.SAS コントローラの例: controller=0 enclosure=1;2 info=temps.	指定したエンクロージャの温度プローブを表示します。
	controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> info=temps index=n id はコントローラ番号、<エンクロージャ ID> はエンクロージャ番号で、「n」は温度プローブの番号です。例: controller=0 enclosure=2 info=temps index=1	指定したエンクロージャの温度プローブを表示します。

omreport ファン状態

表 6-10 では、omreport Fan コマンドの構文について説明します。

表 6-10 omreport ファン状態

必要なコマンドレベル (1、2、3) と名前=値」のペア	オプション「名前=値」のペア	用途
omreport ストレージ エンクロージャ		システムに接続されたすべてのエンクロージャのプロパティ情報を表示します。
	controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> info=fans id はコントローラ番号、エンクロージャ ID はエンクロージャ番号です。 例: controller=0 enclosure=2 メモ: SCSI コントローラでは enclosure=<エンクロージャ ID> で指定された ID がコネクタ番号で、Serial Attached SCSI (SAS) コントローラでは ID は connectorNumber:EnclosureIndex です。	指定したエンクロージャのファンを表示します。
	controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> info=fans index=n id はコントローラ番号、エンクロージャ ID はエンクロージャ番号で、「n」は温度プローブの番号です。	指定したファンを表示します。

例: controller=0 enclosure=2 info=temps index=1

omreport 電源装置状態

表 6-11 では、omreport 電源装置コマンドの構文について説明します。

表 6-11 omreport 電源装置コマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3) と名前=値 のペア	オプション「名前=値」のペア	用途
omreport ストレージ エンクロージャ		システムに接続されたすべてのエンクロージャのプロパティ情報を表示します。
	controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> info=pwrsupplies id はコントローラ番号で、エンクロージャ ID はエンクロージャ番号です。 例: controller=0 enclosure=2	指定したエンクロージャの電源装置を表示します。
	controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> info=pwrsupplies index=n id はコントローラ番号、エンクロージャ ID はエンクロージャ番号で、「n」は電源装置の番号です。 例: controller=0 enclosure=2 info=pwrsupplies index=1	指定した電源装置を表示します。

omreport EMM 状態


 **メモ:** EMM ファームウェア間に不一致があると、EMM のステータスは低下として表示されます。

表 6-12 では、omreport EMM コマンドの構文について説明します。

表 6-12 omreport EMM のコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3) と名前=値 のペア	オプション「名前=値」のペア	用途
omreport ストレージ エンクロージャ		システムに接続されたすべてのエンクロージャのプロパティ情報を表示します。
	controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> info=emms id はコントローラ番号で、エンクロージャ ID はエンクロージャ番号です。 例: controller=0 enclosure=2	指定したエンクロージャのエンクロージャ管理モジュール (EMM) を表示します。
	controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> info=emms index=n id はコントローラ番号、エンクロージャ ID はエンクロージャ番号で、「n」は EMM の番号です。 例: controller=0 enclosure=2 info=emms index=1	指定した EMM を表示します。

omreport 物理ディスク状態

表 6-13 では、omreport 物理ディスクの構文について説明します。

表 6-13 omreport 物理ディスクのコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3) と名前=値 のペア	オプション「名前=値」のペア	用途
omreport storage pdisk	controller=id id はコントローラ番号です。例: controller=0	指定したコントローラに接続している物理ディスクをすべて表示します。 メモ: メンバー交換操作の一環として 1 台の物理ディスクが別の物理ディスクで交換された場合、その物理ディスクの状態は交換中として表示されます。

	connector=id id はコネクタ番号です。例: connector=1	コントローラ上の指定したコネクタに接続している物理ディスクをすべて表示します。
	vdisk=id id は仮想ディスク番号です。次に、例を示します。 vdisk=1	コントローラ上の指定した仮想ディスクに含まれている物理ディスクをすべて表示します。
	pdisk=connectorID : targetID connectorID : enclosureID : slotID ただし、connectorID:targetID はコネクタ番号と物理ディスク番号で、connectorID:enclosureID:slotID はコネクタ番号、エンクロージャ番号、およびスロット番号です。 例: pdisk=0:2 or pdisk=0:1:2	コントローラ上の指定したコネクタの指定した物理ディスクを表示します。

omreport 仮想ディスク状態

表 6-14 では、omreport 仮想ディスクコマンドの構文について説明します。

表 6-14 omreport 仮想ディスクのコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプション「名前=値」のペア	用途
omreport storage vdisk		コントローラ上のすべての仮想ディスクのプロパティ情報を表示します。
	controller=id id はコントローラ番号です。例: controller=0	指定したコントローラ上のすべての仮想ディスクを表示します。
	controller=id vdisk=id id はコントローラ番号と仮想ディスク番号です。例: controller=0 vdisk=1.	コントローラ上の指定した仮想ディスクを表示します。

omconfig グローバルのコマンド

以下の項では、グローバルコマンドを実行するために必要な omconfig コマンド構文について説明します。実行すると、これらのコマンドはすべてのコントローラに適用されます。また、これらのグローバルコマンドは、Storage ツリービューオブジェクトの [情報](#) / [設定](#) サブタブ に表示されるグローバルタスクにも対応しています。

表 6-15 omconfig グローバルのコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプション「名前=値」のペア
omconfig storage globalinfo	
	action=enablests
	action=disablests
	action=globalrescan

omconfig グローバル Smart サーマルシャットダウンを有効にする

デフォルトでは、PV220S および PV221S エンクロージャが臨界温度の摂氏 0 または 50°に達すると、オペレーティングシステムとサーバーがシャットダウンします。ただし、PV220S および PV221S エンクロージャにコネクタの冗長性を実装している場合は、エンクロージャが臨界温度の摂氏 0 または 50°に達したときにエンクロージャだけをシャットダウンし、オペレーティングシステムとサーバーはシャットダウンしないように指定できます。温度が高すぎる間エンクロージャだけをシャットダウンするように指定する操作を「スマート サーマルシャットダウン」と呼びます。Smart サーマルシャットダウンの詳細については、Dell OpenManage オンラインヘルプを参照してください。

Smart サーマルシャットダウンを有効にするには、次の omconfig コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage globalinfo action=enablests
```

構文例

サーマルシャットダウンを有効にするため、omconfig コマンド構文では、コントローラやエンクロージャの ID を指定する必要はありません。サーマルシャットダウンを有効にするには、次のように入力します。

```
omconfig storage globalinfo action=enablests
```

メモ: `omreport storage globalinfo` コマンドを使用すると、現在 Smart サーマルシャットダウンが有効か無効かを確認できます。Smart サーマルシャットダウンの状態は、Server Administrator のグラフィカルユーザーインターフェイス (GUI) にも表示されます。この状態を見つけるには、Storage オブジェクトと **情報 / 設定** タブ選択します。

omconfig グローバル Smart サーマルシャットダウンを無効にする

`omconfig` コマンドを使って Smart サーマルシャットダウンを有効にしている場合、Smart サーマルシャットダウンを無効にしてシステムをデフォルト設定に戻すことができます。Smart サーマルシャットダウンを無効にすると、PV220S および PV221S エンクロージャが臨界温度の摂氏 0 または 50° に達したときにオペレーティングシステムとサーバーがシャットダウンします。

Smart サーマルシャットダウンを無効にするには、次の `omconfig` コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage globalinfo action=disablests
```

構文例

サーマルシャットダウンを無効にする `omconfig` コマンド構文では、コントローラやエンクロージャの ID を指定する必要はありません。サーマルシャットダウンを無効にするには、次のように入力します。

```
omconfig storage globalinfo action=disablests
```

メモ: `omreport storage globalinfo` コマンドを使用すると、現在 Smart サーマルシャットダウンが有効か無効かを確認できます。Smart サーマルシャットダウンの状態は、Server Administrator の GUI 内にも表示します。この状態を見つけるには、Storage オブジェクトと **情報 / 設定** タブ選択します。

omconfig グローバルコントローラの再スキャン

次の `omconfig` コマンド構文を使用すると、システムのすべてのコントロールが再スキャンされます。グローバル再スキャンコントローラの詳細については、Dell OpenManage オンラインヘルプを参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage globalinfo action=globalrescan
```

構文例

システムのすべてのコントローラを再スキャンする `omconfig` コマンド構文では、コントローラ ID を指定する必要はありません。すべてのコントローラをグローバルに再スキャンするには、次のコマンドを入力します。

```
omconfig storage globalinfo action=globalrescan
```

メモ: グローバル再スキャンは、非 RAID SCSI および SAS コントローラではサポートされていません。非 RAID SCSI コントローラの設定変更を表示されるには、システムを再起動してください。

omconfig コントローラのコマンド

以下の項では、コントローラタスクを実行するために必要な `omconfig` コマンドについて説明します。

注意: `omconfig storage controller action=resetconfig controller=id` は、コントローラの設定をリセットします。コントローラの設定をリセットすると、コントローラに接続している仮想ディスク上のすべてのデータが完全に破壊されます。仮想ディスクに存在するシステムまたはブート可能なパーティションを破壊します。

表 6-16 `omconfig` コントローラのコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプション「名前=値」のペア
omconfig ストレージコントローラ	
	action=rescan controller=id
	action=enablealarm controller=id
	action=disablealarm controller=id
	action=quietalarm controller=id

	action=testalarm controller=id
	action=resetconfig controller=id [force=yes]
	action=createvdisk controller=id raid=<c> r0 r1 r1c r5 r6 r10 r50 r60> size=<数値 最大 最小> pdisk=<物理ディスク ID> [stripesize=<2kb 4kb 8kb 16kb 32kb 64kb 128kb>] [cachepolicy=<d c>] [diskcachepolicy=<d e>] [readpolicy=<ra nra ara rc nrc>] [writepolicy=<wb wt wc nwc fwb>] [name=<文字列>] [spanlength=<n>] メモ: ファームウェアバージョン 6.1 以降を持つ SAS コントローラ上の RAID 10 では、spanlength は任意選択パラメータです (デフォルト=2)。
	action=setrebuildrate controller=id rate=<0 ~ 100>
	action=setbgirate controller=id rate=<0 ~ 100>
	action=setreconstructrate controller=id rate=<0 ~ 100>
	action=setcheckconsistency controller=id rate=<0 ~ 100>
	action=exportlog controller=id
	action=importforeignconfig controller=id
	action=importrecoverforeignconfig controller=id
	action=clearforeignconfig controller=id
	action=setpatrolreadmode controller=id mode=manual auto disable
	action=startpatrolread controller=id
	action=stoppatrolread controller=id
omconfig storage controller (続き)	action=setchangecontrollerproperties controller=<ID> abortcheckconsistencyonerror=<有効 / 無効> allowreplacemember=<有効 / 無効> loadbalance=<自動 / 無効> autoreplacememberonpredictivefailure=<有効 / 無効> bgirate=<レート> reconstructrate=<レート> rebuildrate=<レート> checkconsistencyrate=<レート> clearredundantpath=disabled
	action=discardpinnedcache controller=id force=e d
omconfig storage vdisk	action=replacememberdisk controller=id vdisk=id source=<物理ディスク ID> destination=<物理ディスク ID>

omconfig コントローラの再スキャン

コントローラを再スキャンするには、次の omconfig コマンド構文を使用します。コントローラの再スキャンの詳細については、Dell OpenManage オンラインヘルプを参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=rescan controller=id
```

id は、omreport storage controller コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 を再スキャンするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=rescan controller=1
```

メモ: 再スキャンコントローラは、非 RAID SCSI および SAS コントローラではサポートされていません。非 RAID SCSI コントローラの設定変更を表示するには、システムを再起動してください。

omconfig コントローラ警告を有効にする

コントローラ警告を有効にするには、次の omconfig コマンド構文を使用します。コントローラ警告を有効にする情報については、Dell OpenManage オンラインヘルプを参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=enablealarm controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 の警告を有効にするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=enablealarm controller=1
```

omconfig コントローラ警告を無効にする

コントローラ警告を無効にするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。コントローラ警告を無効にする情報については、Dell OpenManage オンラインヘルプを参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=disablealarm controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 の警告を有効にするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=disablealarm controller=1
```

omconfig コントローラ警告の静止

アクティブなコントローラ警告を静止にするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。コントローラ警告を停止する情報については、Dell OpenManage オンラインヘルプを参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=quietalarm controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 の警告を静止にするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=quietalarm controller=1
```

omconfig コントローラ警告のテスト

コントローラ警告の機能性をテストするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。アラームが約 2 秒間鳴ります。コントローラ警告をテストする情報については、Dell OpenManage オンラインヘルプを参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=testalarm controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 の警告をテストするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=testalarm controller=1
```

omconfig コントローラ設定のリセット

コントローラの設定をリセットするには、次の omconfig コマンド構文を使用します。

△ 注意: 設定をリセットすると、コントローラに接続している仮想ディスク上のすべてのデータが完全に破壊されます。仮想ディスクに存在するシステムまたはブート可能なパーティションを破壊します。このコマンドによってシステムまたはブートパーティションが削除される場合は、警告メッセージが表示されることがあります。ただし、この警告メッセージはあらゆる状況で生成されるわけではありません。このコマンドを使用して、システム、ブートパーティションまたは他の重要なデータを削除されないことを確認します。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=resetconfig controller=id
```

id は、omreport storage controller コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

このコマンドによってシステムまたはブートパーティションが削除される場合は、警告メッセージが表示される場合があります。force=yes パラメータを使うと、この警告をオーバーライドできます。この場合、構文は次のようになります。

```
omconfig storage controller action=resetconfig controller=id force=yes
```

構文例

コントローラ 1 の設定をリセットするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=resetconfig controller=1
```

omconfig 仮想ディスクの作成

Dell OpenManage オンラインヘルプ には、仮想ディスクの作成の詳細が含まれています。

仮想ディスクを作成するための omconfig 構文には複数のパラメータがあります。次のパラメータを指定する必要があります。

- 1 コントローラ (controller=id)
- 1 RAID level (raid=<c> r0| r1| r1c| r5|r6| r10| r50|r60>)
- 1 Size (size=<数値 | 最大 | 最小>)
- 1 物理ディスクは次のどちらかの方法で指定されます。

SCSI、SATA、および ATA コントローラは、

```
pdisk=connector:エンクロージャ ID:ポート ID
```

ここで、connector:enclosureID:portID は コネクタ番号、エンクロージャ番号およびポート番号です。
例、pdisk=0:1:2

SAS コントローラについて、

```
pdisk=connector:ターゲット ID
```

ここで、connectorID:targetID は コネクタ番号と物理ディスクの番号です。たとえば、pdisk=0:2

その他のパラメータについては、指定しなければ Storage Management によってデフォルト値が設定されます。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=createvdisk controller=id raid=<c> r0| r1| r1c| r5| r6| r10| r50 |r60> size=<éiil | 最大 | 最小>  
pdisk=<物理ディスク ID> [stripesize=< 2kb| 4kb| 8kb| 16kb| 32kb| 64kb| 128kb>] [cachepolicy=<d | c>] [diskcachepolicy=<d | e>]  
[readpolicy=<ra | nra | ara | rc| nrc>] [writepolicy=<wb| wt| wc| nwc | fwb>] [name=<i'è660>] [spanlength=<n>]
```

メモ: ファームウェアバージョン 6.1 以降を持つ SAS コントローラ用の RAID 10 を構成する場合、spanlength は任意選択パラメータです (デフォルト=2)。spanlength は、サイズで指定した物理ディスク数の半分以下の偶数で指定します。

仮想ディスクの作成と再設定のためのパラメータ指定

以下の項では、omconfig storage controller action=createvdisk パラメータを指定する方法について説明します。

controller=id パラメータ (必須)

raid=<c| r0| r1| r1c| r5| r6| r10| r50| r60> パラメータ (必須)

size=<数値 | 最大 | 最小> パラメータ (必須)

pdisk=<connector:targetID,connector:targetID,...> パラメータ (必須)

[stripesize=< 2kb| 4kb| 8kb| 16kb| 32kb| 64kb| 128kb>] パラメータ (オプション)

[cachepolicy=<d | c>] パラメータ (オプション)

[readpolicy=<ra| nra| ara| rc| nrc>] パラメータ (オプション)

[writepolicy=<wb| wt| wc| nwc | fw>] パラメータ (オプション)

[name=<文字列>] パラメータ (オプション)

[spanlength=<n>] パラメータ (オプション)

controller=id パラメータ (必須)

omreport storage controller コマンドによって報告されるコントローラ ID を指定します。例:

```
controller=2
```

raid=<c| r0| r1| r1c| r5| r6| r10| r50| r60> パラメータ (必須)

仮想ディスクの RAID レベルまたは連結を指定するには、raid=<c| r0| r1| r1c| r5| r6 | r10| r50| r60> パラメータを使用します。サポートされるRAID レベルはコントローラによって異なります。コントローラがサポートしている RAID レベルと、RAID レベルおよび連結の一般的な情報については、Dell OpenManage オンラインヘルプを参照してください。表 6-17 以下の表に、各 RAID レベルおよび連結についての raid=n パラメータの指定方法を示します。

表 6-17 RAID レベルと連結

RAID レベルまたは連結	raid=n パラメータの指定
RAID-0	raid=r0
RAID-1	raid=r1
RAID-5	raid=r5
RAID-6	raid=r6
RAID-10	raid=r10
RAID-50	raid=r50
RAID-60	raid=r60
RAID-1-連結した	raid=r1c
連結	raid=c

size=<数値 | 最大 | 最小> パラメータ (必須)

表 6-18 では、size=<数値 | 最大 | 最小> パラメータを指定する方法については説明します。

表 6-18 Size パラメータ

size=<数値 最大 最小> パラメータ仕様	説明
size=<n>	仮想ディスクの特定なサイズを指示するには、この仕様を使用します。仮想ディスクサイズは b (バイト)、m (メガバイト)、または g (ギガバイト) で指定します。たとえば、size=500m は、仮想ディスクが 500MB という意味です。
size=max	可能な最大サイズの仮想ディスクを作成するには、size=max と指定します。RAID 50 の仮想ディスクを作成する場合、このパラメータは size=max と指定する必要があります。
size=min	可能な最小サイズの仮想ディスクを作成するには、size=min と指定します。

PDISKID=<connector:enclosureID:portID | connector:targetID>

仮想ディスクに含める物理ディスクを指定するには、このパラメータを使用します。

仮想ディスクを再構成する場合は、再構成後の仮想ディスクに含める物理ディスクすべてを指定する必要があります。物理ディスクの指定は、元の仮想ディスクからそのまま再構成後の仮想ディスクに残る物理ディスクと、再構成後の仮想ディスクに新しく追加された新しい物理ディスクに適用されます。コントローラによっては、仮想ディスクから物理ディスクを削除できます。この場合、削除する物理ディスクは指定しません。

`pdisk=<物理ディスク ID>` パラメーターは、`connector:enclosureID:portID` または `connector:targetID` のどちらかで指定される物理ディスクを指します。

`stripesize=< 2kb| 4kb| 8kb| 16kb| 32kb| 64kb| 128kb>` パラメーター (オプション)

サポートされるストライプサイズはコントローラによって異なります。コントローラでサポートされるストライプサイズの詳細については、Dell OpenManage オンラインヘルプ を参照してください。ストライプサイズはすべてキロバイトで指定します。たとえば、ストライプサイズに 128KB を指定する場合は、次のように入力します。

`stripesize=128kb`

[`cachepolicy=<d | c>`] パラメーター (オプション)

サポートされるキャッシュポリシーはコントローラによって異なります。表 6-19 では、各キャッシュ ポリシーの [`cachepolicy=d | c`] パラメーターの指定方法を示します。

表 6-19 キャッシュポリシーのパラメーター

キャッシュポリシー	<code>cachepolicy=d c</code> パラメーター指定
ダイレクト I/O	<code>cachepolicy=d</code>
キャッシュ I/O	<code>cachepolicy=c</code>

[`diskcachepolicy=<d|e>`] パラメーター (任意選択)

サポートされるキャッシュポリシーはコントローラによって異なります。以下の表に、各キャッシュポリシーの [`diskcachepolicy=<d | e>`] パラメーターの指定方法を示します。

表 6-20 読み取りポリシーのパラメーター

ディスクキャッシュポリシー	<code>diskcachepolicy=d e</code> パラメーターの指定
無効	<code>diskcachepolicy=d</code>
有効	<code>diskcachepolicy=e</code>

[`readpolicy=<ra| nra| ara| rc| nrc>`] パラメーター (オプション)

サポートされる読み取りポリシーはコントローラによって異なります。表 6-21 では、各読み取りポリシーの [`readpolicy=ra| nra| ara| rc| nrc`] パラメーターの指定方法を示します。

表 6-21 読み取りポリシーのパラメーター

読み取りポリシー	<code>readpolicy=ra ara nra rc nrc</code> パラメーター指定
先読み	<code>readpolicy=ra</code>
適応先読み	<code>readpolicy=ara</code>
先読みなし	<code>readpolicy=nra</code>
読み取りキャッシュ	<code>readpolicy=rc</code>
読み取りキャッシュなし	<code>readpolicy=nrc</code>

[`wriepolicy=<wb| wt| wc| nwc>`] パラメーター (オプション)

サポートされる書き込みポリシーはコントローラによって異なります。表 6-21 では、各書き込みポリシーの [`wriepolicy=<wb| wt| wc| nwc | fwb>`] パラメーターの指定方法を示します。

表 6-21 書き込み ポリシーのパラメーター


書き込みポリシー	<code>wriepolicy=wb wt wc fwb nwc</code> パラメーター指定
ライトバックのキャッシュ	<code>wriepolicy=wb</code>
ライトスルーキャッシュ	<code>wriepolicy=wt</code>
書き込みキャッシュ	<code>wriepolicy=wc</code>

ライトバックの強制	writepolicy=fwb
書き込みキャッシュなし	writepolicy=nwc

[name=<文字列>] パラメータ (オプション)

仮想ディスクの名前を指定するには、このパラメータを使用します。次に、例を示します。

```
name=VirtualDisk1
```

 **メモ:** CERC SATA 1.5/2s コントローラの場合は、仮想ディスクの名前を指定できません。仮想ディスクはデフォルト名で作成されます。

[spanlength=<n>] パラメータ (RAID 50 と RAID 60 では必須、RAID 10 では任意選択)

各ストライプに含まれる物理ディスクの数を指定するには、このパラメータを使用します。このパラメータは RAID 50 の仮想ディスクのみに適用します。RAID 50 の仮想ディスクを作成していない場合は、このパラメータを指定しないでください。次に、例を示します。

```
spanlength=3
```

ファームウェアバージョン 6.1 以降を持つ SAS コントローラ上の RAID 10 では、spanlength は任意選択です。また、spanlength をそれぞれ 32 台の物理ディスクを持つ最大 8 スパンまでの偶数で指定できるようになりました。次に例を示します。

```
omconfig storage controller action=createvdisk controller=1 raid=r10 size=min pdisk=1:1:0,1:1:1,1:1:3,1:1:4,1:1:6,1:1:7,1:1:8,1:1:9 spanlength=4
```

構文例

たとえば、PERC 3/QC コントローラに RAID 5 仮想ディスクを作成したいとします。このコントローラでサポートされる読み取り、書き込み、キャッシュポリシーの詳細については、Dell OpenManage オンラインヘルプを参照してください。たとえば、次の読み取り、書き取りおよびキャッシュポリシーで仮想ディスクを作成するには、

- 1 先読み
- 1 ライトスルーキャッシング
- 1 キャッシュ I/O

仮想ディスクは 500MB で、ストライプサイズは 16KB になります。仮想ディスクの名前は **vd1** で、コントローラ 1 のコネクタ 0 に置かれます。仮想ディスクは RAID 5 なので、少なくとも 3 個の物理ディスクが必要です。この例では、4 個の物理ディスクを指定します。これらは物理ディスク 0 から 3 です。

この例で説明した仮想ディスクを作成するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=createvdisk controller=1 raid=r5 size=500m pdisk=0:0,0:1,0:2,0:3 stripesize=16kb cachepolicy=
readpolicy=ra writepolicy=wt
```

コントローラ、RAID レベル、仮想ディスクのサイズ、物理ディスクの選択のためのパラメータのみ指定する必要があります。その他の指定していないパラメータについては、Storage Management によってデフォルト値が設定されます。

omconfig コントローラ再構成率の設定

コントローラ再構成率を設定するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=setrebuildrate controller=id rate=<0 to 100>
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 で再構成率を 50 に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=setrebuildrate controller=1 rate=50
```

omconfig バックグラウンドの初期化率の設定

バックグラウンドの初期化率を設定するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=setbgirate controller=id rate=<0 to 100>
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 でバックグラウンドの初期化率を 50 に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=setbgirate controller=1 rate=50
```

omconfig 再構築率の設定

再構築率を設定するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=setreconstructrate controller=id  
rate=<0 ~ 100>
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 で再構成率を 50 に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=setreconstructrate controller=1  
rate=50
```

omconfig 整合性チェック率の設定

整合性チェック率を設定するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=setcheckconsistency controller=id  
rate=<0 ~ 100>
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 で整合性チェック率を 50 に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=setcheckconsistency controller=1  
rate=50
```

omconfig コントローラログのエクスポート

コントローラのログをテキストファイルにエクスポートするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。エクスポートされたログファイルの詳細については、Dell OpenManage オンラインヘルプを参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=exportlog controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 のログをエクスポートするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=exportlog controller=1
```

デフォルトでは、ログファイルは、Microsoft Windows システム（使用されている Windows バージョンに基づく）の場合には **C:\WINNT** または **C:\Windows** へ、またすべての Linux システムでは **/var/log** へエクスポートされます。

ログファイル名はコントローラによって異なります。ログファイルは **afa_<mmdd>.log** または **lsi_<mmdd>.log** ここで、<mmdd> は 月と曜日です。コントローラログファイルの詳細については、Dell OpenManage オンラインヘルプを参照してください。

 **メモ:** PERC 2/SC、2/DC、4/IM、CERC ATA 100/4ch、CERC SATA 1.5/2s の各コントローラでは export log file コマンドはサポートされていません。


omconfig 外部設定のインポート

次の **omconfig** コマンド構文を使用すると、コントローラに新たに接続された物理ディスク上に存在するすべての仮想ディスクをインポートできます。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=importforeignconfig controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

 **メモ:** このコマンドはファームウェアバージョン 5.0.x のみにサポートされています。

構文例

コントローラ 1 の外部設定をインポートするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=importforeignconfig controller=1
```


omconfig 外部設定のインポート/回復

次の **omconfig** コマンド構文を使用すると、コントローラに新たに接続された物理ディスク上に存在するすべての仮想ディスクをインポートおよび回復できます。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=importrecoverforeignconfig controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

 **メモ:** このコマンドはファームウェアバージョン 5.1.1.1 のみにサポートされています。

構文例

コントローラ 1 の外部設定をインポートおよび回復するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=importrecoverforeignconfig controller=1
```

omconfig 外部設定のクリア

次の **omconfig** コマンド構文を使用すると、コントローラに新たに接続された物理ディスク上に存在するすべての仮想ディスクをクリアまたは削除できます。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=clearforeignconfig controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 の外部設定をクリアするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=clearforeignconfig controller=1
```

omconfig 回読み取りモードの設定

次の **omconfig** コマンド構文を使用すると、コントローラに巡回読み取りモードを設定できます。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=setpatrolreadmode controller=id  
mode=manual|auto|disable
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 で巡回読み取りを手動モードに設定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=setpatrolreadmode controller=1  
mode=manual
```

omconfig 回読み取りの開始

次の **omconfig** コマンド構文を使用すると、コントローラで巡回読み取りタスクを開始できます。

完全な構文


```
omconfig storage controller action=startpatrolread controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 で巡回読み取りタスクを開始するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=startpatrolread controller=1
```

 **メモ:** 巡回読み取りを開始可能にするには、現在の巡回読み取りモードを手動に設定する必要があります。

omconfig 回読み取りの停止

次の **omconfig** コマンド構文を使用すると、コントローラで巡回読み取りタスクを停止できます。

完全な構文


```
omconfig storage controller action=stoppatrolread controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 で巡回読み取りタスクを停止するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=stoppatrolread controller=1
```

 **メモ:** 巡回読み取りを停止可能にするには、現在の巡回読み取りモードを手動に設定する必要があります。

omconfig コントローラプロパティの変更

次の **omconfig** コマンドを使って、以下のコントローラプロパティをすべてまたは個々に変更できます。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=setchangecontrollerproperties controller=<ID> abortcheckconsistencyonerror=<有効 / 無効> allowreplacemember=<有効 / 無効> loadbalance=<自動 / 無効> autoreplacememberonpredictivefailure=<有効 / 無効> bgirate=<レート> reconstructrate=<レート> rebuildrate=<レート> checkconsistencyrate=<レート> clearredundantpath=disabled
```

構文例

メンバー交換操作を有効にするには、以下を入力してください。

```
omconfig storage controller action=setchangecontrollerproperties allowreplacemember=enabled
```

omconfig ストレージ仮想ディスク

次の **omconfig storage** コマンド構文を使って、仮想ディスクの一部を別の物理ディスクで置き換えることができます。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=replacememberdisk controller=id vdisk=id source=<物理ディスク ID> destination=<物理ディスク ID>
```

PDISKID は次のように指定します。

```
pdisk=connector:エンクロージャ ID:ポート ID
```

構文例

物理ディスク (PD1) を別の物理ディスク (PD2) で置き換えるには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=replacememberdisk controller=0 vdisk=1 source=PD1 destination=PD2
```

omconfig ストレージコントローラ

次の **omconfig storage** コマンド構文を使って、コントローラ上のピンキャッシュを破棄できます。

完全な構文


```
omconfig storage controller action=discardpinnedcache controller=id force=enabled/disabled
```

force=enabled に設定すると、コントローラが外部またはオフラインの仮想ディスクを検出するかどうかにかかわらず、キャッシュが破棄されます。

構文例

ピンキャッシュを破棄するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=discardpinnedcache controller=id force=enabled
```

 **注意:** ピンキャッシュを破棄するとデータが失われる可能性があります。デルでは、force=disabled オプションを使ってこのコマンドを実行することを推奨しています。

omconfig 仮想ディスクのコマンド

以下の項では、仮想ディスクタスクを実行するために必要な **omconfig** コマンドについて説明します。

△ **注意:** omconfig storage vdisk action=deletevdisk controller=id vdisk=id コマンドは仮想ディスクを削除します。仮想ディスクを削除すると、仮想ディスク上のファイルシステムやボリュームをはじめ、すべての情報が破壊されます。

表 6-23 omconfig 仮想ディスク管理のコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプション「名前=値」のペア
omconfig storage vdisk	
	action=checkconsistency controller=id vdisk=id
	action=cancelcheckconsistency controller=id vdisk=id
	action=pausecheckconsistency controller=id vdisk=id
	action=resumecheckconsistency controller=id vdisk=id
	action=blink controller=id vdisk=id
	action=unblink controller=id vdisk=id
	action=initialize controller=id vdisk=id
	action=fastinit controller=id vdisk=id
	action=slowinit controller=id vdisk=id
	action=cancelinitialize controller=id vdisk=id
	action=cancelbginitialize controller=id vdisk=id
	action=restoresegments controller=id vdisk=id
	action=splitmirror controller=id vdisk=id
	action=unmirror controller=id vdisk=id
	action=assigndedicatedhotspare controller=id vdisk=id pdisk=<物理ディスク ID> assign=<yes no>
	action=deletevdisk controller=id vdisk=id [force=yes]
	action=format controller=id vdisk=id
	action=reconfigure controller=id vdisk=id raid=<c r0 r1 r1c r5 r10> size=<size> pdisk=<物理ディスク ID>
	action=changepolicy controller=id vdisk=id [readpolicy=<ra nra ara rc nrc> writepolicy=<wb wt wc nwc fwb> cachepolicy=<d c>]
	action=rename controller=id vdisk=id

omconfig 仮想ディスクの点滅

仮想ディスクに含まれる物理ディスクを点滅させるには、次の omconfig コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=blink controller=id vdisk=id
```

id は、omreport コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を得るには、omreport storage controller と入力してコントローラ ID を表示してから、omreport storage vdisk controller=ID と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

たとえば、コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の物理ディスクを点滅させるには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=blink controller=1 vdisk=4
```

omconfig 仮想ディスクの点滅解除

仮想ディスクに含まれる物理ディスクを点滅解除するには、次の omconfig コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=unblink controller=id vdisk=id
```

id は、omreport コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を得るには、omreport storage controller と入力してコントローラ ID を表示してから、omreport storage vdisk controller=ID と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

たとえば、コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の物理ディスクを点滅させるには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=unblink controller=1 vdisk=4
```

omconfig 仮想ディスクの初期化

仮想ディスクを初期化するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=initialize controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 を初期化するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=initialize controller=1 vdisk=4
```

omconfig 仮想ディスクの初期化のキャンセル

仮想ディスクの初期化をキャンセルするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=cancelinitialize controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の初期化をキャンセルするには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=cancelinitialize controller=1 vdisk=4
```

omconfig 仮想ディスクの高速初期化

仮想ディスクを高速初期化するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=fastinit controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 を高速初期化するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=fastinit controller=1 vdisk=4
```


omconfig 仮想ディスクの低速初期化

仮想ディスクを低速初期化するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=slowinit controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 を低速初期化するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=slowinit controller=1 vdisk=4
```

omconfig バックグラウンドの初期化のキャンセル

仮想ディスクのバックグラウンドの初期化処理をキャンセルするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=cancelbginitialize controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 のバックグラウンドの初期化をキャンセルするには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=cancelbginitialize controller=1 vdisk=4
```

omconfig 無効セグメントの復元

破壊された RAID 5 仮想ディスクからデータを回復するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。このタスクは、RAID5 仮想ディスクに含まれる物理ディスクの破壊された部分からデータの再構成を試みます。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=restoresegments controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 のセグメントを復元するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=restoresegments controller=1 vdisk=4
```

omconfig ミラー分割

RAID 1、RAID 1連結、または RAID 10 の仮想ディスクとして設定されていたミラーデータを分割するには、**omconfig** コマンド構文を使用します。RAID-1または RAID-1 連結ミラーを分割すると、2 台の連結非冗長仮想ディスクができあがります。RAID-10 ミラーを分割すると、2 組の RAID-0（ストライプ）非冗長仮想ディスクができあがります。この操作でデータが失われることはありません。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=splitmirror controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 のミラー分割を開始するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=splitmirror controller=1 vdisk=4
```

omconfig ミラー解除

ミラーデータを分割してミラーの半分を空き容量として復元するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。RAID-1 または RAID-10 - 仮想ディスクを非ミラーにすると、単一の非冗長連結仮想ディスクができあがります。RAID-10 仮想ディスクを非ミラーにすると、単一の非冗長 RAID-0 (ストライプ) 仮想ディスクができあがります。この操作でデータが失われることはありません。ミラー解除の詳細については、Dell OpenManage オンラインヘルプを参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=unmirror controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。


構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 をミラー解除するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=unmirror controller=1 vdisk=4
```

omconfig 専用ホットスベアの割り当て

1 つまたは複数の物理ディスクを専用ホットスベアとして仮想ディスクに割り当てするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

 **メモ:** PERC 2/SC、2/DC および CERC SATA 1.5/2s の各コントローラは専用ホットスベアをサポートしていません。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=assignededicatedhotspare controller=id vdisk=id pdisk=<物理ディスク ID> assign=yes
```

id はコントローラ ID と仮想ディスク ID です。<物理ディスク> 変数は、物理ディスクを指定します。

コントローラ、仮想ディスク、および物理ディスクの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** そして **omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクと物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 上の物理ディスク 3 を、仮想ディスク 4 の専用ホットスベアとして割り当てています。シリアルアタッチド SCSI (SAS) コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 にあります

以下は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

この例で説明された専用ホットスベアを割り当てするには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=assignededicatedhotspare controller=1 vdisk=4 pdisk=0:3 assign=yes
```

以下は SAS コントローラの例です。

この例で説明された専用ホットスベアを割り当てするには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=assignededicatedhotspare controller=1 vdisk=4 pdisk=0:2:3 assign=yes
```

omconfig 専用ホットスペアの割り当て解除

専用ホットスペアとして仮想ディスクに割り当てられている 1 つまたは複数の物理ディスクを割り当て解除するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=assignededicatedhotspare controller=id vdisk=id pdisk=<物理ディスク ID> assign=no
```

id はコントローラ ID と仮想ディスク ID です。<物理ディスク> 変数は、物理ディスクを指定します。

コントローラ、仮想ディスク、および物理ディスクの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** として **omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクと物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 上の物理ディスク 3 を、仮想ディスク 4 の専用ホットスペアとして割り当て解除しています。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

以下は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

この例で説明された専用ホットスペアの割り当てを解除するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=assignededicatedhotspare controller=1 vdisk=4 pdisk=0:3 assign=no
```

以下は SAS コントローラの例です。

この例で説明された専用ホットスペアの割り当てを解除するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=assignededicatedhotspare controller=1 vdisk=4 pdisk=0:2:3 assign=no
```

omconfig 整合性チェック

仮想ディスクの整合性確認を開始するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。整合性確認タスクは、仮想ディスクの冗長データを確認します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=checkconsistency controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の整合性確認を実行するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=checkconsistency controller=1 vdisk=4
```

omconfig 整合性チェックのキャンセル

整合性チェックの処理中にキャンセルするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=cancelcheckconsistency controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の整合性チェックをキャンセルするには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=cancelcheckconsistency controller=1 vdisk=4
```

omconfig 整合性チェックの一時停止

整合性チェックの処理中を一時停止するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。整合性チェックの一時停止の詳細については、Dell OpenManage オンラインヘルプ を参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=pausecheckconsistency controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の整合性チェックを一時停止するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=pausecheckconsistency controller=1 vdisk=4
```

omconfig 整合性チェックの再開

整合性チェックを一時停止した後で再開するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=resumecheckconsistency controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。


構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の整合性チェックを再開するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=resumecheckconsistency controller=1 vdisk=4
```

omconfig 仮想ディスクの削除

仮想ディスクを削除するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

 **注意:** 仮想ディスクを削除すると、仮想ディスク上のファイルシステムやボリュームをはじめ、すべての情報が破壊されます。システムまたはブートパーティションを削除しようとすると、警告メッセージが表示されることがあります。ただし、この警告メッセージはあらゆる状況で生成されるわけではありません。このコマンドを使用して、システム、ブートパーティションまたは他の重要なデータを削除されないことを確認します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=deletevdisk controller=id vdisk=id
```

```
wwon=deletevdisk controller=1 vdisk=4
```

omconfig 仮想ディスクのフォーマット

仮想ディスクをフォーマットするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=format controller=id vdisk=id
```

ここで、idは、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの 値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 をフォーマットするには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=format controller=1 vdisk=4
```

omconfig 仮想ディスクの再設定

仮想ディスクを再設定して、仮想ディスクの RAID レベルを変更したり、物理ディスクを追加してサイズを増やしたりできます。コントローラによっては、物理ディスクを削除することもできます。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=reconfigure controller=id vdisk=id raid=<c>| r0| r1| r1c| r5| r6| r10> size=<サイズ> pdisk=<物理ディスク>
```

構文例

仮想ディスク 4 を 800 MB のサイズに再設定するには、コントローラ 1 のコネクタ 0 にある RAID 5 と物理ディスク 0 から 3 を使用します。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

以下は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

この例では、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=reconfigure controller=1 vdisk=4 raid=r5 size=800m pdisk=0:0,0:1,0:2,0:3
```

以下は SAS コントローラの例です。

この例では、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=reconfigure controller=1 vdisk=4 raid=r5 pdisk=0:2:0,0:2:1,0:2:2,0:2:3
```

omconfig 仮想ディスクポリシーの変更

仮想ディスクの読み取り、書き込み、またはキャッシュのポリシーを変更するには、次の**omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=changepolicy controller=id vdisk=id [diskcachepolicy=<有効|無効> | readpolicy=<ra| nra| ara| rc|nrc> | writepolicy=<wb| wt| wc| nwc> | cachepolicy=<d | c>]
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

コントローラ固有のディスクキャッシュ、読み取り、書き込み、キャッシュポリシーの詳細については、Dell OpenManage オンラインヘルプ を参照してください。**omconfig** コマンドを使ってこれらのパラメータを指定する方法については、以下を参照してください。

- 1 [readpolicy=<ra| nra| ara| rc| nrc>] パラメータ (オプション)
- 1 [writepolicy=<wb| wt| wc| nwc> | fwb>] パラメータ (オプション)
- 1 [cachepolicy=<d | c>] パラメータ (オプション)
- 1 [diskcachepolicy=<有効|無効>] パラメータ (オプション)


構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の読み取りポリシーを先読みなしに変更するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=changepolicy controller=1 vdisk=4 readpolicy=nra
```

omconfig 仮想ディスクの名前の変更

仮想ディスクの名前を変更するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

 **メモ:** CERC SATA 1.5/2s コントローラでは、仮想ディスクのデフォルト名を変更できません。

完全な構文

```
action=rename controller=id vdisk=id name=<文字列>
```

ここで、id は **omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID、<文字列> は仮想ディスクの新しい名前です。これらのコントローラ ID と仮想ディスク ID の値を得るためには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の名前を vd4 と変更するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=rename controller=1 vdisk=4 name=vd4
```

omconfig 物理ディスクのコマンド

以下の項では、物理ディスクタスクを実行するために必要な **omconfig** コマンドについて説明します。

表 6-24 **omconfig** 物理ディスクのコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプション「名前=値」のペア
omconfig storage pdisk	
	action=blink controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
	action=unblink controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
	action=remove controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
	action=initialize controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
	action=offline controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
	action=online controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
	action=assignglobalhotspare controller=id pdisk=<物理ディスク ID> assign=<yes no>
	action=rebuild controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
	action=cancelrebuild controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
	action=removedeadsegments controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
	action=clear controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
	action=cancelclear controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
	action=cancelreplacemember controller=id pdisk=<物理ディスク ID>

omconfig 物理ディスクの点滅

コントローラに接続している 1 つまたは複数の物理ディスクのライト (発光ダイオード、すなわち LED ディスプレイ) を点滅させることができます。1 つまたは複数の物理ディスクを点滅させるには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
action=blink controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。<物理ディスク> 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理

ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 にある物理ディスク 0 を点滅したいとします。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

以下は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

この例で説明した物理ディスクを点滅させるには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=blink controller=1 pdisk=0:0
```

以下は SAS コントローラの例です。

この例で説明した物理ディスクを点滅させるには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=blink controller=1 pdisk=0:2:0
```

omconfig 物理ディスクの点滅解除

コントローラに接続している 1 つまたは複数の物理ディスクのライト（発光ダイオード、すなわち LED ディスプレイ）を点滅解除することができます。1 つまたは複数の物理ディスクを点滅解除するには、次の `omconfig` コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=unblink controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。<物理ディスク> 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を得るには、`omreport storage controller` と入力してコントローラ ID を表示してから、`omreport storage pdisk controller=ID` と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 にある物理ディスク 0 を点滅解除したいとします。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

以下は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

この例で説明した物理ディスクを点滅解除するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=unblink controller=1 pdisk=0:0
```

以下は SAS コントローラの例です。

この例で説明した物理ディスクを点滅解除するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=unblink controller=1 pdisk=0:2:0
```

omconfig 物理ディスクの削除の準備

物理ディスクの削除を準備するには、次の `omconfig` コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=remove controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。<物理ディスク> 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を得るには、`omreport storage controller` と入力してコントローラ ID を表示してから、`omreport storage pdisk controller=ID` と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 にある物理ディスク 3 の削除の準備をしたいとします。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

以下は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

この例で説明された物理ディスクの削除を準備するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=remove controller=1 pdisk=0:3
```

以下は SAS コントローラの例です。

この例で説明された物理ディスクの削除を準備するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=remove controller=1 pdisk=0:2:3
```

omconfig 物理ディスクの初期化

物理ディスクを初期化するには、次の `omconfig` コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=initialize controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

idはコントローラ ID です。<物理ディスク> 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を得るには、`omreport storage controller` と入力してコントローラ ID を表示してから、`omreport storage pdisk controller=ID` と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 にある物理ディスク 3 を初期化したいとします。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

以下は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

この例で説明した物理ディスクを初期化するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=initialize controller=1 pdisk=0:3
```

以下は SAS コントローラの例です。

この例で説明した物理ディスクを初期化するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=initialize controller=1 pdisk=0:2:3
```

omconfig 物理ディスクのオフライン化

物理ディスクをオフライン化するには、次の `omconfig` コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=offline controller=id pdisk=connectorID:targetID
```

id は `omreport` コマンドによって報告されるコントローラ ID、connectorID:targetID はコネクタ番号と物理ディスク番号です。これらの値を得るには、`omreport storage controller` と入力してコントローラ ID を表示してから、`omreport storage pdisk controller=ID` と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 0 の物理ディスク 3 をオフライン化するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=offline controller=1 pdisk=0:3
```

omconfig 物理ディスクのオフライン化

物理ディスクをオフライン化するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=offline controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。<物理ディスク> 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 にある物理ディスク 3 をオフライン化したいとします。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

以下は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

この例で説明した物理ディスクをオフライン化するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=offline controller=1 pdisk=0:3
```

以下は SAS コントローラの例です。

この例で説明した物理ディスクをオフライン化するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=offline controller=1 pdisk=0:2:3
```

omconfig 物理ディスクのオンライン化

オフラインの物理ディスクをオンラインに戻すには、以下の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=online controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。<物理ディスク> 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 にある物理ディスク 3 をオンラインに戻したいとします。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

以下は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

この例で説明された物理ディスクをオンラインに戻すには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=online controller=1 pdisk=0:3
```

以下は SAS コントローラの例です。

この例で説明された物理ディスクをオンラインに戻すには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=online controller=1 pdisk=0:2:3
```

omconfig グローバルホットスペアの割り当て

物理ディスクをグローバルホットスペアに割り当てるには、以下の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=assignglobalhotspare controller=id pdisk=<物理ディスク ID> assign=yes
```

id はコントローラ ID です。<物理ディスク> 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 の物理ディスク 3 をグローバルホットスペアとして割り当てたいとします。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

以下は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

この例で説明された物理ディスクをグローバルホットスペアとして割り当てるには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=assignglobalhotspare controller=1 pdisk=0:3 assign=yes
```

以下は SAS コントローラの例です。

この例で説明された物理ディスクをグローバルホットスペアとして割り当てるには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=assignglobalhotspare controller=1 pdisk=0:2:3 assign=yes
```

omconfig グローバルホットスペアの割り当て解除

物理ディスクをグローバルホットスペアに割り当て解除するには、以下の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=assignglobalhotspare controller=id pdisk=<物理ディスク ID> assign=no
```

id はコントローラ ID です。<物理ディスク> 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 の物理ディスク 3 をグローバルホットスペアとして割り当て解除したいとします。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

以下は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

この例で説明された物理ディスクをグローバルホットスペアとして割り当て解除するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=assignglobalhotspare controller=1 pdisk=0:3 assign=no
```

以下は SAS コントローラの例です。

この例で説明された物理ディスクをグローバルホットスペアとして割り当て解除するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=assignglobalhotspare controller=1 pdisk=0:2:3 assign=no
```

omconfig 物理ディスクの再構成

障害が発生した物理ディスクを再構成するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。ディスクの再構成には、数時間かかることがあります。再構成をキャンセルする必要がある場合は、**再構成のキャンセル** タスクを使用します。物理ディスクの再構成の詳細については、Dell OpenManage オンラインヘルプを参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=rebuild controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。<物理ディスク> 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 にある物理ディスク 3 を再構成したいとします。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

以下は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

この例で説明した物理ディスクを再構成するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=rebuild controller=1 pdisk=0:3
```

以下は SAS コントローラの例です。

この例で説明した物理ディスクを再構成するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=rebuild controller=1 pdisk=0:2:3
```

omconfig 物理ディスク再構成のキャンセル

進行中の再構成をキャンセルするには、次の **omconfig** コマンドを使用します。再構成をキャンセルした場合、仮想ディスクは状態が低下したままになります。物理ディスクの再構成のキャンセルの詳細については、Dell OpenManage オンラインヘルプを参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=cancelrebuild controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。<物理ディスク> 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 にある物理ディスク 3 の再構成をキャンセルしたいとします。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

以下は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

この例で説明された物理ディスクの再構成をキャンセルするには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=cancelrebuild controller=1 pdisk=0:3
```

以下は SAS コントローラの例です。

この例で説明された物理ディスクの再構成をキャンセルするには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=cancelrebuild controller=1 pdisk=0:2:3
```

omconfig 無効セグメントの削除

使用できないディスクスペースを回復するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。無効セグメントの削除については、Dell OpenManage オンラインヘルプを参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=removedeadsegments controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

idはコントローラ ID です。<物理ディスク> 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 の物理ディスク 3 の無効なディスクセグメントを削除したいとします。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

以下は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

この例で説明された物理ディスクの無効なセグメントを削除するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=removedeadsegments controller=1 pdisk=0:3
```

以下は SAS コントローラの例です。

この例で説明された物理ディスクの無効なセグメントを削除するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=removedeadsegments controller=1 pdisk=0:2:3
```

omconfig 物理ディスクのクリア

次の **omconfig** コマンドを使用すると、物理ディスクからデータまたは設定をクリアできます。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=clear controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

idはコントローラ ID です。<物理ディスク> 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 にある物理ディスク 3 をクリアしたいとします。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

以下は SAS コントローラの例です。

この例で説明した物理ディスクをクリアするには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=clear controller=1 pdisk=0:2:3
```

omconfig 物理ディスククリアのキャンセル

次の **omconfig** コマンドを使用して、物理ディスクで進行中のクリア操作をキャンセルできます。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=cancelclear controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。<物理ディスク> 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 にある物理ディスク 3 のクリアをキャンセルしたいとします。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

以下は SAS コントローラの例です。

この例で説明された物理ディスクのクリア操作をキャンセルするには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=cancelclear controller=1 pdisk=0:2:3
```

omconfig メンバー交換のキャンセル

メンバー交換操作をキャンセルするには、次の **omconfig** コマンドを使用します。

完全な構文

```
action=cancelreplacemember controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

id は **omreport** コマンドで報告された物理ディスク ID です。

構文例

コントローラ 0 に接続されているディスク 0:0:1 上でのメンバー交換操作をキャンセルするには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=cancelreplacemember controller=0 pdisk=0:0:1
```

omconfig バッテリーのコマンド

以下の項では、バッテリーのタスクを実行するために必要な **omconfig** コマンド構文について説明します。

表 6-25 omconfig バッテリーのコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプション「名前=値」のペア
omconfig ストレージバッテリー	
	action=recondition controller=id battery=id
	action=startlearn controller=id battery=id
	action=delaylearn controller=id battery=id
	days=d hours=h

omconfig バッテリーの修整

コントローラのバッテリーを修整するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。バッテリーの情報および調整については、Dell OpenManage オンラインヘルプを参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage battery action=recondition controller=id battery=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID およびバッテリー ID です。この値を得るためには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage battery controller=id** と入力し、コントローラのバッテリーの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 のバッテリーを修整にするには、次のように入力します。

```
omconfig storage battery action=recondition controller=1 battery=0
```

omconfig バッテリー評価サイクルの開始

次の **omconfig** コマンドを使用して、バッテリー評価サイクルを開始できます。

完全な構文

```
omconfig storage battery action=startlearn controller=id battery=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID およびバッテリー ID です。この値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラの ID を表示してから、**omreport storage battery controller=id** と入力しコントローラのバッテリーの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 で評価サイクルを開始するには、次のように入力します。

```
omconfig storage battery action=startlearn controller=1 battery=0
```

omconfig バッテリー評価サイクルの遅延

次の **omconfig** コマンドを使用して、指定された期間、バッテリー評価サイクルを遅延できます。バッテリー評価サイクルは、最高 7 日間、つまり 168 時間、遅延できます。

完全な構文

```
omconfig storage battery action=delaylearn controller=id battery=id
```

```
days=d hours=h
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID およびバッテリー ID です。この値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラの ID を表示してから、**omreport storage battery controller=id** と入力しコントローラのバッテリーの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 で 3 日と 12 時間評価サイクルを遅延させるには、次のように入力します。

```
omconfig storage battery action=delaylearn controller=1 battery=0
```

```
days=3 hours=12
```

omconfig コネクタコマンド


以下の項では、コネクタのタスクを実行するために必要な **omconfig** コマンド構文について説明します。

表 6-26 omconfig コネクタコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプション「名前=値」のペア
omconfig storage コネクタ	
	action=rescan controller=id connector=id

omconfig コネクタの再スキャン

コントローラコネクタを再スキャンするには、次の **omconfig** コマンドを使用します。このコマンドは、コントローラのすべてのコネクタを再スキャンするので、コントローラの再スキャンを実行するのと同じです。

 **メモ:** このコマンドは SAS コントローラではサポートされていません。

完全な構文

```
omconfig storage connector action=rescan controller=id connector=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID とコネクタ ID です。これらの値を得るには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage connector controller=ID** と入力し、コントローラに接続しているコネクタの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 2 を再スキャンするには、次のように入力します。

```
omconfig storage connector action=rescan controller=1 connector=2
```

omconfig エンクロージャのコマンド

以下の項では、エンクロージャタスクを実行するために必要な **omconfig** コマンドについて説明します。

表 6-27 omconfig エンクロージャのコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプション「名前=値」のペア
omconfig ストレージ エンクロージャ	
	action=enablealarm controller=id enclosure=<エンクロージャ ID>
	action=disablealarm controller=id enclosure=<エンクロージャ ID>
	action=setassettag controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> assettag=<文字列>
	action=setassetname controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> assetname=<文字列>
	action=settempprobes controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> index=id minwarn=n maxwarn=n
	action=resettempprobes controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> index=id
	action=setalltempprobes controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> minwarn=n maxwarn=n
	action=resetalltempprobes controller=id enclosure=<エンクロージャ ID>
	action=blink controller=id enclosure=<エンクロージャ ID>

omconfig エンクロージャ警告を有効にする

エンクロージャ警告を有効にするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=enablealarm controller=id enclosure=<エンクロージャ ID>
```

id はコントローラ ID です。<エンクロージャ ID> 変数は、エンクロージャを指定します。

以下は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されているエンクロージャのアラームを有効にするには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=enablealarm controller=1 enclosure=2
```

以下は SAS コントローラの例です。

コントローラ 1 のコネクタ 1 に接続されているエンクロージヤのアラームを有効にするには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=enablealarm controller=1 enclosure=1:2
```

omconfig エンクロージヤ警告を無効にする

エンクロージヤ警告を無効にするには、次の omconfig コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=disablealarm controller=id enclosure=<エンクロージヤ ID>
```

id はコントローラ ID です。<エンクロージヤ ID> 変数は、エンクロージヤを指定します。

以下は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されているエンクロージヤのアラームを有効にするには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=enablealarm controller=1 enclosure=2
```

以下は SAS コントローラの例です。

コントローラ 1 のコネクタ 1 に接続されているエンクロージヤ 2 のアラームを有効にするには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=enablealarm controller=1 enclosure=1:2
```

omconfig エンクロージヤ管理タグの設定

エンクロージヤの管理タグを指定するには、次の omconfig コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=setassettag controller=id enclosure=<エンクロージヤ ID> assettag=<文字列>
```

id はコントローラ ID です。<エンクロージヤ ID> 変数は、エンクロージヤを指定します。

この構文では、<文字列> はユーザー指定の英数字の文字列です。

以下は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続しているエンクロージヤで管理タグに encl20 と指定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=setassettag controller=1 enclosure=2 assettag=encl20
```

以下は SAS コントローラの例です。

コントローラ 1 のコネクタ 1 に接続しているエンクロージヤで管理タグに encl20 と指定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=setassettag controller=1 enclosure=1:2 assettag=encl20
```

omconfig エンクロージヤ資産名の設定

エンクロージヤの資産名を指定するには、次の omconfig コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=setassetname controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> assetname=<文字列>
```

id はコントローラ ID です。<エンクロージャ ID> 変数は、エンクロージャを指定します。

この構文では、<文字列> はユーザー指定の英数字の文字列です。

以下は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続しているエンクロージャで管理タグに encl43 と指定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=setassetname controller=1 enclosure=2 assetname=encl43
```


以下は SAS コントローラの例です。

コントローラ 1 のコネクタ 1 に接続しているエンクロージャで管理タグに encl43 と指定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=setassetname controller=1 enclosure=1:2 assetname=encl43
```

omconfig 温度プローブの設定しきい値の設定

指定した温度プローブの最小および最大の警告温度しきい値を設定するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

 **メモ:** このコマンドは SAS コントローラではサポートされていません。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=settempprobes controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> index=id minwarn=n maxwarn=n
```

id はコントローラ ID と温度プローブ ID です。<エンクロージャ ID> 変数は、エンクロージャを指定します。

この構文では、「n」はユーザー指定の温度の値（摂氏）です。

構文例

たとえば、温度プローブ 3 の最小および最大の警告しきい値を、摂氏 10 と 40° に設定したいとします。


以下は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

この例では、温度プローブ 3 はコントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されたエンクロージャにあります。温度プローブのしきい値を摂氏 10 および 40° に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=settempprobes controller=1 enclosure=2 index=3 minwarn=10 maxwarn=40
```

omconfig 温度プローブしきい値のリセット

最小および最大の警告温度しきい値をデフォルトの値にリセットするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

 **メモ:** このコマンドは SAS コントローラではサポートされていません。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=resettempprobes controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> index=id
```

id はコントローラ ID と温度プローブ ID です。<エンクロージャ ID> 変数は、エンクロージャを指定します。

構文例

たとえば、温度プローブ 3 のしきい値をデフォルト値にリセットしたいとします。


以下は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

この例では、温度プローブ 3 はコントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されたエンクロージャにあります。温度プローブ 3 のしきい値をデフォルト値にリセットするには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=resettempprobes controller=1 enclosure=2 index=3
```

omconfig すべての温度プローブの設定しきい値の設定

エンクロージャ内のすべての温度プローブの最小および最大の警告温度しきい値を設定するには、次の omconfig コマンド構文を使用します。

 **メモ:** このコマンドは SCSI RAID コントローラではサポートされていません。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=setalltempprobes controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> minwarn=n maxwarn=n
```

id はコントローラ ID です。<エンクロージャ ID> 変数は、エンクロージャを指定します。

構文例

たとえば、すべての温度プローブの最小および最大の警告しきい値を、摂氏 10 と 40° に設定したいとします。


以下は SAS コントローラの例です。

この例では、温度プローブはコントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されたエンクロージャ 3 にあります。すべての温度プローブのしきい値を摂氏 10 および 40° に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=setalltempprobes controller=1 enclosure=2:3 minwarn=10 maxwarn=40
```

omconfig すべての温度プローブしきい値のリセット

エンクロージャ内のすべての温度プローブの最小および最大の警告温度しきい値をデフォルト値にリセットするには、次の omconfig コマンド構文を使用します。

 **メモ:** このコマンドは SCSI RAID コントローラではサポートされていません。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=resetalltempprobes controller=id enclosure=<エンクロージャ ID>
```

id はコントローラ ID です。<エンクロージャ ID> 変数は、エンクロージャを指定します。

構文例

たとえば、コントローラ 1 のエンクロージャ 2 のすべての温度プローブのしきい値をリセットしたいとします。

以下は SAS コントローラの例です。

この例では、温度プローブはコントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されたエンクロージャ 3 にあります。すべての温度プローブのしきい値をリセットするには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=resetalltempprobes controller=1 enclosure=2:3
```

omconfig 点滅

次の omconfig コマンドを使用すると、エンクロージャの発光ダイオード (LED) を点滅できます。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=blink controller=id enclosure=<エンクロージャ ID>
```

id はコントローラ ID です。<エンクロージャ ID> 変数は、エンクロージャを指定します。

以下は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されているエンクロージャの LED を点滅にするには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=blink controller=1 enclosure=2
```

以下は SAS コントローラの例です。

コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されているエンクロージャ 3 の LED を点滅にするには、次のように入力します。

```
omconfig storage enclosure action=blink controller=1 enclosure=2:3
```

[目次ページに戻る](#)